

たる趣旨より之を見れば豫備費は無論國庫に之を取纏むるを以て得策とす今之を各省に分賦せん乎各省は自己の目的に應ずるに足るべしと思考する金額を請求し勢ひ豫備費總額の金高を膨脹するの結果を來すべし之に反し之を國庫に纏めん乎其總額中より各省が必要に臨み現に需用する金高を支出し之を支辨することを得べくして各省が見込を以て其高を豫算するより比較的小額の豫算金額を以て其目的を達するを得べし

第二目 豫備費に關する制度

我憲法第六十九條には

避くべからざる豫算の不足を補ふ爲に又は豫算の外に生じたる必要の費用に充つる爲に豫備費を設くべし

と規定し會計法は之を受け其第七條に

豫算中に設くべき豫備費は左の二項に分つ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金は避くべからざる豫算の不足を補ふものとす

第二豫備金の支出に就き勅裁の必要あり

第二豫備金は豫算外に生じたる必要の費用に充つるものとす  
と規定し以て其用途を明かにす而して會計規則復た之を受け其第十六條乃至第二十四條を以て細かに其取扱に係る順序方法及制限等に關する事項を規定し殆ど遺憾なきの域に達す看官請ふ之を參觀せよ就中其第十八條の如きは特に注意を促すの價值あるものとす抑々豫備金を以て補充し得べき費途は他働的の者たらざるを得ず若し計畫又は給與等に關する費途に向て豫備金の補充を許すが如きことあらば百弊茲に生じ立法の監督其要を失し議會決議の効用其半を失ふに至らん豈に慎まざる可けん哉而して第二十二條は第二豫備金の支出は勅裁を請ふべきを命ず夫れ第二豫備金は其素質上豫め其項目を定むる能はず其支出は全く豫算外に屬す而して其情態は頗る重大にして責任の係る所甚だ重く支出の金額亦概ね多大なり故に其處措を鄭重にせざるを得ざるや論を俟たず宜なる哉法規の之に留意する甚だ重し其之を國庫に纏めん乎各省に分賦せん乎の問題に付て其得失は既論の如し而して法規亦能く余輩の意を得たり即ち會計法第七條には豫算中に設くべき豫備費云々と規定し會計規則第十六條には  
豫備金は大藏大臣之を管理す



と規定し以て之を國庫に統一することを明にす、豫算亦其編製を法規に受け豫備金を以て大藏省所管の一款とす伊太利の如きは之を各省に分賦す其徒らに豫備金額を膨張し國家に寸功なきは論を俟たず

### 第三目 豫備費の金額

今豫備費の論を終らんとするに當り尙ほ茲に一言すべきものあり何ぞ哉他なし議會に於て百方經費を減せんとするに當り他に減少すべき費目を求めて之を得る能はざるに際し豫備金を減ずる事はなり是れ紙面上の減少にして實際の減少に非ずして固より一兒戯に屬するものとす何となれば元來豫備費は支出すべきの事件起て後ち之を要し而して第二豫備金の支出に屬する費途の如きは假令豫算に其金額なきも到底之を支出せざるを得ざるもの多ければなり若し夫れ臨時必要の費用にして豫備費に依るを得ざらん乎、臨時議會の召集又は責任支出に依らざるを得ず、申譯的の豫備費減少の如きは識者の笑を買ふに止まり當に世に寸益なきのみならず却て多少の勞費を要し施設の敏捷を妨げ不利不便を醸成するの虞あり苟も國家を以て任ずる者の爲すべきの業に非ざるなり、畢竟豫備費の金額は之を既往數年の實況に鑑み其目的を全うするに足るの高を存せざるを得

豫備費の  
減額は實  
際の効力  
なし

ざるなり

### 第四節 機密費、恩給、退職給及補充科目

國家を經營し機務をして敏活ならしめ以て各般の機能を全うせんと欲せば勢ひ多少の機密費を要す若し夫れ浪費濫用の如きは固より大に戒めざるを得ざるなり。今茲に吾人の一言せんと欲する所のものは機密費は之を各省に分賦すべき哉將た又之を一括して以て或中心に置くべき哉之を或中心に纏むるを好しとせば其中心は國家の主腦たる内閣たるべきか又は出納の源泉なる國庫たるべき哉の問題是なり其大體は既に豫備費に就て論じたる如く或中心を求めて是に之を統一するは之を各廳に分賦するに勝れるが如し、而して機密費其者の素質より之を見るに其統一の場所は國庫に非ずして國家の統治機關たる内閣たる哉論を俟たず我國の現狀は多く吾人の冀望に背かず其最多額を内閣に置き陸軍省、海軍省、外務省、内務省の如き最も機敏の働を要し、時に或は一髮の間國家の威信、運命に關するの大事を決せざるを得ざる官衙にありては手元に多少の機密費を有し一呼して支出に應ずるの便なきを得ず、然れども分賦其度を失すれば徒らに豫算金額

機密費は  
主として  
内閣に置  
くとべきこ



恩給扶助料

増加し、而かも世に寸益なし故に事情の許す限り之を一中心に纏むるを宜しとす。恩給扶助料の如きも之を各省に分賦せんと欲せば敢て爲し難きの業に非ざるべしと雖も斯の如きは之を支出の源泉たる國庫に集むるを好しとす。我國の現制即ち是なり。就中恩給の如きは全體に増加の傾ありと雖も又増減過不足の生ぜざるものに非ず。蓋し恩給者は老年者多く頻々缺員を生ずるは數の免れざる所に於て是に減少の因を爲し、又政治上の改革若くは戦争等の起るあれば大に其數を増加し、増減を豫測すること難し故に豫算編製の當時は概して生存者を以て標準とす。今各省に之を分賦するときは各省は歲計全體に通ぜず只管ら自己の責任の缺如せんことを慮り十分の金額を請求するは勢の免れざる所なり故に既論の如く斯の如きものは之を國庫に集むるを好しとす。

休職給

休職給の如きも各省俸給豫算の幾分を割きて之を國庫に纏むるを宜しとす。其効用は恩給扶助料に及ばざるべしと雖も道理に於て差異あることなし而して休職者も恩給者の如く年長者其多數を占るは自然の勢にして又改革其他の政變に際して其數を増加すべく増減の勢ひ恩給の場合に酷似するものあり、只其金高に大小の差違ある耳、而して死傷手當賠償金、訴訟費等の如く、其の支出の有無を確定

する能はず全く他働に依る者にして僅かに一二圓を豫算し所謂補充科目に屬する者も亦之を國庫に纏め各廳は必要ある毎に之が支出を國庫に請求すること、せば緩急相應じ全體に於ては多少の節減を得るの結果を來すべし、又是れ一考の値なしとせざるなり。

## 第五節 補助費

### 第一目 總論

輓近各種補助費の金額大に増加し三十五年度に於ては其額既に千四百萬圓を超過し三十六年度は不幸にして不成立に終りしと雖も其提出豫算に於ては更に増加して千五百二十萬圓餘に達し、三十七年度の提出豫算には少しく減少し三十八年度は時節柄少しく減少せしと雖も尙ほ九百三十萬餘圓を存留し四十二年度は更に増加して千九百七萬餘圓となり、四十四年度は少しく減少して千八百五十萬餘圓となりしと雖も尙ほ積羽縶を沈め群輕軸を折るの虞なしとせず、慮らずんばある可らざるなり。元來補助の得失は經濟論に屬し茲に詳論するを要せずと雖も試に之を一言すれば國家全體の利害に關し世人が之に依て以て其福利を進



補助の決  
算に就て

ひることを得べきもの例へば金融、保険、運輸、通信等の機關の如きは時に或は多少獎勵的補助を要することなしとせず。然れども事一地方、一個人、一會社に關し其成敗利鈍は只當事者の利害に係るのみにして國家の休戚に影響すること薄き者又は利害一地方に止まる者の如き之を保護獎勵するの必要なき哉論を俟たず常に其必要なしに止まらず保護の度高きに過るときは徒らに民財を徴するのみならず國民の自力奮勵の銳氣を挫折し、他力依頼の惰心を生じ國家の進運を妨げ其害勝計し得可らざる所のものあり。然りと雖も大國を治むるは固より變通の策なきを得ず、臨機應變時に或は補助補助の要を生ずることなきを保せず、只其撰擇は之を苟もするを許さず、萬一之を與ふるの必要ある時は宜く決算に就て之を與ふべきなり。豫算を以て之を與ふるときは小額の地方支出を以て之が餌と爲し以て國庫より補助金を釣出すの弊を生ずるなきを保せず、慮らずんばある可らざるなり。

第二目 地方費補助に就ての注意

經費の區別を明かにし濫用を避んと欲せば努めて國費と地方費とを區分し漫りに國費を以て地方費を補助するの例を廢止せざる可らず、大體に於て費用の區分判明ならざるときは、或は國家の豫算に地方的經費を編入し之を全國に徴し以

て一地方に投ずるの不平なきを保せず而して之を受る所の地方は自ら負擔の重を感じざるを以て其使用を慎まず動もすれば濫費の弊に陥り國家の豫算と共に地方の其も亦確實なること能はず、世俗に所謂惡錢身に附ずの譬に漏れざるの弊なきを得ず、此區分明かならざるに於ては地方の事情補助を得るに熱中し自治制の發達得て望む可らず焉。其繁榮を期するを得ん其區分の標準は自ら判明にして多辯を要せずと雖も試に之を一言せば事業の利益一般に普及し單に一地方又は團體個人に止らず其經營は國家の命令に基き地方團體の自由の裁量に任ずる能はざる者は國家の事業と爲し利益一地方團體又は個人に止まり其取捨地方團體の裁量に任ずるを得べき者は地方事業とし彼等の區分に依り其費用の出所を異にせざるを得ず。今一步を進めて實際に就て之を論ずれば國防、郵便、電信等の如きは國家の統一を要し、警察、衛生、土木、教育等の事業は多く地方的に屬す。然りと雖も初等即ち國民教育、窮民救助、國道等の如く其素質國家の管理に屬すと雖も其經營は之を地方團體に委するを以て便とするものなしとせず。是等の事業に對して國家が其費用を負擔、全部若くは一部するは時に或は外面に於て補助補助の形狀なしとせずと雖も其實然るに非ずして當然の費用を支拂ふものなり。此區分を明



収入の増  
加は大に  
望あり

にせずして漫に地方事業を補助せん乎、弊端百出收拾す可らざるに至るは勢の免れざる所なり、慎まざるばある可らず、抑々一地方の補助は全國の負擔となり、全國各部皆補助を望まば國家は何に依て之に應ずるを得ん、補助政略亦窮まれりと云つべし、然りと雖も此區分を全ふし國家の隆盛と地方の繁榮とを促さんとするに先ち大に講究すべきものあり、何ぞや曰く國家的収入と地方的収入とを區分し大に其増加を圖ること是なり、夫れ國家は間税を基とし、地方は直税を基とするは當然の事にして實際の便宜亦是に存す而して我國の收入中前途有望なる者少しとせず、即ち其主要なる者を舉れば森林酒類煙草等の如き、則ち是なり、經營其宜きを得ば多額の財源となるや疑を容れず、今之を先進國の例に徴するに、進歩の餘地綽々として存するものあり、即ち西曆千九百八年度の精算に據れば、英國の酒類純收入は總計凡四億三千四百廿五萬圓、内地税三億三千二百六十餘萬圓、輸入税約五千八百二十萬圓なり、にして煙草輸入税約一億三千八百廿四萬圓、佛國の煙草專賣は約一億八千八百三十萬圓の收入を生じ、普漏西の森林收入の如きは約六千六百七十五萬圓を生じ、西曆千九百八年度の豫算に於ては六千七百四十萬圓を計上す、我國の國情決して彼に劣らず、豈に努めざる可ん哉、其他地價差増税の新設、關税、登録税

獨占事業  
及特別賦  
課の收入

印紙税、所得税等の改正を以てせば、優に一國經營の收入を得るに足らん、而して必要の生ずるあらば、施すべきの策少しとせず、臨機應變の事、固より机上に談ずべきに非ざるなり、而して地方の爲には、直税收入の増加を計り、差増税、登録收入等、特に市府に於ては、諸獨占事業の收入を納め、米國流の特別賦課（スペシヤル・アクセスメント）を加味し、以て諸般の經營施設に充當せば、我國各般の施設は先進諸國の如く多數の障礙あることなく、期年ならずして其面目を改むる哉、疑を容れず、此の如く深根固本の策一たび立つに於ては、凡百の施設次を以て進行するを得べく、資理興邦の業一に吾人の克勵に屬す、豈に努めざる可けん哉

### 第三目 補助費は集めて一款と成すべし

若し夫れ補助補助を必要とせん乎、豫算編製上其金額を主管の各廳に分たず之を國庫に纏めて一款とし、之を受くる所の各實體を項とし、一目瞭然其總高と其事物とを明にするを要す、若し夫れ然らずして其目的の事物と金額とを各其主管廳に分賦するに於ては、國民全體は勿論、議會と雖も或は其全豹を窺ふに便ならず、管に一斑を見て其取捨を決し、臍を嚙むの悔なきを保せず、我國の現制は之を各廳へ分賦す故に豫算上に其全體を知るに便ならず、輒近政府は特に總豫算説明中に之



を表出し以て世に公にす、世人之を見て漸く相戒むるの状なしとせず。論者或は云ん之を國庫の一款となすは甚だ可なり、茲に百尺の竿頭一步を進めて補助の種類を以て項とし、項中目を以て目的の事物を分たば、流用の實茲に開け、國費節減の意に副ふを得べしと、是れ一理なきに非らずと雖も、斯の如きは便に過ぎて檢束の効を失ひ、目中に於て無數の紛糾を醸發し、弱は強の肉となり、豫算執行中其議決の意に反するの結果を生ずるの虞れあり、變通の策を用ゆる須らく、事物の撰擇を慎むべし、紛糾の憂ある者の如きは、假令膠柱の譏を免れざるも、寧ろ頑然墨守の策を探るを好しとす、是れ所謂不動中の動にして、亦一種の變通法たるを失はず、虚々實々玄妙の術此間にあり、一片の理論可は即ち可なりと雖も、鯨鯢を切り小鮮を煮る術自ら異なり、豈に彼を以て是を推すを得ん哉

## 第六節 數年度に亘る經費

### 第一目 繼續費

#### 一 繼續費の必要

歳計豫算は一年度の經營に關し、後年度の費目に係るべき者に非ずと雖も、抑々

國家の經營は至大至廣大體の通義を踏むと同時に、變通の道を講ぜざる可らず、事業の素質及其規模の如何に依りては、勢ひ後年の策を定めざるを得ざるなり。是に於てか、憲法は特に繼續費の必要を認め、其第六十八條に

特別の須要に因り、政府は豫め年限を定め、繼續費として帝國議會の協賛を求むることを得

と規定し、以て變通の道を開けり。今試に其必要を説ん、例へば國防の爲に砲臺を築き、或は戰艦を製造するの要ありとせん乎、其事業の雄大なる其設計の精密なる到底一兩年を以て其竣功を期するを得ず、又鐵道の敷設、軍港、要港、商港の開鑿等の如きは數多の歲月を要す、若し夫れ是等の事業に要する費用を毎年度の豫算を以て需ん乎、其間不幸にして議會の解散あり、又は議會が初年度に於ては協賛を與へ、次年度に於ては之を否決するが如き事あらば、國家は非常の不利を蒙り、大不經濟の結果を來す哉、多辯を要せず。元來國家立法の大任に當る所の議會が斯の如き前後撞着の行爲に出るは、理に於て有る可らざる事に屬すと雖も、個人怒るときは道理を失ふと一般多數人の團體も其憤怒するときは道理を失ふことなしとせず、或は勢に乗じて狂奔し、個人の場合より層一層怖るべきの現象を呈するは、天下の事



實にして史乘其例に乏しからず天下の事、事大小となく豈に番に理勢如何に依てのみ之を律するを得ん哉、慮らずんばある可らざるなり

## 二 繼續費濫設の弊

繼續費の設置は斯の如く深遠なる主義に依るものなりと雖も時に或は濫用の弊なきを得ず、元來一事業を擔任する者は概ね國家の利益を達觀するに精ならず、自己擔當の事業に熱中し成べく完全に成べく容易に成べく敏速に之を成就せんとするは其常情にして固より宥恕すべきものなしとせず而して議會亦或は地方特殊の關係に依り或は微妙明言す可らざるの事情に驅られ必要ならざるに容易に繼續費に左袒することなきを保せず若し夫れ特別已を得ざるの必要あるに非ずして漫りに繼續費を許さん乎、是れ財政の屈伸を奪ふものにして非常の不便を來す哉、多辯を要せず、夫れ國家は活物なり豈に變通機宜を制するの策なかる可ん哉、一斑の爲に全豹を害するが如きは固より不可なり而して我國繼續費の編製亦完全と云ふを得ず、請ふ少しく之を辯ぜん

## 三 繼續費豫算の編製

方今繼續費編製の方法たる其初年に於て總額と年割額とを議定し將來數年に

如何に改  
むべき哉

亘るの年額を當初に於て確定す故に其年割額實際の必要に伴ふを得ず屢々年額變更の必要を生じ多少の物議を免れず、加之場合に於て國家の計畫を遠き將來に亘り天下に發表するは其利益に於て疑なき能はず、斯の如きは大體の施設に於て不可なるものなしと云ふを得ず而して財政上より之を論ずるも繼續費の如きは多くは臨時費に屬し其費用を國債に求むるもの多し故に當該年度の國債募集額を示すは或は免れ能はざる所なるべしと雖も將來數年に亘り豫め募債の額を示すは固より策の得たるものに非るなり況や年額屢々變動し市場を誘惑するの虞あるに於てをや故に繼續費は漫に之を許すを得ざるは勿論、其設置を要する場合に於ても其總額と年數及初年度の額とを定め次年度以降の金額を當該年度を竣て之を定むるを好しとす

## 四 豫算不成立の場合にも差支なし

論者或は曰はん果して斯くの如くなれば豫算不成立の場合に於て繼續費の効用を失ひ國家は非常の不便に遭遇すべしと、是れ其一を知て未だ二を知らざるの説にして固より取るに足らざるなり、知るべし我憲法に於ては豫算不成立の場合に於ては政府は前年度の豫算を執行するを得るものにして繼續費と雖も前年度



の金額までは當然之を使用することを得べくして決して論者の憂ふる如く事業中止の不便を來すことなきも只だ多少の過不足を生ずるは蓋し已むを得ざるの數なりとす。加之豫算の不成立の如きは事の變體にして成立は其常體なり。天下の事豈に變體を主位とし常體を客位に置くを得ん哉。論者又或は云はん不幸にして不成立兩三年度を繼續せば即ち如何然れども斯の如きは既に正當の代理者を定め其代理者に疾病事故あるときは如何と云ふが如きものにして固より是れ杞人の憂たるを免れず。豈に堂々論戰を爲すの價値あらん哉。抑々事を論ずるは常況に據らざるを得ず。偶發天下の大勢に關係なき孤獨の事項を促へ來て之を論據とし、或は實際有り得可らざる事項を想像し以て立脚の地を得んと欲するが如きは是れ徒らに言を好む者に非ずして何ぞ哉。

五 繼續費の増進及其年割額變更の實況

斯の如き繼續費の効用は國運の進歩を圓滑にし國家の大計に於て固より必要缺く可からざるの設備なりと雖も利のある所弊害之に伴ふの譬に漏れず其濫用は財政の屈伸を妨げ市場を誘惑す而して其方法如何に依りて或は政略上の不便を醸成し、或は募債の不利を來すの虞なしとせず、豈に慎まざる可んや。然るに近年

増進及年割額變更の實況

我國の實況は學理の指導に隨はず吾人の冀望に伴はず繼續費の設置年に多を加へ而かも其變更の頻繁なる大に戒むべきものなしとせず、請ふ試みに其實況を左に表出せん

一般會計繼續費

第一表

	四十一年度	四十二年度	四十三年度
豫算額	一〇〇、三四八、〇三八	六四、六七、九四五	五、二六三、八一七
前年度繰越額	六、六六二、二九〇	六〇、七六一、八三七	五三、八五九、九九
決算額	一〇〇、一〇二、八八七	七〇、三三三、六八九	七〇、四九三、四三一
翌年度繰越額	六〇、七六一、八三七	五三、八八一、五五九	三六、九九八、三八一
不用額	一、〇三五、六〇五	一、二六五、五三三	六三三、〇三三

備考

四十二年度翌年度繰越額の内四十三年度に於て年割額を廢せしものあり貳萬千六百四拾圓を減す

第二表



繼續費各年度割の現状

	變	更
四十三年度	五、二六三、八一七	
四十四年度	五、八二五、七五三	八三、〇七九、九九七
四十五年度	五、一〇三、三七一	八六、七〇三、五八三
四十六年度	四九、三七三、一四八	八三、八六六、六三八
四十七年度	四六、一六一、七一一	八一、九五三、六〇五
四十八年度	五五、五一、一〇〇	七〇、七七九、八三三
四十九年度	二九、〇三六、九三九	三四、〇〇八、八八五
五十年度	一五、三六五、四三六	三三、一六〇、二四八
自五十一年度	三六、二六一、三五〇	六十一年度迄 一六、二五八、〇九六
至五十六年度	四〇六、八九〇、六二七	五七七、七五九、八七四
總計		

繼續年額の變動に就き既往の實績夫れ斯の如し、而して其期間の延長甚しく其間變更なからんと欲すと雖も豈に得可ん哉。諺に曰く來年の事を云へば鬼が笑ふと、夫れ然り今若し十數年後に係る事項を論ぜん乎、只に牛頭馬頭の冷笑を買ふのみならず閻魔と雖も其威嚴を保つ能はず呵々大笑閻府爲に震動するに至らん、繼

續費の事豈に夫れ注意せずして可ならん哉。政府も是に見る所ありて三十六年度提出豫算には其改正を試みたり、不幸解散の爲め其目的を達せざりしと雖も既に改正の端緒を開き三十八年度提出豫算は本目所論の趣旨に基き編製せられしと雖も惜ひ哉議會の容るゝ所と爲らず爾來尙ほ改めず豫め搔て痒を待つ所の愚に陥り依然として舊式を存す、今事の解し易からんが爲め左に表を掲げ聊か看官の便に供せん

第二目 豫算外國庫の負擔となるべき契約

茲に又其素質趣旨を異にすと雖も其目的稍々繼續費に類し國庫後年の負擔を一齊に一年度に於て定むるものあり何ぞ哉、豫算外國庫の負擔となるべき契約を爲す事はなり、是れ帝國憲法第六十二條第三項に

國債を起し及豫算に定めたるものを除く外國庫の負擔となるべき契約を爲すは帝國議會の協賛を経べし

とあるに基ぬし學術教員の招聘出版物の繼續購入等の場合に適用するものにして、立法の意蓋し國家をして支拂義務の履行に差支へなからしめんとするの注意に出るものにして其主趣に於て固より間然する所なしと雖も適用其度に過ぐれ



豫め年度  
外に渉る  
費用を定  
むるの必  
要

ば是れ亦多少後年を束縛するの結果なしとせず抑々議會は毎年之を招集し毎年度の費途を議せしむる者にして毎年度の費途は毎年新に其議定する所と爲るを當然とす區々の事情の爲め後年の財政行爲を束縛するは憲法の要議に背き實際の運用に便ならず畢竟前記繼續費及本節所論の契約の如きは固より除外の便宜法なるを以て其適用は可成之を狹隘ならしむるを原則とす適用其度を得ざれば則ち財政の弾力を奪ふの虞れあり抑々歳計豫算は議會集會の始に於て之を提出すべきは會計法の命ずる所なり而して議會は毎年之を召集し其開會の始に於て豫算を議せしむる所以のものは立法の意先づ歳計を豫定し之に依りて一週年の謀を定むるを期するに在る哉歴然として疑を容るゝの餘地を存せず故に特別の必要なくして豫め後年の費途を定むるは法の精神に違ふものと斷言するを憚らず況や爾後數年に亘り其金額を定むるに於てをや

### 第七節 工事費及物品材料の供給

#### 第一目 工事及物品供給の集中

前節記載の繼續費に依る所の大工事は勿論普通官衙の工事及物品材料の供給

各應は應  
急工事の  
みに従事  
す

目下は甚  
だ不便な  
り

に就て尙ほ大に論ずべきものあり請ふ少しく之を述べん餘言は暫らく之を措き今中央に政府の工事及物品供給の任に當る所の一局を設け法規を嚴にし官紀を肅にし之をして建築大修繕及普通の備品消耗品供給の事を掌どらしめ各官衙の新營修繕備品消耗品に係る費用及之を掌る所の技師技手書記等の俸給を此中央機關に集め各官衙に於て新營修繕及物品の需要あるときは此の中央局に其設計計畫を依頼し又は物品の需要を爲し各廳に於ては雨漏風防等の如き應急の小修繕のみに従事し且つ各廳に於て不用に屬する物品は之を中央局に復歸するものとせば變通の便大に開け多額の經費を節するを得べき哉疑を容れず英國の如きは中央に工事局なる者ありて各廳の工事を掌り併せて物品供給の任に當る故に事能く其目的に副ひ浪費濫用を防ぐ上に於て大效あり往時我國に於ても工部省の設けありて土木工事を司掌したるの例あり今少しく之が規模を擴張し砲臺艦船の建築等兵事秘密を要するものは固より除外せざるを得ずと雖も内外古今の例に鑑み前記の一大局を中央に設置せば之を現制の如く各廳に分ち各々吏員を備へて之に當らしむるに比して其利害固より同年の論に非ざるなり斯の如くせば各廳建築の大小精粗其分を得べくして事始めて其目的に副ひ使用の物品又



其品等を均ふすることを得べし。方今各廳の建築修繕宜しく精なるべくして精なるを得ず、粗にして其目的を達するを得べきも壯麗結構共に分に過るものなしとせず、物品亦品等を均ふせず、或は封筒脆弱に失して郵務當局却て不便を感じ、或は紙質堅韌吏員開封に苦しむの例なしとせず、而して試験室の建築設備の不完全なるに代へ、講義室の美麗堅牢に驚くの場合なしとせず、斯の如き不倫の奇觀は中央工事局の設置忽ち之を醫するを得べし。加之現制の下に於ける技師、技手の配置は其當を得ず各廳に適任者を得ること難くして一廳に敏腕熟練の士を得以て牛刀の感あるも他廳に於て擔任の士其術に堪能なる能はざるの歎なきを得ず又一廳に於て事務閑散にして吏員脾肉の歎あるも他廳に於ては事務繁劇奔命に疲るゝの憂なしとせず其間兼務囑託等の事行はれ多少事情を緩和すべしと雖も之を一局に集むると其便否果して如何、智者を俟て後ち知らざるなり

政府の工事及物品供給の一局を設くるの便益瞭然争ふ可らざるは既論の如しと雖も茲に又一他の便利ありて存す、他なし仲人の使用を減じ需用物品を一齊大口に購入するを得るを以て口錢を省き割引を得隨て廉價を以て需用品を得る事是なり、物品の購買巨多なれば水陸運送費に於ても亦割引を得るの便あり是れ經

大口の購買

外國の例

費を減少するの一端たり、而して仲人を省略するの利は只に口錢の關係のみならず官紀取締の上に於て間接の利益なしとせず、茲に於て哉李國に於ては兵餉は成べく之を附近農民より購求すべし、又兵餉購入の爲には特に繰上支拂命令を發することを得るとの規定あり、夫れ國庫の計算は利子勘定の爲に拘束を受けず之が爲め特に大藏省證券を發する場合の外繰上命令國庫の爲め何かあらん露國に於ても兵餉を直接に農民より購入するの例あり、是れ農民保護の主意に出るものなりと雖も亦以て仲人使用省略の一例たるを失はず國家大兵を養ふに當りては經費の節用と生産者保護とに鑑み一考の値なしとせず、然りと雖も弊害は不測の邊に發す一齊大口の購買亦常に弊なきを得ず弊一たび生ずれば小口競争の方法復た之を試みざるを得ず故に大口の購買を試みると同時に競争の方法亦之を廢するを得ざるは勿論なり、夫れ國家の歲計は兵餉の大なるより紙屑の小なるに至るまで羅拉して以て漏すことなきを要す軍備の大を論じて紙屑の小なるを忘るるは財政其精を得たるものと云ふを得ず故に各省の紙屑も之を取纏めて中央物品供給局に送附し、同局に於て之を漉き返して諸般の用紙に充るを好しとす、外國に於ては銀行と雖も尚且つ注意を紙屑に及ぼすものあり、一銀行にして既に然り

大小漏す可らず



政府紙屑の貴重なるを知るべき耳、豈に之を輕々看過するを得ん哉、而して政府收入の大部分は固より税金より來るものなり、事細微に涉ると雖も費用を節し納税者の利益を保護せざるを得ざるは固より論を俟たざるなり

### 第二目 山林の利用

中央土木供給局に附屬し材料供給の事亦大に攻究せざるを得ず、元來土木建築の事業は巨額の材料を要す、鐵道の枕木、電務の電柱に於ける孰れも木材を要する夥多にして、其他各廳の修築修繕に要する木材實に少しとせず、然るに是等の材料を普通の歳入を以て購入するが如きは計畫其宜きを得たるものと云ふを得ず、國家にして山林を有せざらん乎、吾人亦何を乎云ん、國家若し豊富なる山林を有するに於ては何ぞ輪伐區域を定め、自己所要の材木を自ら供給するの道を講ぜざる、自ら其術を盡さずして民財を徴するが如きは固より策の得たるものに非ざるなり、宜く國中須要の場所を選び數多の貯木所を設置し、伐截の好季に於て輪伐區より木材若干を伐出し之を貯木所に收容し、自然の乾燥に人為の乾燥防腐の術を加へ、倉庫出納の爲には一の特別會計を設け、以て出納を明にし、各廳は豫算額以内に於て其需用する所の木材を倉庫に需め、倉庫は木材を拂出し、領收證を受け、之を國庫

利用の方









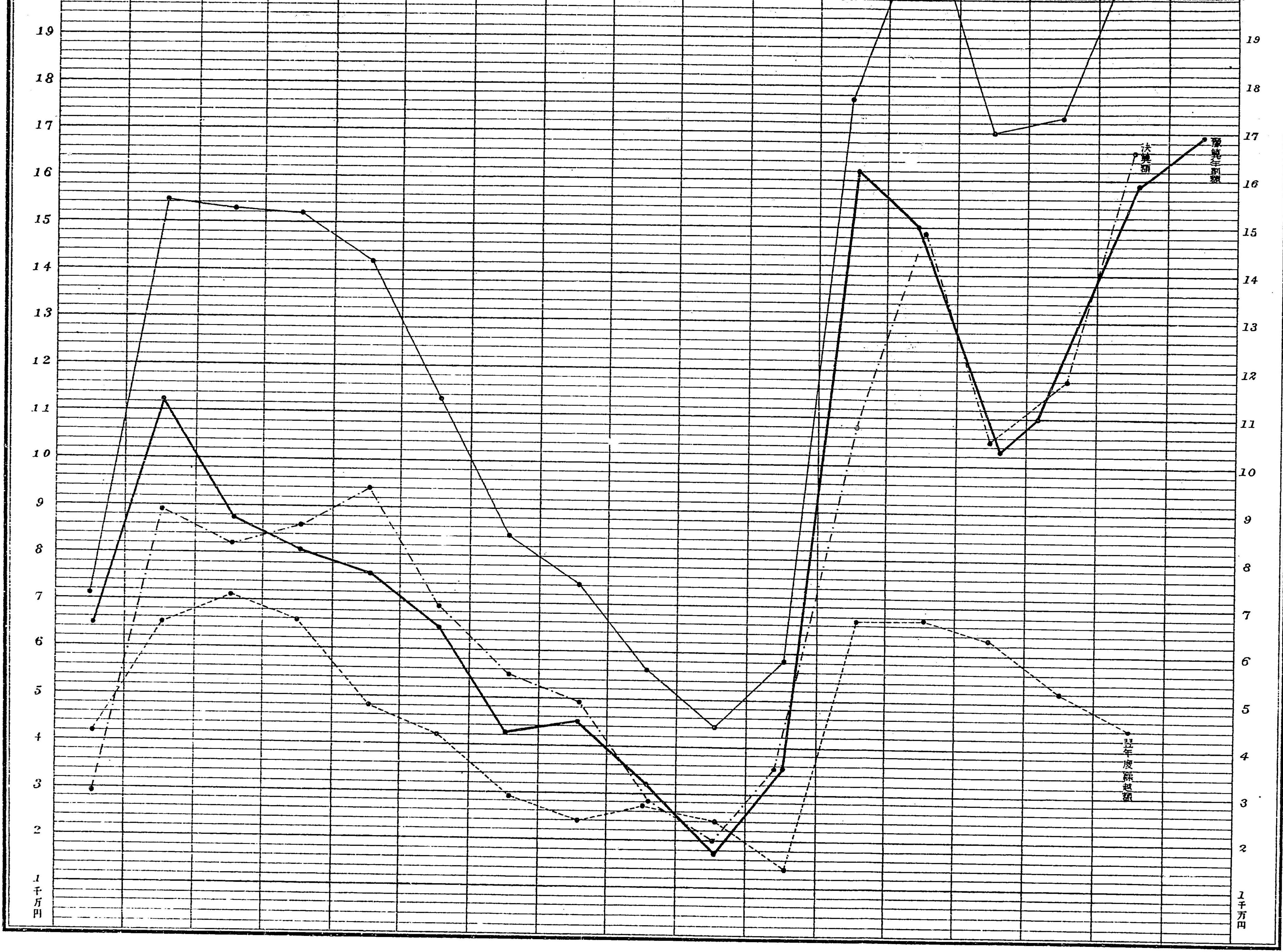


繼 續 費 累 年 統 計 圖

第三表ノ二  
備考 特別會計ノ繼續費ヲ併







1千円

1千円



に納付するときは一錢の現錢を要せず民財を徴せず、單に物品收入を以て國家の收入を増加し巨額の木材を供給するを得べし而して餘材あれば之を民間に賣却し以て國家の收入を増加する亦可なり、物品收入の例は沖繩縣の砂糖、琉球飛白、八丈島の八丈縞等にあり之を行ふ實に易々たる耳、晚近歐米先進國に於て木材防腐の術大に行はれ則るに足るもの少なからず以て大に利用すべきなり而して森林收入の事豈に木材に止まらん哉、竹材の如き亦其一要部たり即ち治水工事に於ける蛇籠製造の如き竹材需用の大部を占むるものにして舊幕府時代の如きは頗る之に留意し有名なる竹藏の設けあり殊に艦材の伐截貯蓄に就ては最も周到なる注意を示せり、古人の國家經綸の衝に留意する深しと云つべし、輒近各國に於て建築造船等の材料として金屬を使用すること頗る多く殊に鋼の使用夥しく一見木材の使用を減ぜしに似たりと雖も其實大に然らず、人口の増加と人文の發達とは木材の使用に愈々増加を來し電柱、枕木、鑛山用杭柱、道路建築用片木(ブロック)、摺付木軸、製紙原料、塞子用等往時に於て木材の需用甚だ少なく又は全く之なかりし方面に於て其需用夥しく年々其多を加へ専門家の調査に依るに其消費高之を四十年前に比するに正に二倍を増加せり、是に於て各國銳意山林事業を經營し其結果

木材の需用及外國の例



頗る見るべきものあり、今其一二の例を擧ぐれば西曆千九百八年度の豫算に於て  
 幸漏西の山林原野の収入は一億三千五百八十萬餘馬の巨額に達し、佛國の如き山  
 林に名なき國にても尙ほ同千九百十年年度の収入豫算高は二千五百四十五萬餘圓  
 にして其林業の進歩の如きは近年殊に顯著なるものあり、西曆千九百年の巴里萬  
 國博覽會に於て佛國林業の出品は大に世界の人目を惹けり、抑々木竹材の伐截貯  
 蓄は國家經濟の一部にして輕々看過すべきの問題に非ず、宜しく古今内外の事例  
 に鑑み學術の應用に怠らず、天然の利益に従ひ人爲の術を加へ、前述諸般の利益を  
 收め以て國家の収入を援助し併せて森林事業の發達を期すべきなり、今哉我國森  
 林は殆ど睡眠の状態に陥り四十四年度の豫算に於ては僅かに千五十四萬四千餘  
 圓を見込み森林資金繰入の約二百七十六萬圓の如きは臨時收入にして永久の者  
 に非ず漸次減少を告げ將に數年を期して皆無に歸すべきものとす、今試に英獨等  
 森林經濟及其收入の一二の例を擧げて之を我國の情況に比するに天淵晉ならず  
 則ち英國の一貴族に屬する二百八「エイカ」一「エイカ」は四反二十四步強の森林地は  
 嶮岨なる山腹にあるも方今一年「エイカ」二圓五十錢の地代を得るは實に易々た  
 る事に屬す故に今之を三十年基礎にて還元すれば其價格は七萬五千圓となる而

我國の山  
林に睡眠  
あり

外國に於  
ける森林  
經濟の實  
況

して之に殖林して途中にて透切を爲し得る所の収入は約四萬五千圓なるべくし  
 て五十年内に得る所は實に十九萬圓となり「エイカ」に付約九百十圓を得べくし  
 て殖林費は五十圓なりとす又獨逸のハルツ山林収入は「エイカ」一年七圓「サイレ  
 ジャノギリアント」山林は十圓にして「スウイツランド」のツールヒ市所屬の山林に  
 於ては純収入十五圓なり而して獨逸の國有山林の収入は上級下級の平均「エイ  
 カ」に付純収入五圓五十錢、面積は一千萬「エイカ」凡そ國土の二割六分而して之に依  
 り生活する者は約十萬人なりとす、之を我國方今の一町步約二圓十五錢に比し實  
 に同年の論に非らず進て純収入を見るときは實に云ふに忍びざる所のものあり  
 (三十九年度の如きは前年度に比し十五錢前々年度に比し十七錢を増加せしに拘  
 はらず一町步の収入六十七錢雜費二十六錢を要せり)加ふるに我國人士の森林を  
 愛せざる實に驚くべきものあり其濫伐盜伐の甚しきは論なく今之を清國漢口枕  
 木貿易の實況に徴するに我國より輸入に係る者は概ね生木にして只に適當なる  
 防腐術を施さざるのみならず乾燥不十分にして黁を生じ易く輸入總額一割の不  
 合格品を生じたるの實例あり(是れ三十五年七八月頃の實況なり)爾來見るべきの  
 進歩なく三十九年に於て日本産の枕木一本の代價は凡そ一圓二十五錢にして米



國産因に記すオンタリヲに於ける材木の價格は西曆千八百九十三年の「ロード」五十一立方尺弱八十志より同千九百七年十一月の百二十七志に騰貴せり、佛國産に比較し六割乃至七割の低價なるも輸入者は尙ほ我國産を排して已まざるの勢あり。是れ他なし米國産の者は代價高しと雖も燥乾十分にして適當の防腐術を施し耐久力に於て我國産に三倍するを以て敷設後修繕等の手数を要する少きの利あるに由る（日本産は二年乃至三年）木質に於て天然の不利あれば之を林業根底の改良に埃つの外なしと雖も單に乾燥及防腐劑等に不注意なるが爲め此不利に陥り、彼の一本の伐木に對し我は三本を伐截せざるを得ず、剩さへ輸入品一割の不合格を見るが如きは實に吾人の遺憾とする所なり。况や輓近の報告に依るに検査輸入濟のものと雖も尙ほ且つ釁を生じ其使用を嫌惡するの情益々加はるの勢あるに於てを哉、其不經濟にして經濟宜を得ざるや論なき耳、然りと雖も我國森林の實力豈に今日に止まらん哉、其力能はざるに非ずして施設未だ其全を得ざるなり、前途の多望なる多辨を要せず、我政府も茲に見る所ありて三十八年度豫算に於て新たに國有林作業費なる一款を設け從來の立木賣却の方法を止め伐木製材の費用として二十八萬餘圓を請求し議會亦之を可決したるは林産物利用の爲め一步を

進めたるものと云ふを得べし、爾來少しく經營する所ありと雖も四十四年度の森林費豫算は四百五十二萬餘圓にして國有林野經營費は約二百七十六萬圓なるに對し収入は前記の如く尙ほ僅かに千五十四萬四千餘圓に止まり頗る不振の成績たるを免れず（右の外北海道に約三十九萬餘圓の森林費あり）

## 第八節 臨時収入と經常費との關係

### 第一目 總論

國家の歳入歳出に經常臨時の區別あり、我會計法夙に之を認め其第六條に歳入歳出の總豫算は之を經常臨時の二部に大別し各部中に於て之を款項に區分すべし

と規定し經常費は國家保存の爲め要する恒久の費用を支辨し臨時費は一時特定の事件又は事業の費用支辨の爲に要する者たるは世人の熟知する所なり、夫れ然り然らば即ち臨時収入を以て經常費を支辨するの不可なる知るべき耳、抑々財政の鞏固を保たんと欲せば出納の實況番に經常収入を以て經常費を支拂ふを得るのみならず臨時費と雖も其幾分は經常収入を以て之を支辨するを得るの域に在



らざるを得ざるなり何となれば日進の世運に際會しては事物の改良進歩の爲め頻年臨時費を要し其素質に於ては依然臨時費たるを失はずと雖も事實上經常費用と其選を異にする能はざるもの多ければなり而して一國の財政にして經常收入を以て臨時費の大部分を支辨するの地位にあるを得ば夫れ之を財政の鞏固を保つものと云ふを得べし財政基礎の鞏固と財政經理の完好とは自ら特別の事に屬す看官請ふ之を諒せよ)

第二目 臨時收入の實質

經常歳入と臨時歳入の實質は世人の熟知する所にして之を噉々するを要せずと雖も今試みに臨時歳入の著しき者を舉れば國債募集金、諸種の寄附金、官有財産の一時若くは年期付の賣却代價、森林の臨時伐木賣却代、不用品賣却代等なり而して外國より受る所の償金の如きは時に或は巨額に達する場合なきに非ずと雖も是れ固より臨時中の臨時に屬するものにして財政金融の問題に於ては之を論外に措かざるを得ず、臨時收入の實質夫れ斯の如し之に依り經常經費の支辨を計るの不可なる論なき耳

第三目 恒久の費用支辨は臨時收入に依頼す可らず

經常經費とは經常收入を以て之を支辨せざるを得ざるは論を俟たず、今個人の場合を以て之を例せんに茲に一家主あり其恒産より生ずる收入を以て一家の計を爲さず借金若くは所有財産の賣却代價を以て其費用を支辨せば期年ならずして倒産するは多辨を要せず其の他人の寄附を待つが如きに至りては愚に非ずんば即ち狂固より一顧の値なし、國家の事豈に之と異ならん哉、自ら生産を増さず他國の購買投資を待つ豈に危ふからずや、西曆千八百四十八年の佛國の革命たる其原因種々ありと雖も當時財政頗る困難にして數箇年の間短期公債を以て之を彌縫し終に情顯はれ勢屈して如何ともする能はず是に一大破綻を生ずるに至りしは其一大原因にして之を史乘に照して明かなり慎むべく惧るべきの至なり

臨時收入を以て經常費を支辨する事の不可なるは大體に於て既論の如し、然れども國家に事變あるは猶ほ個人に災害疾病あるが如し幸にして事變小なるときは或は經常費を節して之に應ずるを得べきも事變少しく大なるに至れば到底其費用を經常收入のみに取るに能はざるは數の然らしむる所にして終に臨時收入に依らざるを得ざるは固より數の免れ能はざる所なり、國家の事豈に變通の策なからん哉、然りと雖も事苟くも臨時の素質を帶ぶれば其費用は必ず之を臨時收

國家の事變に同時に大に其費用を戒めざる可からず



入に取るべしと云ふが如きは固より失當の事に属す臨時費と雖も鐵道、電信、築港、運河等の如く事建設的の計畫に出る者の費用は成べく之を經常收入に取り累を後世に貽さざるを好しとす若し夫れ兵亂騷擾天變地殃等の如く豫想するを得ざる者に對しては臨時收入を以て之に應ぜざるを得ざるは蓋し已を得ざるの數なりとす然れども運輸通信事業等の如き大工事に向つて漫に後世を利するを名とし公債を起し事の成敗利鈍を慮るに精ならざるときは後生は其利を收むる能はず却つて其負擔の重きに苦しみ其發達を妨げらるゝに至るなきを保せず後世は後世相當の負擔なきを得ず然るに之に加ふるに祖先失策の結果たる餘殃を以てせば夫れ將た何を以て乎其發達を期するを得ん慎まざるばある可らず

第四目 我國の近況

一國の經常收入の状態が大體に於て佳良にして苛政收歛の跡なく優に其經常費を支辨し尙ほ多少の餘裕を存し臨時費を償ふの餘力あらば其財政は則ち安然鞏固なりと云ふを得べし我國財政の近況は明治廿七八年戰爭前の如く寛裕なるを得ず増税の必要を生ぜしこと一再に止まらず債額亦頗る増加せしと雖も經常費臨時費の關係は近年までは財政の鞏固を保つを證せり請ふ左に明治卅一年後

の實況を表出せん

第四表

年	經常歲入出		臨時歲入出	
	左	右	左	右
三一 (決算)	一三二、八六九、三三五	一九〇、七二二、一四四	八七、一八四、七九一	一〇〇、六八五、四二四
三二 (全上)	一六七、六二七、二六七	一三七、五九〇、四一七	八六、六二七、二五七	一〇六、五七五、一一九
三三 (全上)	一八〇、五〇九、五一八	一四九、一三四、一六八	一一五、三四五、三四九	一四三、六一五、八九二
三四 (全上)	一九〇、三六四、八三六	一六〇、三六三、五八二	八三、九九四、二一三	一〇六、四九三、二四一
三五 (全上)	二〇九、五九一、七三五	一七一、〇五九、八〇七	八七、七四九、六八八	一〇八、四九三、二四一
三六 (全上)	二〇九、二八八、〇〇〇	一六七、七二一、二四六	一八、一六六、九二二	八七、七四九、六八八
三七 (全上)	二四七、四〇六、九四四	一六七、七二一、二四六	四七、五一七、五九五	七九、七一一、二四七
三八 (全上)	二二六、九六三、七八九	一五七、九六三、七八九	八〇、〇五九、九九一	一五〇、〇九一、八九三
三九 (全上)	二七三、五八四、六五一	一五六、六八一、四〇三	二六一、六七一、七四〇	二六四、〇五九、八〇一
四〇 (全上)	四四四、八九八、二五一	三三九、九五四、二三四	八五、五四九、五五五	一二四、三二一、三〇五
四一 (全上)	四九二、二八七、〇三六	三九八、五六八、一〇五	三六四、七九六、七七五	二〇三、八三二、八五二
四二 (全上)	五〇九、八六二、八九六	四〇九、二四五、九二二	二八五、〇七四、二七四	二二七、一一五、一七一
四十二 (全上)	四九一、三三一、二二七	三九四、一九三、一三七	一八一、五四二、四五一	一五七、一四四、八四八

軍事費は略す



四十三 (豫算)  
四十四 (全上)  
四十五 (全上)

四八三、九九八、二六六  
四一三、一三一、六二六  
四九四、九一六、四九七  
四一〇、一四一、八七五  
五〇二、五九七、一九六  
四一二、〇七三、八六三

四七、五〇七、七四八  
二二、一七二、二三九  
一七三、九八七、四一九  
一五八、七六二、三九〇  
七二、三七九、七九九  
一六三、九〇三、一三二

由是觀之我國財政は往年に於ては頗る順況を示し明治三十五年度は經常歳入出の間に三千七百餘萬圓の差違あり、三十四年度の如きは經常費を以て臨事費總額の凡そ一割七分を支辨し得るの好況を呈し、三十六年度及三十七年度の豫算は不幸にして不成立となりしと雖も臨時議會の結果に依り之を見るに前記の如く尙ほ三四千餘萬圓の差違を示し、三十八年度決定豫算に於ても亦巨額の差違を存せり而して此事たる固より數字上の事實にして所謂骸骨的事實に屬し毫も修飾の之に加はるなし、當時世人財政に向て喟々嗷々せしも是れ見易さの事實と數字とに就て研究の勞を取らざるに坐せしものにして幸に事實に適合せさりき、然りと雖も三十九年度以降は大に其事實を異にし同年度より各種の臨時増税を永久税と爲し之を經常歳入に編入し、四十年度に至りては臨時軍事費の殘餘を以て纔かに收支を彌縫し所謂足を削りて靴に適し頭を殺ぎて冠に便するの譏を免れす

爾來依然として舊套を脱するを得ず今にして大革新を加ふるに非ずんば近き將來に於て困難なしとせず寒心の至りなり

第五目 露國財政の近況

一 歳出及國債の増加

又露西亞の財政は一種不可思議の現象を呈し往々世人をして其真相を窺ふ能はざらしむるものあり、請ふ少しく之を述べん

抑々露國の歳計豫算は國會開設以前にありては皇帝に對する大藏大臣の一報告書にして毎年露曆一月一日を以て發布するものとせり、今試みに西曆千九百二年の該國財政の報告を見るに歳入凡そ二十一億三千百三十六萬留歳出凡そ十九億七千八百三十八萬留歳入殘餘凡そ一億五千二百九十八萬留なり、其所謂借錢政策中に斯の如く巨大なる歳入殘餘あるは頗る異數の感なきを得ず而して歳出の増加に至りては更に驚くべきものあり即ち西曆千八百八十五年と同千九百二年とを比較するに前者に於ては歳出九億一千三百十四萬留なりしに後者に於ては前記の如く二十一億留以上に増進し實に十三割三分を増加し、西曆千九百四年年度の決算は更に増加して約二十七億三千八百萬留となれり、然るに西曆千九百五年



十一月に發表せられたる決算に據れば歳計の不足額三億千七百十萬留に達し前年度中に募集したる國債は悉皆編入済なり累年追送して同五年度に於ても約四億の短期公債を起して之を彌縫し同六年度に於ては豫算に於て臨時部に四億八千百十萬留の不足を示し西曆千九百七年度の經常歳入は二十五億留を豫算し臨時費は前年度剩餘と當年度收入の自然増加に依頼せり大國財政の經營素より容易の業に非ざるなり方今四海の大勢歳出の増加は邦家の免れ能はざる所なりと雖も露國の如きは蓋し稀れなり而して其國債の増加の如き殆ど人をして信據し能はざらしむる所のものあり即ち西曆千八百七十七年七月露土戦争の初期に於ける十九億六千七百萬留(内十七億六千七百萬留は外債)より急に増加し三十七八年戰役前既に世界の第三位を占め西曆千九百十年には九十億四千留(内五十八億留は外債にして三十五億留は佛の應募せし者なり)の巨額に達し第二位に進み元利手數料の爲め凡そ四億七百萬留を要す。元來西曆千八百八十七年より同千八百九十九年即ち第十九世紀の終に於て歐洲大陸は一般に太平を樂みしに露國は其間國債を増加すること十七億五千萬留の内十二億一千万留は鐵道敷設に使用し一露哩凡そ我九丁にして英哩の三分の二の建築費平均十萬九千五百留の巨額に

露國鐵道  
建設費の  
巨大なる  
原因

達し之を隣國なる瑞典の五萬四千五百留に比して甚だ高く、世界有數の高價國を以て目せらるゝ北米合衆國の六萬三千七百留に比するも尙ほ凡そ六割の高價を見るの實況なり。是れ主として内國製の鐵を使用し爲に費用を増加すると約三億留に達せしに由らずんばある可らず、合衆國亦非常の保護國なりと雖も終に露に及ばず而して鐵道の延長及其收支等を見る更に驚くべきものあり即ち西曆千八百九十二年より同千九百二年に至るまでの十箇年間に二萬八千八百露哩より五萬三千露哩に延長し費用十億五百萬留を要せり、然るに前後の總計を合すれば都合十五億留となる。今専門家の說に據るに若し外國の鐵と勞力とを使用するとせば凡六億留を以て同線を複線と爲すを得べきとの事なり、其差違甚だしく信を措く能はざるに似たりと雖も露國政府は西曆千八百八十四年乃至千八百九十五年に鐵道の爲め内國鐵を使用せしこと一億三千万、ブロードにして爲に費用を増加せしこと九千二百萬留、爾後同一原因に依り三億留の費用を増加せし事實に徴すれば夫れ或は信を措くに近からん乎而して其損失額は前記十ヶ年間に鐵道の爲め起りし公債元利の支拂を除き六億留にして西曆千九百三年には收入不足七千三百萬留戦争の初年には四億留に達し(軍事輸送よりの收支は差引く)第二年の額



は更に大なるべきも露の近情最も錯雜にして其真相を得るは内外の共に難しとする所にして事實に近き精數は殆ど之を得る能はざるなり

又最近の調査に據れば露國政府の鐵道公債三十三億二千三百萬留年々の利子は約一億三千四百萬留にして此利子の外に政府が西比利亞線等の爲に損失する所一箇年約五千萬留乃至一億留に上り此外に普通公債の内より鐵道費として支拂はれたる者の利子を加算すれば露國政府の鐵道費支出は驚くべき巨額に達すべし而して西曆千九百十年度に於ける政府鐵道收支豫算は左の如し

國有鐵道收入	六〇〇、〇〇〇、〇〇〇
私立鐵道よりする政府收入	一、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
計	六、一二〇、〇〇〇、〇〇〇
私立鐵道に對する保護	三〇〇、〇〇〇、〇〇〇
年金等	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
國有鐵道運轉資金	四八一、〇〇〇、〇〇〇
同上 改良費	四六〇、〇〇〇、〇〇〇
機關車、車輛購入費	二八〇、〇〇〇、〇〇〇

一 計

五九〇、〇〇〇、〇〇〇

(附言) 右支出には西比利亞線一部の改良費及同線複線建設費等新線に

關する者を含まず

二 疑の點

斯の如くして露國政府は西曆千九百年より同千九百三年までに外債のみにて都合三億五千六百萬留を増加せり(事件發生以來の増加は前章記載の如し)同國公債の増進實に驚くべきものあり而して當時露國の財政は表面上非常の好況を呈し其豫算決算は常に殘餘を示せり是れ前記募集高と鐵道資金高との差違五億四千萬留を經常部に繰入れ歳入殘餘の外觀を裝ひ露國公債の價格を維持するに努めたるものに非ざるなきやの疑は世人の胸中に蟠る所にして敢て無理とも云ひ難し然れども輓近露國歳入の増加は著しき現象にして英人チーロン氏の調査に據れば西曆千九百二年を以て終る所の十三箇年の間に其増加實に九億三千七百九十五萬餘留の巨額に達せり

三 露國輸入の増加の真相

今其内容に入り之が項目を見るに増加は主として酒類專賣二十九留十「コベツ



クス」の酒類に二十一留の専賣收入を含有す鐵道收入(民業とすれば收入は民の懐に入るものなり其を國庫へ移せしのみ)造幣局收入、御料山林收入及關稅にありて他は微々として論ずるに足らず即ち西曆千八百八十九年には是等の收入五億二千七百三十七萬餘留にして同千九百二年には十二億三千三百四十五萬餘留に増加し同時に關稅收入は四億四千七十九萬餘留より六億七千二百三十萬餘留の増加に止まれり而して其増加も亦自然の増加に非ずして稅率の増加に依るもの頗る多く即ち燐寸稅の増加十割六十五、コベツクス」の燐寸代價中に三十五、コベツクス」の稅金を含む)砂糖稅の増加十割六分二十七留十一、コベツクス」の糖價中に七留の稅金を含む)の如きは其最たるものなり。抑々砂糖は露國人民の最大需用品にして他國に比して一層缺く可らざるの事情あり然るに現行輸入稅は砂糖一本百二十英斤に付二十九志七片にして精糖同上三十九志五片なり而して近年倫敦市場に於ける糖價は中物一本最高十三志九片なるに依り露國に於ては稅金のみにて英國の市價より遙かに高價たらざるを得ず故に砂糖の消費は英國の一人一年は六十九英斤に對し露は僅かに十四英斤六三に止まり世界の第十一位に居るの實況たり、兩國人民生計の難易實に同年の論に非ざるなり(坤第二編第一卷第十二章

第四節第二目參觀)又試みに其隣國なる獨逸に比較するに露國の麥酒及煙草稅は獨の其に三倍乃至四倍し砂糖稅及石油稅は一倍半乃至一倍四分の三に達す有名なる石油生産國にして此實ある誠に異數の感なきを得ざるなり

今一步を進めて露國財政の要領を摘述すれば極端に民力を徴し又官業を努め毎年約一億六千二百萬留の殘餘を得ると雖も鐵道其他の臨時費の爲め約二億六千四百萬留を要し少くとも其不足約一億二百萬留は毎年之を借入れざるを得ず依て前記十二箇年度中に總計約十七億五千萬留を借入れ臨時費として約十二億四千八百萬留を使用せり(前記不足額と略々符合す)而して其差違凡そ三億留は之を蓄積す、有名なる露國國庫遊金なる者即ち是なり、已ぬる哉其名美なりと雖も仔細に其實を窺ふときは是れ借金の使用殘にして之を露の有と云んより寧ろ佛の有たるの觀なきを得ず而して露國は其死藏金に對し利子支拂を辭せず一種異様の財政と云はざるを得ず

#### 四 歳入不足並に外債

斯の如して義和團匪の亂の比までは僅かに彌縫し來りしも終に支へず近年は毎年約三億留の不足を生ずるを常とす、其他前記十二箇年度中私設鐵道會社の外

國庫遊金の真相  
露國財政の奇觀



債にして政府の保證に係る者約十億五千萬留ありて西曆千九百四年の上半期に於ては是等露國政府の責に歸する者と純然たる國債とを合して既に總計八十八億九百萬留に達せり由是觀之輓近露國の財政經濟にして外資を以て支へられたるもの約二十六億留の巨額に達す而して之に加ふるに日露戦争の爲に起りし外債六億八千百餘萬留内債六億留あり斯の如く露國は常に平價以下にて九十三乃至五なり四分若くは五分を以て外債を起し之を以て金を購入し國庫遊金を積むを以て能事と爲すが如し今其結果を見るに利子は物品の輸出超過を以て之を拂はざるを得ず然るに今哉露國外債の總高は約八十七億留(前記鐵道會社の分を除く而して佛より借入れたる高六十二億五千萬留なり)にして之が爲め要する所の利子は約四億留なりとす其他露國が外國へ支拂ふべき運賃保險料等は之を詳かにすることを得ずと雖も國債外の外資の利子約三千万留而して露國人が外遊の爲め費す金額は凡そ七千万留たるべしとは世人の信ずる所にして露國が貿易外に外國へ支拂はざるを得ざる金額は少くとも年々約五億留なり此巨額を支拂ふの財源は穀類及材木の輸出(總輸出高の八割を占む)とサイベリヤ金坑産出高凡四千萬留との外他に之を求むるを得ず然るに輓近露國の麥作は一人に付き二十二

露國の外債

露民の麥の消費高

「ブード」(四)「ブード」は四貫三百六十八匁餘なり今諸國に於ける一人宛麥の使用高を見るに北米合衆國は六十一「ブード」九にして丁抹は五十七「ブード」佛國は三十三「ブード」六なりとす故に露國は其民をして食に飽かしめんと欲せば單に麥の輸出を止むるを以て足れりとせず進で巨額の穀物を輸入せざるを得ず然るに實際は前記の如く麥の輸出年に増加し外債の利子拂の爲め過去十六ヶ年間に約六十億留の代價を以て約七十億「ブード」の穀物を輸出せり民に菜色ある偶然に非ざるなり尙ほ最近五ヶ年の實況を示せば左の如し

收穫高

第五表の一

西曆一九一〇年		西曆一九〇九年	
歐露	亞露	歐露	亞露
小麥	一、一六三・〇	一、一八二・一	一、一九三・三
裸麥	一、三〇八・三	一、三六〇・二	三〇五・五
大麥	五九六・五	六一七・七	一一八・八
燕麥	八五六・二	九四六・一	六八八・八
合計	三、九二三・〇	四、一〇六・一	三、三〇・四
計	一、二六三・〇	一、一八二・一	一、一九三・三



計

第五表の二

計	一、三〇一・四	一、三九〇・七	六二九・五	一、〇一四・九	四、三六・五
同 千九〇八年	歐露	八二七・七	一、二七六・五	四八八・四	七三九・五
	亞露	一三三・五	三七・四	一三・九	九五・七
計	九四六・二	一、二三三・九	五〇三・三	八三五・二	三、四九七・六

同 一九〇六—一〇年の平均は左の如し

第五表の三

收	歐露	九三六・七	一、二〇七・一	五二二・九	七六六・三	三、四二二・〇
穫	亞露	一一九・二	五〇・二	一一・四	七六・三	二四八・一
計	一、〇四五・九	一、二四七・三	五三五・三	八四三・六	三、六六一・一	

本表の平均中には二ヶ年の豊年ありと雖も尙ほ燕麥を除き麥類の一人當りは十八「ブード」七餘に止まり前記の一人當に對し減少を示す、一步を進め本表掲載の四種外の穀類の收穫を合算し露國全土に於ける穀物の總收穫高を擧れば左の如し

第五表の四

西曆一九一〇年	四、六一〇・九	(百万ブード)
同 一九〇九年	四、七三三・七	
同 一九〇八年	三、八五六・六	
同 一九〇七年	三、七一九・九	
同 一九〇六年	三、二五六・八	
五箇年平均	四、〇三五・四	

此平均に據るも一人當り尙ほ約二十七「ブード」なりと是より家蓄の飼料を差引くときは民の食に飽く能はざるは數の免れざる所なり

然るに露は外債元利支拂の爲め穀物の輸出を要し西曆一九〇六年以降五箇年間の輸出は左の如き巨額に達し同一九一一年上半期の輸出は前年の其を超過せり即ち左の如し

西曆一九〇六年	五八八・九	(百万ブード)
同 一九〇七年	四六七・二	
同 一九〇八年	三九九・六	
同 一九〇九年	七六〇・七	
計	二、一七五・四	(百万ブード)



同 一九一〇年	八四七・一	七四六・一
西曆一九一〇年上半季の輸出高	三九、九〇〇、〇〇〇 <sup>ナート</sup>	三三、四〇〇、〇〇〇 <sup>ナート</sup>
同 一九一一年上半季の輸出高	四九、一〇〇、〇〇〇	三八、五〇〇、〇〇〇

茲に又會て露帝の信任を忝ふし露都に於て「ウヒーロドモスチー」と號くる新聞の主宰たるウクトムスキ公と稱する一貴人あり、西曆千九百二年三月十三日の同新聞の社説に掲げて曰く

既に露國は獨逸に比して一人當り麵麩の消費三分の一を減ず剩さへ獨人は露人よりも多く馬鈴薯及麥を消費す露人をして獨民と同様の營養を得せしめんと欲せば露國は其穀類を輸出すること能はざるべし

是れ其真相を得たるものに似たり。果して然らば露は國民に食料を與んと欲せば外債利子を拂ふを得ず、國民に相當の食料を與ふれば一國の最も神聖なる義務を履行する能はざるの地位に在るものゝ如く至難の狀況を呈するものと云はざるを得ず。然れども是れ只門外漢が種々の經濟事項より推測する所に過ぎず其内容の詳細を知らば大に安ずべきものなしとせざるべきも惜ひ哉露國の事情は多く秘密に屬し西曆一千九百年の豫算中にある七千三百七十三萬二千百九十四留の

歲計の明瞭を缺く

巨額の如きは諸費豫期せられざる費途、豫備其他等明示し難き科目の下に編入せられ其内容を知る能はず、豈に遺憾ならずや

##### 五 食料の不足並に獨佛との關係

今輒近露國政府の調査に據るに露民は肉食すること極めて稀にして其食飼は主として之を植物質に取るを以て一人一年の食料は少くとも農産物馬鈴薯共二十「ブード」(是れ所謂饑饉率なり)を要し、馬匹は一頭一年に燕麥四十「ブード」を要す、然るに歐洲露領五十縣に於ては一人の平均生産高十六「ブード」六を超過せず即ち三「ブード」四の不足を示す果して然らば農夫一人の生産力は以て一兵を養ふに足らず、况や無數の僧徒官僚を養はざるを得ざるに於てをや、其困難なる多辯を要せず而して農馬一頭に對しては二十三「ブード」六即ち十六「ブード」四の不足を示し、農産物の最高はベッサラビヤン地方の三十七「ブード」八にして最低は北部の九「ブード」七なり、燕麥は之に反し最高は東北部の四十六「ブード」にして最低はベッサラヤの五「ブード」七十餘なり而して農民總數の七割七厘は農料の不足に苦み其數四千五百三十五萬八千七十八人に達し二割四厘の人は饑を感じざるも馬匹に十分の食飼を與ふるを得ず、人馬共に饑を覺へざる者は僅かに八分九厘に止まる、斯くの如



くなるを以て毎年十一月比に至れば無数の農民貴族に向て哀を請ひ貨幣と食料を借入れ纒かに來るべき春を待つは決して例外の事に非ず却つて普通の事に屬す故に貴族輩は此弱點を利用し普通農夫勞銀の半箇以下にて彼等を自己の田圃に使用し剩つさへ農馬、農具等も彼等に自辨せしめ自ら之を有せず、トムモツ地方に於ては貴族地にて農馬及農具を有せざる者總數の二割六分、リーベリチアンスクに於ては三割三分、キサノフに於ては三割、リーベツキに於ては四割ありて其他枚舉に違あらず、斯の如くして農民は殆ど自己の土地を耕へすの暇なく貴族地と雖も勢ひ相當の注意を以て耕やさず、農業の進歩は夢にだに見る事を得ず大に退歩を促すは自然の勢なり、而して農民は二三年分も前借し居る者少からず壓制に堪へ兼ね地主の眼を掠め遁逃を企る者あり、現に脱走して、コサツク村落に投じ水飲と成つて勞働し居る者少しとせず、斯の如くなるにも拘はらず世の一部人士殊に獨佛多數の論者が頻りに露國財政を樂觀し其鞏固を説くは一見頗る奇異の感なきを得ずと雖も少しく之が眞想を觀察するときは是れ亦た怪むに足らざるなり則ち佛國の露國々債に投入せし金額は約百億法外に凡そ同額の商事的投下ありの巨額に達し佛國財産の總額二千百四十億法中千億法は不動産にして千四十

露と獨佛の關係

億法は動産なり故に露にして倒産せば佛國は其動産價格の殆ど一割を失ふべく獨の露國々債へ投入したる金額は二十五億馬にして獨の財産總額は二千百五十億馬外に商事的投入十億馬あり、内不動産千億馬、動産千百五十億馬なりとす、今此二十五億を失ふのみにても非常なる損失なるに獨露兩國は貿易の關係最も深密にして前者は其勃興する所の工産品を後者に糶し後者より其農産品を糶するの必要ありて露國總輸入額西曆千九百六年の高六億千九百九十餘萬留中獨逸よりの輸入二億六千七百餘萬留にして獨の總輸入高八十億二千百八十九萬餘馬中露より輸入する者約十億八千八百萬馬に達し兩國の輸出入中の主位を占む、是れ所謂惡縁にして其間斷んと欲して斷つ能はざる所のもの在りて存す、獨佛兩國の一部人士が露國財政の爲め喋々喃喃する亦故なきに非ざるなり、然りと雖も大勢の向ふ所固より人爲を以て廻らす可らず、輒近露國の國債頻りに下落し之を十年前即ち西曆千八百九十七年に比するに倫敦市場に於て正に左の如き差違を生ぜり

第 六 表

公債の名稱	西曆千八百九十七年最高	同千九百七年五月
一九九二五分	一〇七、〇〇〇	九三、五〇〇



鐵道	九五、〇〇〇	六四、五〇〇
大陸鐵道	一〇五、二五〇	七五、五〇〇
三四分	一〇二、八七五	六五、五〇〇
一八四分		
三分半		

實に非常の差違と云つべし、夫れ公債價格は一國の信用を表示す漫りに人爲を加へて市場を迷はす可らず、抑々人爲は極まる所あり其馬脚を露はすに至りては一層の不信を招く鑑みずんばある可らず、近者市場回復し五分は平價以上となり、四分も凡九十五の好價を示せり、四十三年末然れども之を他國に比し尙ほ大に及ばざるものあり、事情斯の如くなれば近時佛國輿論の一角に於ては新たに英佛露三國同盟を結び英佛二國の資本を以て大に露國の富源を發達し經濟上政治上三國の利益を計るべしとの説を生ぜり獅子王の之に耳を傾るや否や智者を埃つて後ち知るべきに非ざるなり然り而して露國は將來尙ほ國家經濟の爲め巨額の費用を要すウイッテ氏の説に據れば露國をして一等國の地位を保たしめんと欲せば今後六十二億五千萬留乃至六十六億六千萬留の資金を要すべし、然るに佛國側の觀察は(ラ、レヴェイ新聞)八十三億留を要すと爲す其何れが是なるは未だ劇かに斷言す可らずと雖も斯の如き豫測は概して不足するを以て通患と爲す故に暫らく後

佛國一部  
人士の説

者を以て比較的眞に近きものとせざるを得ず、知らず双頭の鷲四漠の水を搏て以て龍を喰ふを得るや否や、然れども喰はざれば則ち大鵬鷓胡に若かず歐洲大陸財界の調和亦難い哉、抑々露國公債は其目的明瞭ならずウイッテ氏在職十一箇年中佛國より借入れたる十八億留の如きは一部は舊債償還の爲め一部は國庫準備金積立の爲め使用せられ一部は露清銀行へ附與せられ其他は鐵道建設の爲めに用ひられたり、依て英國の輿論は常に露公債へ投資するを戒む予の寡聞なる未だ輿論の一變せしを聞かざるなり

六 露國農地の生産力

又露國に於ける一「デシヤチン」一町一反四畝八歩(の穀物の生産力を他國に比するに左の如く孰れも著しく劣等の結果を示す

第七表 (數は「ブード」なり)

	露	獨	瑞典	合衆國	キヤナダ
小麥	二八、二	七七、〇	一〇〇、〇	六〇、三	六二、三
大麥	三三、八	五六、四	七五、九	四三、〇	六二、〇
燕麥	三九、〇	七三、二	八三、二	六三、二	九七、七



合衆國の如きは土地廣大にして農事は極めて粗放なるに、デンシャチンの收穫守約なる獨逸に亞ぐ之を露に比して頗る異數の感なきを得ず又最近英國農商務省の調査に據れば各國との比較左の如し

第八表 (西曆千九百五年を以て終る五年間の平均收穫)

	小麥	大麥	裸麥	燕麥
英 國	「フツセル」 三九、九二	「フツセル」 三三、五七	「フツセル」 四一、〇九	
獨 逸	二八、四四	三三、八二	三九、三九	
佛 蘭 西	一九、三三	一六、〇〇	三三、一八	三六、六〇
匈 牙 利	一七、五四	一五、九三	二〇、九四	二四、八四
ルーマニア	一六、三四	一四、八八	一六、三五	一九、九七
勃 牙 利	一四、〇〇	一三、三三	一七、六三	
歐洲露西亞 (波蘭を除く)	九、六六	一一、三三	一一、六四	一六、三五

七 露國保護政策其他の影響

今一步を進めて露民の負擔を見るに露農は穀物二百二十英斤に對し二十二錢を負擔するに反しバイエルンの如きは歐洲中高税の國なるに拘はらず僅かに十

錢に止まる、中央及東部露國の如きは最も甚しく西曆千八百九十年より同千八百九十九年の十年間に農民が負擔せし直税金額約四億一千萬留に達し農民其重きに堪へず政府は終に約二億留を拂戻すの奇觀を呈せり

元來西曆千八百六十一年の農奴解放令は其名甚だ美なりと雖も農民は之に對し巨額の賠償金(通例一年約八千萬留)戰爭の初年の如きは八千六百萬留に達せりを支拂はざるを得ざるを以て概して之を好まず之に反抗して起りし所の一揆千百回の多きに達しカザン地方の如きは五千の農民蓆旗を翻へし動兵の必要を生じ殺戮せられし者五十五人傷けられし者七十一人に達せり。今其執行の順序を見るに農民は當初二年間は絶對的服從の義務を負ひ其期間に貴族地主等の爲すに任せざるを得ず、次の二年間を過渡の義務期とし其間貴族等は農民の上に警察權を有し農民支配役の任命黜陟を擅にし賠償金支拂濟に至るまで之を繼續するものとせり而して賠償は小區域に重く大區域に輕して上向遞減の法を採り、小區域の者は勢ひ賠償を爲すを得ず剩つさへ大區域の幾分を高價を以て借地せざるを得ざるに至らしめ農民をして萬劫を経るも終に貴族等の土地を去る能はざるの苦境に陥らしめ坐ながら農民を壓し巨利を得不當の榮華に驕る者少しとせず、是



れ露國農民の困弊に陥りし一因なり、加之輸入税は年に高まり、輒近露西亞國農民は綿布三十六英斤を得んと欲せば之に對し裸麥三十二「ブード」を與へざるを得ず、彼の保護税を以て最も有名なる獨逸に於てすら尙ほ僅かに十一「ブード」を以て足れりとす、露國農民の境遇亦難哉、亦露民の必需品なる製茶を以て之を比するに獨民が九「ブード」を以て得る所の茶に對し露民は九十三「ブード」を與へざるを得ず、懸隔も亦甚しと云つべし。諸般の鐵品器具亦保護の爲め大に其代價を増し之を隣國に比し二十乃至三十割の高價を保ち、農具隨て騰貴し、農民の生計に一層の困難を加ふ而して其他住家の卑矮なる死亡率の多き千に付四十六、四に達する所あり、露國農民の困難は財政の困難と共に増加するの勢あり、然に農民の智力を進め根本的に之を救濟するは露國當局の好まざる所にして、西曆千八百九十七年の國勢調査に據るに文字なき者の數カールス地方に於て八割九分二厘セイトビートルス、ボルグ管内に於て四割四分九厘なり、其他之に類す、曩にウキッテ氏大に工業策を講じて成らず、轉じてサイベリヤ、滿洲の鑛業を試み進で、鷄林に採鑛伐木を以て巨利を得んと欲して復た成らず、終に拾收す可らざるの勢に陥るれり、軍勢に曰く、造作過制雖成必敗と況や成るべきの數存せざるに於てをや、鑑みずんばある可らざるなり

なり

八 十二年前と今日との歳入歳出の比較

以上の計數はデ・ロン氏の調査に據るものにして、露國歳入の増加一見頗る大なりと雖も、租税額の自然増加に至りては殆ど見るべきものなし、今又西曆千九百六年の豫算に掲ぐる所の數と十二年前即ち西曆千八百九十四年の主要なる租税收入とを比較するに其實況左の如し

第九表

	西曆千八百九十四年	同一九〇八年(實收)	同一九〇九年(豫算)	同一九一〇年(豫算)
直税總額	二七,五九九,三〇三	一九四,一八二,六〇〇	一九三,八八三,三三三	一九八,三四六,四八九
煙草税	四六,〇八九,五六二	五七,二〇九,三三八	五七,二九九,〇〇〇	六二,〇七六,五〇〇
砂糖税	三三,七七五,八一三	九三,六二七,四四〇	九三,三六六,〇〇〇	一二四,八五六,〇〇〇
關稅	二〇,六九五,四三九	二七九,二五〇,三〇二	二七六,四五〇,〇〇〇	二八四,〇五五,〇〇〇
印紙税	四五,七六五,六一一	六五,五八八,九〇一	六八,八七七,四〇〇	七四,六〇〇,一〇〇
財産移轉税	二二,七五〇,〇九〇	三二,一四八,一三三	三〇,六六〇,〇〇〇	三三,六九五,〇〇〇

過去十二三箇年間租税收入の増加斯の如く其著き増加を見るものは砂糖税、關稅



の二目なり即ち前者は約十割六分の増加を爲し而して後者近年の増加は世の熟知する所にして國力發達の結果に非ざるは多辯を要せず今試みに露國に於ける輓近の輸入税増加の績を見るに左の如く實に驚くべきものあり

第十表

西曆年次	食糧品			未製品及粗製品			製造品			課税の平均率
	輸入價格	收税額	百分比例	輸入價格	收税高	百分比例	輸入價格	收税高	百分比例	
一八六九	八七、六	二七、六	三二	一八九、五	九、四	五	一六一、九	一四、九	九	一二
一八七九	八九、八	三六、六	四二	二七五、三	二八、二	一〇	一三七、四	一八、七	一五	一七
一八八九	五三、九	三六、二	七一	三三八、〇	四四、八	一九	七三、六	二〇、五	二八	三六
一八九九	七〇、八	五四、二	七七	二八九、九	八八、〇	三〇	三〇〇、七	五二、九	二六	三五
一九〇〇	七七、一	六三、六	八二	二九三、九	七三、九	三三	一六五、一	四三、六	三三	三三
一九〇一	八一、四	七四、七	九二	二七三、六	八六、一	三三	一四〇、〇	三七、一	二七	四〇
一九〇三	七九、三	七五、九	九六	二八二、八	八九、一	三二	一三九、九	三六、三	二六	四〇
一九〇三	八四、四	七五、三	八九	三三〇、三	一〇〇、六	三〇	一四九、〇	三九、四	二六	三六
一九〇四	八九、〇	八一、〇	九二	三三七、四	八八、八	二八	一三四、二	三四、七	二六	三六

爾來著しき變化なし然るに其間歳出の増加は驚くべきの巨額なり即ち西曆千八百九十四年には經常費總額約九億八千萬留なりしに西曆千九百六年度の豫算に計上する所の高は約二十億七千五百萬留にして其増加十割を超過し官業及官有財産收入の増加に由る即ち西曆千九百六年度の精算に於ける此種の金高は經常收入總額約二十二億七千八百二萬留中約十三億八千萬留を占め其半額を超過す露國財政の基礎斯の如く頗る異常にして殆ど中古の状態を見るの思ひあり而して歳出の増加亦容易ならず即ち

第十一表

西曆年次	經常費	臨時費	合計
西曆千九百三年度決算	一、八八三、〇三六、〇〇〇	二四、八四三、〇〇〇	二、一〇七、八八六、〇〇〇
同 千九百四年度決算	一、九〇六、八四七、〇〇〇	八三〇、八四九、〇〇〇	二、七三七、六九六、〇〇〇
同 千九百五年度決算	一、九三五、一七六、〇〇〇	一、二七九、五七七、〇〇〇	三、二一四、七五三、〇〇〇
同 千九百六年度決算	二、〇六一、一三四、〇〇〇	一、一五一、五六三、〇〇〇	三、二二二、六九七、〇〇〇
同 千九百七年度決算	二、一五五、九八八、四四五	三六六、六四〇、〇三三	二、五八二、六二八、四七七



同 千九百八年度決算

二、三六七、七五〇、五九五

二六八、九三三、二〇九

二、六六六、六二二、八〇四

同 千九百九年度決算

二、四五一、四三三、七六六

一五六、二七七、八七一

二、六〇七、五五一、三九九

なりとす、收支同額亦一奇觀を呈するものと云つべし

今西曆千九百七年十二月十日露國大藏大臣が國會議場に於て爲したる説明に據れば八年度は之を前年度に比し國防の爲め五千五百五十萬留(内四千三百五十萬留は陸軍、千二百萬留は海軍)の増加を要し其他遞信事業の爲め四千五百萬留、農務の爲め千二百萬留、教育費六百廿萬留、内務、大藏、司法三省の爲め六百萬留の増加を要し多少の困難あるは最も略易きの數なりとす而して臨時費の主要なる者は戰局の爲め要する六千六百萬留、鐵道建設の爲に要する五千九百四十萬留、救荒費千四百三十萬留、東清鐵道會社債券の爲に要する七百五十萬留、酒類釀造及蒸溜權買收の爲め三百六十萬留、短期公債償還の爲め要する五千三百萬留なりとす、然るに是等臨時費中一億九千五百萬留は之に對する歳入なく新債を起して之に應ずるの計畫なり、而して西曆千九百九十年年度に於ても同様の情況たり

然るに近年露國に於ては贖田上納金を全廢し酒類專賣收入(目下約六億九千八百萬留なり)も節酒獎勵の結果無限の増加を望む可らず、翻つて歳出に於ては海軍

復舊案の如きは既に議會を通過し陸軍擴張補充等の費用は之を辭する能ざるべく將に明年度より大に之に着手せざるを得ざるべしとは露國の輿論にして頗る費用の増加を要するものあり、加之運輸通信事業等戰役の爲め已を得ずして繰延に附せしものも今裁整理進暢の道に就かざるを得ざるべく、教育衛生等亦多少の用を要するものなしとせず、露國財政亦多忙なる哉而して露國歳計の豫新費算と決算との間に著しき差あるは是れ亦健全の情態を示すものと云ふを得ず、則ち西曆千九百六年度經常費の豫算は約二十億三千三百萬留にして決算は約二十億六千百萬留、臨時費に至りては最も甚しく約四億七千八百萬留の豫算に對し十一億五千一百萬留の決算高を顯出せり、八年度の結果此轍を蹈むなくんば洵に多幸と云つべし、就中其増加中約四億四千五百萬留の如きは國庫債券の償還の爲め要せしものにして全く之を豫算に見込まず突如として決算に顯はれしは頗る世人の耳目を驚かせり

### 九 近來の増稅

是等の費用を償はんが爲め露國政府は煙草稅を増加して千四百萬留、瓦斯及電燈稅にて二百萬乃至三百萬留、蠟燭及紙稅にて七百萬乃至八百萬留を得んとす是



れ所謂擲頭主義にして曩にウキッテすらも忌避せし所の方法なり而して西曆千九百四年度の収入決算は二十億千八百萬留内租稅收入は六億五千七百萬留にして總收入と經常費を比較すれば約一億二千五百萬留は收入超過を示し一見甚だ好良なるが如しと雖も戰爭前の國債は既に約六十六億留にして國債費は約三億千二百留の巨額に達し内約三十二億留は二萬四千三百一哩の鐵道購入の爲に用ひられ其他建設改良等の費用は五億留の巨額に達し其他露國に特別なる國民の負擔は農奴解放の辨償金にして總額二十億留中辨償濟額は三億五千萬留にして十六億五千萬留は尙ほ未來に於ける農民の負擔なり斯の如く露國の財政は國は巨額の公債費を負擔し鐵道は收支相償はず民は多大の國費を負擔するに搗て加へて尙ほ巨額の解放辨償金を支拂はざるを得ず他國に比して一種異様の關係あるものと云はざるを得ず然るに西曆千九百七年度の豫算に於ては酒類專賣收入を増すこと約一億留關稅鐵道砂糖石油營業稅等皆增收を見込めり露國當時の國情果して其増加を見るを得る哉頗る世人の注意を惹けり然るに支出の方に於ては國債利子約四千六百萬留鐵道事業費約三千萬留軍隊給養費千二百萬留を増加し其他臨時費に於て飢饉地方救濟費約六千萬留短期公債償還の爲め五千三百萬

最近財政  
上の情況

留を要す収入の増加は確實ならざるに支出は即ち確定し而して其經常費に屬する者の如きは永久に涉り寧ろ増加するも減少の望み甚だ少きものに屬す。進んで西曆千九百八年七月上旬露國國會は歳入不足の調査を執行し歳出約二十七億七千萬留に對し歳入は約二十六億留に止まり一億七千萬留の不足あるを發見せり、此不足は内債を以て補填すべしと定めたり。然るに其原因は主として海陸軍々用鐵道教育費等の増加にありて單に本年度のみに止まらず陸軍は五箇年間年々二億五千萬留の増加を請求し海軍は殆ど算なく鐵道には三億留を要すべく教育諸般の設備には十億留を要するの見込なり、是れ一見信じ難しと雖も從前設備の不完全なる國土の廣濶なる夫れ或は此巨額を要するの事實ならん乎。果然西曆千九百九年度の精算は經常費二十四億四千九百五十三萬四千九百七十七留にして前年度に比して増加すること約六千三百六十八萬餘留なり、此の増加を來せしは主として陸軍省の四千二百二十萬留、遞信省の二千九百三十萬留、内務省の千二百十萬留、司法省の七百三十萬留、大藏省の二千三百八十萬留、文部省の千百萬留、農務省の千二百九十萬留なりとす。今一步を進め豫算總額に就て之を見るに露國に於て最も巨額を要する者は遞信省にして(國柄に由る)經常費五億七千萬留臨時費六千萬留



合計六億三千萬留計上し實に總支出額の約四分の一を占む露國に於ては郵便事業は常に收支相償ず次は言ふまでもなく陸軍省にて(是れ又國柄に由る)經常費四億七千六十萬留臨時費八千八百四十萬留合計約五億六千四百四十萬留なりとす其他大藏省は經常四億五千六百萬留臨時四百五十萬留合計四億六千五十萬留海軍省八千八百萬留司法省七千二百萬留農務省七千百萬留文部省六千四百萬留商工務省四千二百萬留教務省三千六百六十萬留宮内省千六百萬留會計検査院一千萬留外務省六百萬留中央各官衙八百五十萬留牧馬本部二百萬留豫算外に臨時支出一千萬留を計上せらる而して國債費は三億九千六百七十萬留を要し經常歲出總額の約一割六分を占む

右の如く九年度歲出の増加は約一億六千萬留なるに歲入の増加は豫算通りの實收ある者とするも九千萬留に過ぎずして遙かに歲出の増加に及ばず今試みに西曆千九百三年(戦争の前年)以來の歲入歲出増減の實況を掲れば左の如し

第十二表

西曆一九〇三年

二、〇三一・八

經常歲入(百萬留)

西曆一九〇三年に比し増減

同 一九〇四年	二、〇一八・三	減	一三・五
同 一九〇五年	二、〇二四・五	減	七・三
同 一九〇六年	二、二七一・七	増	二三九・九
同 一九〇七年	二、三四二・五	増	三一〇・七
同 一九〇八年	二、四一七・八	増	三八六・〇
同 一九〇九年	二、五二六・三	増	四九四・五

而して經常費の増加は前表の如く歲出入共に著き増加を示すものと云ふべし、今一步を進めて最近數箇年度の豫算を示せば左の如し

第十三表ノ一

西曆千九百六年 同千九百七年 同千九百八年 同千九百九年 同千九百十年

經常歲入	百萬留	百萬留	百萬留	百萬留	百萬留
直 稅	一六三	一八三	一九四	一九九	二二六
間 稅 (關稅共)	四九五	五一〇	五二六	五三〇	五九三
手 數 料	一三	一三	一七	一五	一七〇
御料地收入	七七	七九	七九	八四	八六



收入(不動産、有価証券、 買戻年金、證書)	六〇三	六三七	六四九	七〇八	七九八
貸入金返納	七三	七五	九七	一〇〇	一一八
雑収入	一四	二四	二〇	三三	一九
經常歳入計	二,二七三	二,三四二	二,四一八	二,五三六	二,七八一
臨時歳入	一,〇八四	一,四三三	二,〇一一	一,六三三	二,四
歳入總計	三,三五六	二,四八五	二,六一九	二,六八九	二,八〇五
歳出經常費					
帝室費	一七	一七	一八	一六	一七
樞密院	六	六	八	八	九
教務院	二九	二九	三〇	三三	三四
内務省	一三六	一四〇	一四七	一五六	一六〇
大藏省	三五三	四三九	四三三	四六〇	四〇九
司法省	五四	五六	六二	七四	七六
外務省	六	六	七	七	七

文部省	四	四六	五三	六四	八〇
逓信省	四七七	五〇八	五三一	五五三	五三七
農工省	三三	三三	三三	三九	三九
陸軍省	三九三	四〇六	四六三	四七三	四八五
海軍省	一一二	八八	九三	九三	九六
農政局	三六	四七	五八	七二	八六
馬政局	二	二	二	二	二
内閣	九	一〇	一〇	一〇	一〇
國債局	三五六	三七四	三九八	三九五	四〇九
其他	—	—	五四	—	一七
歳出經常費計	二,〇六一	二,一九六	二,三八八	二,四五二	二,四七三
歳出臨時費	一一五三	三六七	二六九	一五六	一一四
歳出總計	三,二一三	二,五八三	二,六五七	二,六〇七	二,五九七

更に最近二箇年度の詳況を示せば左の如し

第十三表ノ二



經常歲入

西曆千九百九年度

同千九百十年度

差增減

直稅	西曆千九百九年度	同千九百十年度	差增減
地租	七,〇七四,六八四	七,三三九,五五三	二,二六四,八六九
商工稅	一〇四,三〇一,三三八	一八,三九六,四〇〇	一四,一九五,一六三
動產所得稅	三三,四二二,六六四	二五,三八九,二五七	一,九七六,四九三
計	一九,六八八,五六六	二六,一二五,一一〇	一七,四三六,五三四
間稅	四〇,一六〇,九九九	四四,〇一五,四〇八	三,八五四,四一九
酒稅	四五,三六二,二四四	五〇,四七六,四八三	五,一一四,二六九
烟草稅	三,五三三,七〇三	四,五七六,九一一	一,〇四三,二〇八
紙卷烟草用紙及函稅	一〇七,三九九,四〇八	一二七,三三三,〇九三	一九,九三四,六八五
砂糖稅	四一,八四一,四三二	四六,九二〇,〇一六	五,〇六八,五九四
石油稅	一七,三三三,五六二	一八,四六四,七〇三	一,一三三,一三一
燐寸稅	二七四,三二七,一四八	三〇〇,九三〇,〇七七	二六,六〇二,九二九
關稅			

準稅

計

計

計

印紙及登錄稅	七,六九三,八九九	八二,八四五,七五一	一〇,一五二,八五三
遺產稅	三四,二二三,四四八	三九,〇九六,八三五	四,八八三,三七七
港稅	三,七三三,一六五	四,一〇〇,八九九	三,六八六,四四四
急行列車稅	三,八二七,五六四	二四,五三三,五九一	一,七〇五,〇二七
火災保險稅	五,二七六,〇七〇	五,六九四,八八八	四一八,八一八
雜收入	一一,九七五,七〇六	一四,一〇六,五七四	一,一三〇,八六八
計	一五二,七二八,八五一	一七〇,三七七,四三八	一八,六五八,五六七
官業收入			
礦山	八八,〇四九	三三三,三二二	二四五,二六三
造幣局	七,四八六,〇七四	三,二〇六,八六三	四,二七九,二一一
郵便	五八,一七五,七九八	六三,八〇一,九八〇	五,六二六,一八二
電信電話	二九,六一三,三〇六	三二,三八〇,二四九	一,七六六,九四三
酒類專賣	七二八,八八三,九六四	七六七,〇三三,三九二	四八,一四八,四三八



計

官有財産收入

土地 使用料等	一、〇三六、五二六	一、三三八、三四三	十	三〇一、八二六
森 林	七六五、一六四	八八九、八三九	十	一三四、六七五
鐵 道	一三、八九九、一一〇	二、六八九、五二〇	十	八、七九〇、四〇〇
製造所及倉庫	四四、五四七、三三三	五〇、四九九、一七六	十	五、九五二、九五四
銀行 收入及中央	三、六八一、九六〇	三八、一三八、一一三	十	六、四五六、一五三
私設鐵道分配金	一〇、八一五、七七三	七、六三四、〇三三	一	三、二八一、七五九
計	九九、九四四、〇六四	一一七、九六〇、八二二	十	一八、一六七、四八八

官有財産賣却

不動産 賣却代	二、六四五、六六一	一九、三三八、七三六	一	二、四〇六、九三五
---------	-----------	------------	---	-----------

合 計

經常 出

宮 内 省	一六、四三九、五三四	一六、八三四、九〇七	十	三九五、三七三
樞 密 院	八、四七三、三八四	九、〇四〇、八六二	十	五六七、四七八
計	二、五二六、三四〇、八八八	二、七八〇、九八六、九九一	十	三、五四四、六四六、一〇三

教 務 寮	三一、四七四、〇三七	三四、二〇〇、五九七	十	二、七三六、五六〇
内 務 省	一五五、六〇三、四四九	一六〇、四二〇、五三二	十	四、八一八、〇七三
大 藏 省	四五九、八四二、四〇〇	四〇九、四二二、二八八	一	五〇、四三〇、一一三
鐵道補助其他鐵道 ニ關スル諸費	四〇、七九四、六〇五	一九、七六六、三〇二	一	二一、〇二八、四〇三
酒類 專賣費	一九六、三二六、三〇九	一八八、二八七、九四六	一	八、〇三八、三六三
司 法 省	七三、八三三、六四一	七五、八七〇、三六三	十	二、〇三七、七三三
外 務 省	七、〇〇八、一〇三	六、六三三、二六六	一	三七四、八三六
文 部 省	六四、二六三、二二七	七九、八四〇、三一四	十	一五、五七七、八五三
遞 信 省	五五一、四七五、四六一	五三七、三二六、四四五	一	一四、一五九、〇一六
鐵道 現業費	四四三、六三七、四八六	四三三、九六〇、四六〇	一	一〇、六七七、〇二六
保 線 費	七二、二四、四三九	八五、六四一、九六七	十	一四、四二七、五二八
商 工 省	一、九五四、四〇一	一、九二二、五八七	一	四一、八二四
農 務 省	四七三、三七四、五三八	四八四、九三、一四〇	十	一一、五三八、六二二
馬 政 局	九三、二四、一一五	九五、八八五、〇四七	十	三、六六〇、五二九
陸 軍 省	一〇、〇一四、八九三	一〇、二二八、九〇八	十	二〇、四〇一、〇六



海軍省	三、七五、五三三	三、七九七、二九二	十	一、一七、三九
内閣	三、九四、九六〇、六〇九	四、〇九、〇〇一、九二三	十一	四、〇四、一三、〇四
鐵道行政費	一、三四、九八五、〇五〇	一、三三、七八〇、九五九	十	二、七九五、九〇九
國債費				
鐵道債費				
海軍省附屬公債費		一、六八五、〇六六	十一	一、六八五、〇六六
合計	二、四五一、四三三、七六八	二、四七三、一五七、一九三	十二	二、七三三、四二五

而して成規に據り露曆千九百十一年十月一日議院に提出せられたる同千九百十二年豫算案に計上する歳出入額及歳入不足分補充の状況左の如し

第十三表ノ三

歳入	經常部	二、八五五、一六九、五五一
臨時部	五、四〇〇、〇〇〇	
合計	二、八六〇、五六九、五五一	
歳出	經常部	二、六八五、九五〇、二五
臨時部	二、九七五、三五三、一〇〇	
合計	二、九七五、三五三、一〇〇	
國庫剩餘金繰入高		一、二四、六八三、五四九

臨時部	二、八九、三〇一、八八五
合計	二、九七五、三五三、一〇〇

今之を前年度に比較するに本年度は經常部に於て一四七、四六〇、七二四留を増加し臨時収入に於て七、〇〇〇、〇〇〇留を減少し經常費に在りては一五八、六七七、九九五留を増加し臨時費に於て九六、四六五、二七八留を増加し經常臨時合計二五、一四三、二七三留の増加を示せり

前記一億四千七百四十餘萬留の収入増加は之を前數年度の實収入増加額に比し甚だ大なり即ち露國に於て珍らしき豐作の結果を受けたる露曆千九百九年度の増加と雖も尙ほ稍やく一億〇八百五十萬留に止まりしに本年度の一億四千七百萬留は法外の増加額なり増加は前記の巨額に達せり是れ一見奇異の觀なきに非ずと雖も露曆千九百十年年度の經常收入實收額二十七億八千一百萬留に達したるに基ひし算出したるものにして同一九一二年度の經常收入見積高も是れに比すれば二箇年間に於て兩者の差違は僅々七千四百萬留に止まるを以て敢て過當の豫算に非ざるべし然りと雖も西曆千九百十一年は饑饉年にして十八省は皆無となり八省は凶作を告げ八百萬の生靈は全然食を缺き凡そ千八百萬人は食に飽



く能はず救済の爲め一億二千留の支出を要するの實況なるを以て露曆千九百十二年の實收果して豫算の如く豊富なるや否や實に寒心の極みなり  
今一步を進め露曆千九百十二年の豫算の内容を見るに左の如し

收入

經常收入

第十三表ノ四

第一類 直接税	西曆一千九百十二年度 豫算案上ノ金額		同一千九百十一年度 豫算案上ノ金額		比較増減
	金額	増減	金額	増減	
内 地租及不動産税	二二四,九六〇,八六六	増	二一〇,九七六,三四四	一三,九八四,五三二	
内 商工業税	七七,五四一,〇六六	増	七四〇,七〇三	七,四〇七,〇三三	
第二類 間接税	一九九,二九二,八〇〇	増	四一五,五〇〇	四,一五五,五〇〇	
内 煙草税	六三八,〇五七,六〇〇	増	五八七,五三三,五〇〇	五〇,五五五,一〇〇	
内 砂糖税	六六,三三六,〇〇〇	増	一一五〇,〇〇〇	一,一五〇,〇〇〇	
内 關稅	一一八,四三〇,〇〇〇	増	五三三,〇〇〇	五,三三〇,〇〇〇	
第三類 手数料	三三八,五六〇,〇〇〇	増	三九,三七〇,〇〇〇	三,九三七〇,〇〇〇	
	一七九,七六一,四七六	増	一六九,三五五,六六〇	一〇,四二五,八一六	

内 印紙税裁判所及官廳手数料	八七,九六〇,六一〇	増	四,一二三,一七〇
第四類 國家經營事業ノ收入	八六七,二八三,七〇〇	増	一七,六三二,八七〇
内 郵便收入	七三,〇三一,〇〇〇	増	五,五四四,九七〇
電信電話收入	三四,九〇〇,〇〇〇	増	三,五〇〇,〇〇〇
酒精專賣收入	七五二,八五〇,〇〇〇	増	四,四〇五,〇〇〇
第五類 國有財産及資本收入	八四,七〇九,八〇五	増	四九,五四九,三三九
内 森林收入	七九,九〇一,六〇〇	増	六,四二一,五〇〇
國有鐵道收入	六三四,〇五四,六九五	増	三,七六八,三三七
第六類 國有財産拂下	一,八〇〇,三八〇	減	七,五〇〇
第七類 前農奴ノ年金	八〇六,二〇〇	増	八六,五〇〇
第八類 國庫支出金の受戻高	一一,九三六,四六二	増	五,四六六,二五八
第九類 雜收入	一五,八三三,〇六二	減	三〇一,一七一
經常收入合計	二,八五五,一六九,五五一	増	一四七,四六〇,七三四
臨時收入	二,四〇〇,〇〇〇		
帝國銀行永久預金	二,四〇〇,〇〇〇		



饑饉救濟基金ノ返濟	三,000,000	10,000,000	減	七,000,000
臨時收入合計	五,400,000	11,400,000	減	七,000,000
經常臨時收入合計	二,八六〇,五六九,五五一	二,七三〇,一〇八,八三七	增	一四〇,四六〇,七二四
國庫剩餘金ヨリ支出高	一一四,六八二,五四九	—	增	一一四,六八二,五四九
總計	二,九七五,三五二,一〇〇	二,七三〇,一〇八,八三七	增	二五五,一四三,二七三

支出  
經常支出

第十三表ノ五

第一 宮内省	一六,三五九,五九五	一六,三五九,五九五	減	一五,一八四八
第二 最高官衙	八,一一三,六八四	八,二六五,五三三	減	一五,一八四八
第三 聖教院	四〇,一二九,九九九	三七,五五五,四七六	增	二,五九四,五〇一
第四 内務省	一七三,六七八,五六六	一六三,三七〇,三八一	增	九,三〇八,三〇五
内 一般行政費	九九,二六四,一〇九	—	增	九九,二六四,一〇九
郵便電信及電話經費	七三,四一四,四七七	—	增	八,三四八,九四六
第五 大藏省	四三四,一五八,四八七	四〇九,三八七,三五五	增	一四,七七二,一三三

内 國庫局

酒精專賣局	一三二,一八九,八九六	—	增	四,四九四,三〇〇
第六 司法省	一九三,〇九九,六四七	七七,〇七六,二六三	增	一〇,三八九,八四九
第七 外務省	八三,〇一六,四三二	六,二七三,五九五	增	五,九四〇,一五九
第八 文部省	六一,五六九,一九〇	九七,五七四,六〇一	增	二九五,五九五
第九 遞信省	一一四,四三六,〇七二	五四八,二〇二,六七一	增	一六,八六一,四七一
内 河川道路管理廳	五六七,二七五,〇〇〇	—	增	一九,〇七三,三三九
鐵道廳	三四,四七八,六三一	—	增	三,四〇六,三〇八
第一〇 商工省	五三九,六六七,九三二	四〇,七八五,五六七	增	一五,五三〇,〇四七
第一 農務省	四九,二四三,七三八	一〇,一四九,六四四	增	八,四五七,一六一
第一二 馬政廳	一一七,六七二,二七二	—	增	一六,一七四,八〇八
第一三 陸軍省	二,二〇三,八七九	二,〇三五,一七九	增	一六八,七〇〇
内 經理部	四九四,三九七,九七〇	四八三,六八一,七七三	增	一一,六一六,一九七
砲兵部	三四七,九九七,〇四三	—	增	一四,〇四五,三六八
技術部	三九,八三九,八七四	—	減	五,〇一七,〇三四
	三二,一三三,九四一	—	增	六九九,七二八



參謀本部	三六,五三三,三三五	增	七四,三三九
第一四 海軍省	一六四,二六一五七	增	五五,九五九,五五七
内			
戰闘艦ペトロバウ	七,二五〇,〇〇〇	增	二五〇,〇〇〇
ロウスク建造費	七,二五〇,〇〇〇	增	二五〇,〇〇〇
同セバストポール	七,二五〇,〇〇〇	增	二五〇,〇〇〇
同	七,二五〇,〇〇〇	增	二五〇,〇〇〇
同ガングイト同	七,二五〇,〇〇〇	增	二五〇,〇〇〇
同ポルタワ同	七,二五〇,〇〇〇	增	二五〇,〇〇〇
黒海艦隊所屬艦船	三三,九〇〇,〇〇〇	增	三三,九〇〇,〇〇〇
建造費	五,六一,一九三	增	一,四三,〇三九
大修繕及武装變更	八,七九九,四七八	增	二,五九五,二三
製砲部	二五,五九六,七七三	增	一六,二九,六六五
水雷及無線電信部	九,三九三,五三〇	增	五,五六三,八三一
工廠擴張	一一,〇二七,一四八	增	三三,五六六
第一五 會計検査院	五〇四,五五四,〇四六	減	二,六二,六五八
第一六 國債費	一〇,〇〇〇,〇〇〇	増	—
第一七 雜費	二,六八五,九五〇,二二五	増	一五八,六七七,九九五
經常支出合計	二,五三七,二七二,三三〇		

臨時支出

第一八 日露戦争ニ關スル支出	四一〇,四五四	減	一八九,九五六
第一九 兵器軍需品ノ充實ニ要スル經費	七〇,〇〇〇,〇〇〇	増	二,四〇〇,〇〇〇
第二〇 鐵道敷設費	一一六,六八五,六八九	増	二,四六七,五三四
第二一 鐵道會社補助金	一,九六五,七四三	増	五,四六,五四八
第二二 雜費	一〇〇,三四〇,〇〇〇	増	五,四,九四九,一六三
酒精專賣局ノ賠償金	二五〇,〇〇〇	増	二五〇,〇〇〇
四分利付國庫債券ノ臨時償還	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	増	五,四,七〇四,一六三
臨時支出合計	二八九,三〇一,八八五	増	九六,四六五,二七八
總計	二,九七五,二五三,一〇〇	増	二,五五,一四三,二七三

十 近年の貿易の實況

抑々財政は經濟の反響にして歲出の増進國債の増加生産的有効のものをして一般國運の發達に伴ふものたらしめば即ち可なりと雖も此間露國經濟の發達を見るに或は爲に寒心せざるを得ざるものなしとせず、今外國貿易の成績に就き之を見るに西曆千八百八十三年には輸出十億三千七百二十三萬留、輸入九億一千八



十萬留同千九百二年には輸出八億九千三百三十萬留輸入五億六千九百二十五萬留にして即ち二十箇年間に輸出に於て年額四千五百九十三萬留輸入に於て三億四千百五十五萬留を減少し、西曆千九百九年に於ては輸出約十三億六千六百萬留にして多少の増加を示せしと雖も輸入は約七億八千九百萬留に止まり尙往日に及ばず、是れ國民消費力の減少を示す者にして固より好兆と云ふを得ず而して其輸出の増加も既に供給裕かならざる穀物の輸出(約七億四千八百萬留前年は三億七千五百餘萬留に止まれり)に由る者にして是れ亦事實の順況と云うを得ざるなり

十一 農業の情况

又農業の情况に就て見るに西曆千八百七十年には穀物の收穫高四億ヘクトリートル「一ヘクトリートル」は五斗二升八合四勺強にして同千八百九十四年には五億千五百萬ヘクトリートルなりとす、是れ一見満足すべき結果なるが如しと雖も此間露國の人口は七千萬より一億六百萬に増加せしを以て一人當の收穫高は五ヘクトリートル半より四ヘクトリートル九に減少したる割合なり(歐洲露領)此人口の増加と前記輸出入の減少とを對照するときは露國經濟に就き轉た寒心する所のものなしともせず

又輓近露國主要産物の産出高を見るに左の如し

第十四表

	西曆千九百二年より 同千九百六年まで	同千九百七年	同千九百八年
冬期 黑 麥	三三、三二、〇〇〇	三二、九九、〇〇〇	三〇、四五、〇〇〇
同 小 麥	六、四九、二六〇〇	四、八四、〇〇〇	四、四一〇、〇〇〇
夏期 黑 麥	四六九、八〇〇	五七、二、四〇〇	三七八、〇〇〇
同 小 麥	一一、七三、四〇〇	一〇、四三、〇〇〇	一一、六〇七、二〇〇
獨 逸 小 麥	三八四、四〇〇	二七、八〇〇	一八七、二〇〇
大 麥	八、〇七、二〇〇	八、四五六、四〇〇	九、〇四一、四〇〇
蕎 麥	一、二五、八〇〇	一、二九、六〇〇	一、〇九五、四〇〇
稗	二、二四八、二〇〇	二、五二九、〇〇〇	二、四三三、六〇〇
玉 蜀 黍	一、二八三、四〇〇	一、四二〇、〇〇〇	一、七二一、八〇〇
豌 豆	七四一、六〇〇	七二〇、〇〇〇	七〇六、四〇〇
扇 豆	二〇七、〇〇〇	二〇七、〇〇〇	二四一、二〇〇
菽 豆	七五、六〇〇	七五、六〇〇	七五、六〇〇



燕 麥	一四、三九八、二〇〇	一四、四四〇、二〇〇	一五、〇三三、六〇〇
馬 鈴 薯	三、六四三、二〇〇	三、四五六、六〇〇	三、三七六、六〇〇

今露の農業化學の大家として知られたるメンデレエフ氏の調査に依るに露國が過去二十五年間に土地の生産力を失ひたる歩合は實に二割五分にして二十年前までに露の寶藏と稱へられたるサラマ地方に於てすら「デシヤチン」の收穫の減少左の如し

第十五表

冬 麥	三一、ブード二七	春 麥	三四より二五
大 麥	四一より三〇	裸 麥	三三より一八
燕 麥	三三より二六	馬鈴薯	三〇一より二一三

又隣國なる丁抹の一經濟學者ベルク氏の調査に依るに南露地方に於ては肥料の使用極めて乏しく例せばヴォルガ河畔のウタヴロボル縣に於ける二百の村落中百二十八箇村は會て肥料を施したることなく土地は雜草を以て覆はれ種子の撰擇は行はれず、小麥産地の農民にして會て白麵麩を口に爲ることなく黑麵麩と雖も贅澤品と看做さるゝの情況にして收穫皆無の場合少からず饑饉は殆ど慢性

學者間の調査

質となり、國稅の重きは論なく地主にして對農民の徭役甚しく加ふるに鐵器類に重稅を課するを以て農民之が使用に堪へず、已む事を得ず木製農具を用ひ草菅穀に膝ち滿目荒麥殷紂の野を見るの思ひあり、噫呼是れ誰の過ちぞや

斯の如き實況なるを以て露國に於ては饑饉は一の流行物となり西曆千九百六年の如きは殊に甚だしくサマラ地方に於ては「エイクル」の收穫高百英斤に止り種子の半を回復することを得ざるの凶作に陥れり、然るに該地方は人口三百萬餘を有するを以て如何ともし難く二箇月間に馬二十萬頭、牛八萬五千頭は或は屠殺貪食せられ或は斃死し家畜の損失二割乃至三割四分に達し、饑饉は廿五縣に廣がり一家五口内三人は壯年者より成立するものが一日五十錢以下の費用にて生活せざるを得ざるの慘狀に沈淪せり斯の如き有様なるを以て國民教育の如きは夢にだに之を見る能はず西露に於ては文字を讀み得るは百分の二にて中露にては百分の四なり而して常食は馬鈴薯、胡瓜、黒パンにて纔かに饑を支ふるの有様なり、然るに寺院の祭祀日に於ては飽まで鯨飲馬食し大に健康を害し、イヌタ祭の後には死亡率増加し小兒の如きは倍數に達すと云ふ。總て露は兩極端に走るを以て常と爲し一方農民の極貧に對し一方官僚僧侶の驕奢あり又一方農民の斷食的生



活あれば一方寺院の祭日に於ける鯨飲馬食あり、一方天に連なるの平野あるに農民は常に耕地の少きに苦しむが如き總て常識を以て律す可らざるは是れ露式なりとす而して土地の割付も次第に減少し一人前の畑の面積は西曆千八百六十一年の四デシヤチン八より同千八百八十年の三デシヤチン八となり同千九百年には更に減して二デシヤチン半となり同千九百一年には農民一人が耕し得る土地の五分の四以上を保有する能はず一人の生産高は其需用高に對し一割六分の不足を生じ家畜一頭の需用に對しては四割一分の不足を生じ西曆千九百七年に於ては農民中自己生産物を賣却し能ふ者は僅かに總數の九分九厘にして七割七厘は自己食料に充つべき分量の收穫を得る能はざる窮境に陥れり、然るに過去三十年間に中部及南部に於ては地代四五倍上騰し、東西部に於ては二三倍となれり、第十一表に掲載するが如き結果を生ずる偶然に非ざるなり、生計情態斯の如くなるを以て農民中に文化の普ねからざるは暫らく已を得ざるとするも之と同時に地方官中の教育の程度に至りては更に驚くべき者あり即ち最近西曆千九百七年の調査に據るに露國地方官中高等教育を受けたる者は僅に百分の二に止まり中等教育を受けたる者百分の六、小學に登りし者百人中十二人其他は曾て規律ある學

校に學籍を有せし事なし、僧侶亦學識に富まず故に官僚及僧侶は國民教育の發達を望まず政令行はれず終に此情態を來せり(因に云ふ醫者も亦三萬人に一人の割合なり)

斯の如く露國上下の教育閑却せられ加ふるに歳入上の必要より飲酒は之を抑制するより寧ろ獎勵せらるゝを以て國民の身體智能に不良の結果を來し身體に就ては前陳の如く智能に就ては犯罪の増加大に参照すべきものあり、今最近司法省監獄局の發表したる犯罪者の統計に據り之を見るに西曆千九百年に終る十二年間の一日平均在監人員左の如し

第十六表

西曆年次	人	西曆年次	人
一八九八	八四、六七六	一九〇四	九一、七二〇
一八九九	八六、八六三	一九〇五	八五、一八四
一九〇〇	八五、八五七	一九〇六	一一一、四〇三
一九〇一	八四、六三三	一九〇七	一三六、五〇〇
一九〇二	八九、八八九	一九〇八	一六六、〇六四



(六月一日現在)

收穫の景況

又最近の報告に據り露國穀物の收穫の景況を見るに西曆千九百五年には總高三十七億八千四百萬ブード(一ブードは四十英斤)にして輸出六億九千七百萬ブードに達し同千九百六年には收穫三十二億五千七百萬ブードに減じ輸出亦五億九千七百萬ブードに減少せり果して然らば内國消費の爲に爲す所の者は二十二億六千七百萬ブード乃至三十億八千七百萬ブードに過ぎず今之を露の人口約一億四千萬に割當れば一人宛て十九ブード零五乃至二十二ブード餘にして平均二十ブード五五なりとす(凡我二石六斗四升其量人口を養ふに充分ならず加ふるに酒類製造の爲め多額の穀類を費やさざるを得ず而して燕麥の如きは多く馬匹の飼養に使用せざるを得ず露民の生活亦憫諒すべきものあり是に於て方今露國の死亡率は諸文明國中に於て最大多數を占め千に付る三三五の高率を示し之を其隣國なる獨逸の二二二に比すれば實に同年の論に非ず而して國民の體力健康亦大に減じ近年軍備擴張の爲め大に標準を降下せしと雖も徵兵不合格者年に増加し歐洲露領五十縣の實況を見るに其平均實に左の如し

西曆千八百七十五年乃至八十三年	六分四厘
同 千八百八十四年乃至九十三年	七分五厘
同 千八百九十四年乃至同千九百一年	一割三厘

然るに今哉(四十年)戰役前に比し兵數約十四萬人を増加す是れ露國臣民の負擔に一層の重を加へたるものと云つべし

斯の如く總收穫に於ても減少を示し又一人當りを以て算するも露國收穫物は一人に付き凡そ麥類二石五斗に過ぎず然るに同國輸出物の過半は農産物にして其價格年に三億乃至四億圓を超過す此金高の大部分は外債の利子支拂に必要にして他に之を求むるの道なく穀物の輸出は外債と共に年に増加し西曆千八百七十年七十四年頃には其高三百十三萬二千噸に止まりしも同千八百九十年九十四年頃には六百七十萬八千噸に増加せり是に於て國民漸やく菜色ありて其生産力年に減少を示し西曆千八百六十一年六十五年と同千八百九十一年九十六年とを比較すれば播種の石數に於て三割五分を減じ之を三十年以前に比し今日は土地の生産力に於て二割七分を減じ西曆千八百六十八年より同千八百九十五年まで飼養料缺乏の爲め農民が其馬匹を失ふこと四割八分の多きに達し妻子を驅り

穀物の輸出と外債との關係



て馬耕に代ふるの實況なり、今馬匹と農地との關係を示せば左の如し

第十七表

西曆年次	無馬農地	一馬同上	二馬同上	三馬以上同上
一八八二	二六、九			
一八八八乃至九〇	二七、八	二八、六	二九、九	三〇、七
一八九一乃至九六	三三、二	三九、一	四二、二	四七、五

評者曰く露國の如き粗放的農業に馬匹なきは小刀にして刃なきが如しと蓋し至言と云つべし、加之馬匹の外羊豕其他の小動物も著しく減少し西曆千八百七十年には農地千箇に付き五千四百六十九疋を有せしに同千九百年には三千四百五十九疋となり實に三六分八厘の減少を示せり、同時に土地の割付反別も大に減じ賠償金増加し并に貴族地を貸付する爲めなるべし歐洲露領五十縣の實況左の如し

西曆千八百六十年	四、デシヤチン八
同 千八百八十年	三、デシヤチン五
同 千九百年	二、デシヤチン六

右は農夫一人に對する平均割付反別なり割付は東北に於ては概して大きく東

南西南に於て小なり最少は一、デシヤチン四なり

露の農事凡そ斯の如し幸にして西曆千九百八九兩年は近年の大豊年にして十年の作柄亦平年を越へ幾分か活氣を添へたりと雖も人口も一億五千五百萬を越へ麥類の生産高尙ほ一人二石に上らず之を他國に比して緩裕なりと云ふを得ず況や多額の輸出あるに於てをや

十二 農民負擔の情況

加之農民の負擔は年に重を加へ今哉(三十七年)其収入の六分の一乃至三分の一甚きに至りては二分の一以上に達し農家食料の爲め僅かに一日約六錢を餘すの極に達せり、今各方面よりの調査の結果を見るにモスコイ管轄の最好地方(名を脱す)の實況は一家の収入平均年四百二圓の内より直間税として七十二圓八錢内間税は飲料税二十一圓六十四錢茶税十圓七十錢を主要なる科目とし直税は二十三圓十六錢なりとすを徴收し同管内のキリン地方は二百二十六圓五十八錢の收入より七十七圓十四錢を徴し、サラトフ管轄のバラセフ地方に於ては百十七圓七十六錢の收入より六十二圓三十四錢即ち歲入の半額以上を徴するの割合なり而して露領中最も富裕の名あるタウリダ(クリミヤ方面)の地方會議(ゼムストウオ)の調



査に依るに該地方各家の所有地は平均凡そ十一「デシヤチン」にして直税十六留三十七哥間税六十八留七十八哥合計凡そ八十五留を負擔す然るに收穫物の最も高價を占むるときと雖も賣却代價は七十五留に達すること難しと云ふ之を英國農民の收入が西曆第十七世紀に於て四十二磅十志に達せしに比し殆ど評言を求むるに苦しむ意納者の多き實に偶然に非ざるなり又一箇年三百九十留二十「コベック」の歳入を有する農家が主要なる消費品の爲に使用する一年の金額と其消費品の負擔する税金との關係を見るに左の如し

第十八表

物品	價格	税金
酒類	三九、一〇	二一、〇〇
砂糖	二六、八六	七、〇〇
製茶	二二、二	一〇、四〇
綿布類	一〇、八九	三、八
他の衣類	六、四〇	未詳
石油	四、五二	一、五

煙草	一、六	〇、三〇
燐寸	〇、五五	〇、三
合計	一〇一、三〇	四四、二

由是觀之是等消費品の負擔する所の租税は約四割四分にして他の費用の爲め一年僅かに百八十九留一「コベック」を残すのみ加之地租甚だ重く土地の生産力の四倍乃至六倍に及び甚しきに至りては十倍に達するものあり夫れ露農は土地を得て其貧を加ふるとは世上に喧傳せらるゝ所なり諺に曰く天に口なし人をして言はしむと蓋し誣言に非ざるなり而して地方指揮官「リラル、コムマンドル」及地方裁判所及巡査は人民を鞭つゝの權を有し時に苛政誅求の譏なしとせず教授「ジョンソン」氏の調査に據れば西曆千八百七十七年「ヴゴロイド」州に於ける實況左の如し

- 一 従前の御料地農民の地租の負擔は其生産力の十割
- 二 従前貴族地全上 十六割一分
- 三 従前よりの個人農業者 十八割
- 四 過渡義務農 二十一割

然るに方今に於ては五十六割五分に達する者二三に止まらず抑々「ヴゴロイド」



は露國に於ては有數なる富裕の土地なるに輓近同郡會の調査に據るに男子の三分の一女子の三分の二は純農にして他に収入を求むるを得ず。其他は副業に従事し爲に得る所の一年の収入は百八十五萬五千百留に達し一見富裕なるが如しと雖も、食料の不足の爲め三百萬留以上租税の爲め三百二十七萬八千百三十六留を支拂はざるを得ず餘す所僅かに二百五十萬留のみ、試みに之を一戸に割當れば一手僅かに十二留六五、コペックスを残すのみ。今一步を進め露國各地の土地収入と租税及地價賠償年額とを比較すれば左の如し

第十九表

管轄地	負擔歩合
セイントピートルスボルグ	一二八〇乃至一五〇五
モスコイ	二〇五、〇(平均)
トフェル	二四四、〇乃至二五二、〇
スモレンスク	一六六、〇乃至二二〇、〇
コスツロイマ	一四六、〇乃至二四〇、〇
ブスコフ	一三〇、〇乃至二一三、〇

ウラジミール  
ウイアツカ

一六八、〇乃至二七六、〇  
九七、〇乃至二〇〇、〇

實に異數と云はざるを得ず而して殆ど信ずるに苦しむ、然れども是れ世に傳ふる所輕々看過するを得ざるなり

十三 租税の怠納

斯の如くして農民の生産力年に減少し西曆千八百七十一年より以降八箇年間の平均國税の未納高二割二分に止まりしと雖も其より漸次増加し同千九百年には五十三割二分に増進せり今金額を以て之を見るに西曆千八百八十五年には五千萬留に止まりしに同千八百九十六年には一億四千二百五十萬留となり、爾來大増加を爲せしや疑を容れずと雖も其數を得ざるを遺憾とす而して農民の市町村費未納高も亦大に増加し西曆千九百四年より國庫は年々二百五十七萬四千圓を支出し市町村費を補助せるの已を得ざるに至れり而して此費用は露國軍令第三十八條の規定に依る所の貧窮從軍者の家族扶助に充るもの多きに居るを以て今後益々其額を増加するの傾向あり露國財政に一困難を加ふるものと云つべし

元來怠納は露國政府の痼疾なるを以て今一步を進め租税と人口との増加歩合



の比例農地「デシヤチン」一町一反餘の負擔額及缺損額救助額に就て一言するは敢て無用の業に非ざるべし請ふ少しく之を辯ぜん

西曆千八百八十三年乃至同九十二年間に露國人口の増加は一割六分なりしに租税は二割九分を増加し西曆千八百九十三年乃至同千九百二年の間には人口の増加一割三分に止まり(蕃殖力の減少を示す)租税は四割九分を増加せり故に急納は西曆千八百七十一年乃至同八十年は平均「デシヤチン」に付三十八錢なりしに次の十年間の平均は四十八錢となり西曆千八百九十一年乃至同千九百年には一圓八錢に増加し強賣強徴頻々として起り農民は自暴自棄の境遇に陥り納税を努めず勤儉の美風地を拂ふて去れり(ベクチャターフと稱する老實なる地主の調査に據る)

#### 十四 缺損及救荒費

又政府側の調査に據るに増税の結果として過去十年間中央及本部九箇縣より收入すべき四億五千萬留中より實收し得しは四億七百萬留に止まり四千三百萬留は全く缺損に歸し同時に政府は同地方に向て救荒補助の爲め二億三百萬留を支拂ひ純収入は法定の半額に達せざるの奇觀を呈せり收歛の弊斯の如し、豈に戒

人口の増  
加と租の  
増との比  
較

めざる可んや

抑々露國は國民の最大多數を(人口の約八割五分)占る所の農民を基礎とする所の帝國なるを以て其本を養はずんば國勢の隆盛を望む能はざるは論を俟たず然るに彼のウキッテ氏は非常の熱心を以て工業政策を行ひしを以て其結果工場の繁榮は全く之を政府の注文に俟ざるを得ず政府の注文は國費の膨脹となり、國費膨脹の結果は民力の乾涸となり止む事を得ず新設事業の維持を外國市場に求めんと欲し或は航海補助となり或は輸出獎勵金の支給となり甚しきに至りては法律を無視し中央銀行をして此等事業に對して貸付を爲さしめ西曆千九百一年には四千百萬留同二年には七千五百萬留を貸出し其内九百萬留は既に缺損となり其後尙ほ段々増加するの勢あり而して西曆千九百三年には貸出高一億留に上れり其本亂れて而して未治まる者あらしの例に漏れず當局非常の苦心も終に破れて水泡に歸し坤第二編第四節第四目に於て記載するが如き結果を來せり、經濟の事情斯の如くにして財政の擴張を試みる又難からず哉而して軌近各種の報告に就て之を見るに西曆千九百七年度の如きは經費の増加甚しく其總額の經常歳入を超過すること十億留に達し殆ど信ず可らざるの情況を呈せしに尙ほ進んでウキッ

無理の結  
果を中央  
銀行へ持  
込む



テ氏の有力なる反對あるに拘はらず八億留を投じて極東に不生産的鐵道を建設するの決議を爲し自ら巨額の公債を起さざるを得ざるの苦境に陥れり而して保護政策は物價の騰貴を致し一旦之が爲め市街に集まりし人民は業を失ひ急に田舎に歸り食品燃料寒國には大關係ありの價格大に増加し納稅負擔は前記の如く無類に重く食品缺乏して政府は殆ど年々救荒の爲め巨額を支出し問題は最早其當不當論を超へ何時まで斯の如き情態を繼續し得る哉にありて存す又佛國資本家の好意も無限なりと云ふを得ず倫敦經濟雜誌の如きは今哉露國の爲めに採るべきの策は只經費節減と重き租稅を減ずるとにありと論斷するに至れり當らずと雖も蓋し遠からざるべし

第六目 獨逸の情況

露國財政の景况斯の如し然るに其隣國なる獨逸の財政亦靜穩と云ふを得ず西曆千八百八十八年度の帝國總歲出額は約七億四千萬馬なりしに其より十年を經過し同千八百九十八年度には既に十三億八千萬馬に増加し更に十年を超過し同千九百八年度に到りては實に約二十七億千八百萬馬と成り殆ど信ず可らざるの巨額に達せり此二十年間獨逸帝國の人口は三割を増加し能く世界最高の増加率

を保つも歳出の増加は實に三十六割七分餘に達し其速かなるに驚かざるを得ず、國債の増加亦實に夥し請ふ之を左に表出せん

第二十表

西 曆 年 次	債 額 <small>單 位 百 萬 馬</small>	一 人 當 り
一八七七 <sup>三月三十一日</sup> 全	七三、二	一、六六 <sup>馬</sup>
一八八一全	二六七、八	五、九〇
一八八六全	四四〇、〇	九、三六
一八九一全	一、三二七、八	二六、五六
一八九六全	二、二五五、三	四〇、四六
一九〇一全	二、三九五、七	四三、四九
一九〇六全	三、五四三、五	五八、一四
一九〇七全	三、八〇三、五	六一、四八
一九〇八全	四、〇〇三、五	六三、六
一九〇九 十月	四、二五三、五	六七、三



帝國公債の増加斯の如くなるに短期の大藏省證券發行高も亦大に増加し西暦千八百八十一年までは約四千萬馬を以て十分なりしに漸次に増加して同千九百八年度の發行額は四億七千五百萬馬の巨額に上れり、從て國債利子及管理費も大に増加し西暦千八百八十年度には六百二十萬馬に止まりしに同千九百八年度には一億五千五百五十萬馬に増加し九年度豫算には一億七千四百四十五萬二千八百萬馬十年度には二億二千四百九十七萬餘馬、十一年度豫算に於ては更に増加して約二億八千二十六萬馬に増加せり、獨逸帝國財政改革の急務たる論を俟たず、今日同國の上下之が爲に腐心する實に故あるなり、然り而うして帝國の國債が斯の如き急劇なる増加を爲すと同時に列邦國債も頻りに増加し百五十億六千八十餘萬馬となり之を帝國公債に加ふるときは都合百九十九億五千四百餘萬と成り實に英の國債に超過し佛國の次位にあり、今三國負債増加の程度を示せば左の如し(單位十億馬)

第二十一表

西曆年次	獨(列邦債共)	英	佛
一八八〇	四、三	一五、五	一九、三
一八九〇	九、八	一三、八	一五、三
一八九五	一三、三	一三、二	二四、七
一九〇〇	一三、〇	一三、八	二四、四
一九〇五	一五、六	一、五九	二四、八
一九〇七	一七、〇	一、五七	二四、五
一九〇八	一八、八	一五、四	二四、八
一九〇九	一七、八		
一九一〇	二〇、〇	一五、二	二五、一

由是觀之英佛の如きは額頗る多きも寧ろ減少の傾向あり、然るに獨の増加は奔流の如く矢既に弦を離れて挽回の力なきの勢あり、若し夫れ帝國債のみを以て之を論せば更に驚くべきものあり

是等の増加を來せし所以のものは開明世界一般の趨勢に依るものなきに非ず



と雖も主として獨逸の國情殖民地開發の必要ありて之に要する直接の費用は勿論伴ふ所の軍備殊に海軍擴張(寧ろ新設)の爲め巨額の出費を要するに依らずんばある可らず抑々獨逸殖民政略は其國土人口の關係上一國の生命にして西曆千八百八十年之が計畫を定め費用を惜まざ爾來孜孜として其經營を怠らず經畫以前は陸海軍を合せて軍事費は四億六千萬馬に止まりしに其より十年を經過し同千八百九十年には七億馬となり同千九百八年度には十億二千萬馬となり海軍最も増加し西曆千八百八十八年度の五千萬馬より漸次増加し同千八百九十八年度に於ては既に一億三千萬馬となり爾後計畫を改め更に増加して同千九百六年度には二億四千萬馬同千九百七年度には二億七千萬馬同千九百八年度には三億三千萬馬となり尙ほ同千九百七年度までの繼續費として毎年平均少くとも四億馬を要する計畫後に詳説すべしにして同七千萬馬は毎年公債支辨と爲すの見込みなり殖民事業直接の費用も輓近著しく増加し二十六年前(西曆千九百九年より以前)までは殖民費なる科目は帝國豫算に顯はれず西曆千八百九十八年度に至り僅かに千二百萬馬を要せしに最近五箇年度に於ては平均約五千萬馬を要し西曆千九〇八年度豫算には七千五百萬馬を計上す是れ行政府補給平時軍事の費用なり

而して帝國政府が當初より西曆千九百六年末まで殖民事業に使用せし費額は主として東阿の爲め九千百萬馬キャメルの爲め二千五百五十萬馬トリゴの爲め四百萬馬南海群島の爲め二百五十萬馬サモアの爲め百四十萬馬西南阿の爲め九千四百萬馬新ギニヤの爲め七百五十萬馬膠州灣の爲め一億馬にして都合約六億四千萬馬の巨額に達し其他キャロリンマリアン及ペレウ島購買の爲め西班牙に支拂ひたる金額二千萬馬東阿征伐の爲め三百五十萬馬西南阿征伐の爲め六億四千萬馬都合約十二億八千三百五十萬馬の巨額を要せり議會の特別委員の請求に依り政府の提出したる調書に據る其他郵便船の補給電信鐵道の費用海軍費の増加等總て殖民地の爲め要する費用少なからず殖民局本部の費用は別なり是等を合するときは過去二十二年間(西曆千九百八年以前なり)に費やせし金高更に増加して約十七億六千萬馬に達するの計算なり獨逸政府が殖民の爲に力を盡す又大なりと云つべし然るに白人の移住する者は西曆千九百六年には總計一萬二千三十六人東南阿の六千三百七十二人を最多としマリアン島の二十三人を最少とす而かも白人は獨逸のみに非ず獨人は無論過半数なりと雖も官吏宣教師等を除けば凡そ半数なり而して収入は主として輸入税にて殖民地にて徵收したる税



金は西曆千九百六年には僅かに總額千九百十七萬馬に止まれり、爾來獨逸は益々力を殖民事業に致し西曆千九百七年度の直接殖民地費用の豫算總額は凡そ一億一千八百萬馬にして之を前年度にして約千三百十一萬馬の増加なり而して財政上の獨逸<sup>立</sup>を保つはサモアトウゴ<sup>立</sup>の二島あるのみ他は皆多額の補給を要す、因に記す獨逸政府北清事件の爲め費やせし費額四億六千六百萬馬なり我は僅かに約二千五百萬圓即ち五千萬馬に止まる彼我情態を異にする斯の如し

獨逸帝國歲出の増加の概況斯の如し、今計數を以て之を見るに西曆千九百九年の總支出高は二十億五千八百萬馬に止まりしに其より頻りに増加して同千九百九年には二十八億五千五百餘萬馬に増加し同千九百十年の豫算に於ては少しく減少せしと雖も尙ほ約二十八億五千三百三十萬馬を計上す而して西曆千九百八年度の豫算に於ては八千萬馬の缺欠ありて次の五箇年間に八億四千萬馬の不足を生ずるの見込なり何となれば同時間に海軍に四億七千餘陸軍に一億二千五百萬馬ホルチック運河擴張の爲め一億五千七百萬馬帝國鐵道の爲め五千六百萬馬文官官舎建築の爲め二千二百萬馬の臨時費を要し、其他帝國政府は殖民地鐵道の爲め一億五千五百萬馬の保證を引受けたればなり、此金高は全額を要せざるの見込是

西曆千九百八年度の豫算

れ戰爭饑饉等の如き事變なく太平に居ての増加なり、右の外各列邦の費用も亦少なからず、獨逸國民の負擔亦輕きに非ざるなり、八年度豫算十三億七千五百餘萬圓、西曆千九百八年度に於ける獨逸帝國の豫算は之を昨年度に比し約一億五千三百萬馬を増加し内三千七百五十萬馬は陸軍、六千萬馬は海軍の爲に要し其他は主として役員給料増加の爲に要する者なり而して陸軍増加の主要なる者は野戰砲隊の爲に要する千三百萬馬糧食費の爲に要する千百萬馬なりと是等の増加は全體の擴張整頓に依る者なるべしと雖も抑々亦保護の結果原料及食料品の騰貴に由るもの少しとせず而して歳入不足は二億六千五十萬餘馬にして之が補填は公債に依るの計畫なり、加之本年度に於ては南西亞弗利加秩序回復の爲め特に三千五百萬馬を要するの勢なり、抑々獨逸帝國は近年國勢大に張り費用從て増加し曩に西曆千九百六年増税を遂行し一億八千萬馬を得るの豫定なりしに實收は一億三千萬馬に止まり殆ど租税の最大點を超過せしの狀を呈し西曆千九百八年度の豫算に於ては新税の収入は一億三百萬馬以上を見積る能はざるの勢に迫れり、實に新税(西曆千九百六年の創始)中鐵道切手税の如きは五千三百萬馬を得るの豫期なりしに實收は二千三百五十萬馬に止まり、因に郵便収入も二千萬馬の減少



を示せり)支系遺産税の豫期高は四千八百萬馬なりしに實收は四千二百萬馬に止まり賞與金ボーナス税は一千萬馬を豫期せしに實際は六百萬馬に止まり以て國費の増加を支ふるに足らず、當年度に於ては公債償還の如きは固より之を停止せざるを得ざるの勢なり是に於てや新に酒精及「ブランデー」酒の專賣を試んとするの說當局に起れり然れども其收入見込額は五千萬馬乃至六千萬馬に止まり一專賣事業と爲し之を國家に收め其自營に歸せしむるの價値あるや否や頗る疑なき能はず、煙草税増加も一部局に唱へらる而して普魯西の豫算も亦連年不足を告げ本年も五千萬馬乃至五千五百萬馬の不足を告げ列邦分擔高も西曆千九百七年には一億九百萬馬なりしに當年は二億馬に達するの見込なり

斯の如く計畫せられたる西曆千九百八年度の豫算は不幸にして好結果を見るに至らず經常收入に於て一億八千五百十萬馬の不足を生ぜり、其内主要なる者は關税の一億二千百萬馬の減少にして西曆千九百六年の關税政策が如何に收入に影響せしやを見るに餘りあり、二千六百三十萬馬は郵便電信收入、二千六百三十萬馬は鐵道收入(是は商況不振)に於て減少し其他遺産税、鐵道交通税、麥酒税に於ても多少の減少を示せり、歳出に於ても大に節約を加へ六千三百十萬馬を減らし國債

償還、寡婦孤兒保険料の繰入も當年度に於ては之を停止して純歳入不足は一億二千二百萬馬に減ぜり、然るに該基金には五千三百萬馬を繰入れざる可らず、列邦への分賦金は一億馬に上り西曆千九百七年度の分擔金は延納となり同年度の不足未償高尙ほ千三百八十萬馬を存するを以て西曆千九百八年度の決算も亦多少の困難を見るに至れり

西曆千九百十年度の提出豫算は陸軍費を減じ海軍費を増加し、公債費を増加し、殖民地補給費を減じて外面頗る改良の形を呈せり則ち

二、六六、八五、〇〇〇

經常費は

六八五、〇〇〇

にして昨年に比し

一九、三八、〇〇〇

を増加せしと雖も臨時費は

三、四、六六、〇〇〇

にして昨年の

四三、三九、〇〇〇

に比して

三六、四〇、〇〇〇

を減じ差引總計

二八、三四、〇〇〇

を減少し、海軍に於て

四七、三六、〇〇〇

を増加し陸軍に於て



を減少し海軍總計を

四四三、三六、〇〇〇

と計上し既定の繼續年割額

四四〇、八〇〇、〇〇〇

を超過す以て繼續年割額の頼むに足らざる知るべきのみ

而して陸軍總計は

八〇七、四五八、〇〇〇

にして其減少は主として境界防禦にありて外交上多少頼む所あるに似たり、海軍の増加は主として製艦及之に伴ふ所の港灣改良船渠擴張なりとす

又收入に就て之を見るに左の如し

關稅及内地稅

一、四四一、六三〇、〇〇〇

にして之を現年度の

一、三〇三、二八〇、〇〇〇

に比するに僅かに

三三八、三四〇、〇〇〇

を増加す、元來立法の當時は新稅の增收は之を四億五千萬馬と見込みたりと雖も實際豫算を編製するに當り二億馬以上を減ぜしは之を西曆千九百六年の經歷に顧み頗る思慮ある處置と云はざるを得ず其他は郵便電信鐵道收入、列邦分擔金等を以て支辨するものなり

西曆千九百十年の豫算は幸にして好況を呈し清算に至り陸軍に於て三百五十

萬馬、海軍に於て百萬馬、恩給費に於て二百五十萬馬を餘す等歳出の減少するもの少なからず收入に於ては鐵道郵便電信收入に於て三千萬馬、關稅及内地稅に於て五千七百五十萬馬の増加ある等に由り一億千七百七十萬馬の歳計剩餘を生じ前年度の歳計不足約一億二千三百萬馬は殆ど之を償ふことを得たり、然りと雖も同年度の帝國及聯邦の歳出合計は八十九億百萬馬にして内五十八億六千九百萬馬は聯邦の支出に屬し兩者歳入の合計は八十八億八千四百萬馬にして聯邦の歳入は五十八億五千二百萬馬なるを以て獨逸全體より之を觀るときは依然として歳入不足を免れず而して西曆千九百十一年度の帝國豫算は概略左の如し

第二十一表

科 目	歳出經常部	科 目	歳入經常部
帝國議會費	二、一〇三、三五五	關稅及内地稅	一、四八二、七四一、九〇〇
同上宰相府	三、四、四七〇	賠償金	一三二、四〇〇
外務省	一八、五八八、六八三	郵便電信	七三四、一六一、六〇〇
内務省	八九、〇四三、七六七	印刷局	一三、五八八、〇〇〇
殖民省	二、八八九、五〇四	鐵道	一三、八九三、〇〇〇



陸軍省	七五、二六、九〇二	銀行税	一五、五九〇、〇〇〇
海軍省	一六七、二二、八五四	雑收入	七五、四七四、五七〇
司法省	二、八八九、五八〇	聯邦貢納金	二一、〇〇四、七〇〇
大藏省	二〇一、三六一、三三五	歩合金	四六、三三四、七四三
國債費	二八〇、三五一、八一九	經常歳入合計	二、七〇七、八一九、九二三
會計検査院	一、三九二、三三八	臨時歳入	二二七、二三五、八一七
恩給費	一五三、七九八、四四六	總計	二、九三四、九四五、七三〇
郵便電信	六四三、七三〇、三六九		
印刷局	八、七三八、二三五		
鐵道費	一〇一、九二七、三三〇		
鐵道院	四八四、八四〇		
永久費合計	二、三八九、七三四、六〇七		
一時限費	三二八、〇九五、三〇六		
經常費合計	二、七〇七、八一九、九二三		
臨時費	二二七、二三五、八一七		

總計

二、九三四、九四五、七三〇

公債に就て之を見るに本年度に於て前數年度の歳入不足を補填し及列邦分擔金の滞納を引受んが爲め總額六億八千萬馬の追加豫算を提出し内四億三千万馬は公債支辨にして其他一億五千二百萬馬は明年度豫算の不足を補ふ爲め借入を要す斯の如く公債増加するを以て利子總額は一億七千五百七十四萬馬となり現年に對し二千百七十五萬馬の増加を示す。一時借入の利子は七百萬馬にして現年度に比し一千萬馬の減少なり、果して然らば中央銀行は少しく其金融を緩ふする事を得べし而して最近兩年の國債額の移動は左の如し

第二十二表

四分利公債	西曆千九百十年十月一日	同千九百九年十月一日
三分五厘利公債	七五三、二九、〇〇〇 <sub>馬</sub>	四一〇、〇〇〇、〇〇〇 <sub>馬</sub>
三分利公債	二、〇二〇、七四五、〇〇〇	二、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇
四分利大藏省證券	一、七八三、六九五、〇〇〇	一、七八三、五〇〇、〇〇〇
合計	三、四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇、〇〇〇
	四、八九六、六三三、五〇〇	四、五五三、五〇〇、〇〇〇



右の外一時借入は常に中央銀行より借入るゝものにして金融市場を壓迫すること少なからず且つ斯の如く起債頻繁なるを以て獨逸の金利は常に他國に比して高位に在りて公債價格は輒近著しく降下せり、今過去十五箇年間の經歷を見るに西曆千八百九十七年に於ては舊四分利付を三分半に借換ゆることを得たりしに同千九百八年四月に至りては四分付に立戻らざるを得ず同九年の五月には纔かに四分利を以て發行するを得るの否境に陥れり、其價格を以て之を見るに西曆千八百九十年には三分半を百二半を以て發行するを得しに昨年五月の三分半は稍やくにして九十五、六を以て發行するを得たり第一の三分利付は西曆千八百九十年に於て八十七の價格にて之を發行して後久しく其發行を見ず同千九百三年に九十二にて發行せられたり而して西曆千九百十年の三分利公債の平均價格は八十四、四一なり、今西曆千八百九十七年以來の獨逸公債價格の變動及英佛との比較を示せば左の如し

第二十三表の一

(自國市場の相場なり)

西曆年	獨逸帝國三分利公債	獨逸帝國三分利公債	普漏西三分半利公債
千九百十年	平均價格 利廻	平均價格 利廻	平均價格 利廻
	最高價格 最低價格	最高價格 最低價格	最高價格 最低價格

西曆年	獨逸帝國三分利公債	獨逸帝國三分利公債	普漏西三分半利公債
千九百十年	平均價格 利廻	平均價格 利廻	平均價格 利廻
	最高價格 最低價格	最高價格 最低價格	最高價格 最低價格
一月	九四、二七 三、七一	八五、三三 三、五三	九四、二七 三、七一
二月	九四、一四 三、七二	八五、二四 三、五三	九四、一四 三、七二
三月	九三、六二 三、七四	八四、六八 三、五四	九三、六二 三、七四
四月	九三、三七 三、七五	八四、七九 三、五四	九三、三七 三、七五
五月	九三、〇六 三、七六	八四、六九 三、五四	九三、〇六 三、七六
六月	九三、〇〇 三、七六	八四、六〇 三、五四	九三、〇〇 三、七六
七月	九三、二二 三、七五	八四、八〇 三、五五	九三、二二 三、七五
八月	九三、〇四 三、七六	八四、九三 三、五七	九三、〇四 三、七六
九月	九三、三九 三、七九	八三、二〇 三、六一	九三、三九 三、七九
十月	九三、四三 三、七九	八四、〇〇 三、五九	九三、四三 三、七九
十一月	九三、四一 三、七九	八四、〇〇 三、五九	九三、四一 三、七九
十二月	九三、一一 三、七六	八三、七五 三、五五	九三、一一 三、七六
千九百十年平均	九三、一七 三、七六	八四、四一 三、五五	九三、一七 三、七六
千九百九年 全	九五、一五 三、六八	八五、八四 三、四九	九五、一五 三、六八
千九百八年 全	九二、五八 三、七六	八三、二四 三、六〇	九二、五八 三、七六



西曆年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	千九百十年平均	千九百九年全	千九百八年全
價格平均	八五、二七	八五、二四	八四、六八	八四、七二	八四、六三	八四、五四	八四、五一	八三、九三	八三、四九	八三、六二	八四、五三	八四、三六	八四、三六	八五、八一	八三、一三
利息	三、五三	三、五三	三、五四	三、五四	三、五四	三、五五	三、五五	三、五七	三、五九	三、五九	三、五五	三、五六	三、五〇	三、六一	三、六一
價格最高	八五、五〇	八五、四〇	八五、三五	八五、一〇	八四、九〇	八四、七五	八四、八〇	八四、一〇	八三、九〇	八三、九〇	八四、九〇	八五、五〇	八七、七〇	八五、六〇	八五、六〇
價格最低	八五、一〇	八五、〇〇	八四、二五	八四、四〇	八四、三〇	八四、三〇	八四、〇〇	八三、七〇	八三、八〇	八三、七〇	八三、四〇	八三、七〇	八三、三〇	八三、三〇	八二、二〇
價格平均	八二、六〇	八二、九七	八二、二六	八二、〇八	八二、〇四	八二、〇四	八二、九八	八二、一〇	八二、四六	八二、四六	八二、三二	八二、〇七	八三、八一	八三、八一	八六、〇四
利息	三、〇三	三、〇五	三、〇八	三、〇八	三、〇五	三、〇五	三、〇八	三、〇八	三、一一	三、一一	三、一五	三、〇八	二、九八	二、九一	二、九一
價格最高	八三、一六	八三、二〇	八二、八九	八二、三七	八二、六九	八二、六三	八二、三三	八二、六五	八二、〇〇	八二、〇〇	八二、七六	八三、一六	八五、七四	八八、一六	八八、一六
價格最低	八二、一六	八二、七三	八〇、九三	八〇、九一	八一、二七	八一、四一	八一、六三	八〇、七六	八〇、〇九	八〇、〇九	七八、七〇	七八、五八	八二、二〇	八三、三五	八三、三五
價格平均	九八、八七	九八、八四	九八、六七	九八、五七	九八、六八	九八、四〇	九七、四四	九七、二八	九七、四六	九七、四六	九七、三三	九七、九八	九七、七七	九六、二四	九六、二四
利息	三、〇三	三、〇四	三、〇四	三、〇四	三、〇四	三、〇五	三、〇八	三、〇八	三、〇八	三、〇八	三、〇九	三、〇八	三、〇七	三、一二	三、一二
價格最高	九九、一一	九九、九八	九九、一八	九九、七九	九九、九三	九九、八〇	九九、九四	九九、五〇	九九、八七	九九、八七	九九、五四	九九、一八	九九、二二	九九、六三	九九、六三
價格最低	九八、五九	九八、五四	九八、一九	九八、四三	九八、二五	九七、八〇	九七、一八	九七、〇〇	九六、九三	九六、九三	九七、〇〇	九六、四八	九六、三三	九四、三六	九四、三六

第二十三表の二

西曆年次	普漏西三分利公債	佛蘭西三分利公債
千九百十年	價格平均 八五、二七 利息 三、五三 價格最高 八五、五〇 價格最低 八五、一〇 價格平均 八二、六〇 利息 三、〇三 價格最高 八三、一六 價格最低 八二、一六 價格平均 九八、八七 利息 三、〇三 價格最高 九九、一一 價格最低 九八、五九	價格平均 八四、一五 利息 三、五六 價格最高 八七、三〇 價格最低 八一、二〇 價格平均 八二、六〇 利息 三、〇三 價格最高 八三、一六 價格最低 八二、一六 價格平均 九八、八七 利息 三、〇三 價格最高 九九、一一 價格最低 九八、五九
千九百七年全	九四、六六	八四、一五
千九百六年全	九四、五四	八七、七三
千九百五年全	九四、三三	八八、六〇
千九百四年全	九四、一四	八八、九〇
千九百三年全	九三、三〇	八八、四〇
千九百二年全	九三、〇六	八八、二〇
千九百一年全	九二、五四	八八、三〇
千九百年全	九二、八〇	八八、二五
千八百九十九年全	九二、七五	八八、二〇
千八百九十八年全	九二、六五	八八、一五
千八百九十七年全	九二、五五	八八、一〇



千九百十七年全	八四、四	三、五七	八七、三〇	八一、二五	八四、一四	二、九七	八七、一四	八一、〇七	九四、八五	三、一六	九六、一三	九三、七八
千九百十六年全	八七、七三	三、四三	八九、六〇	八五、九〇	八八、三三	二、八三	九〇、八七	八五、七五	九七、六五	三、〇七	九九、九〇	九四、九五
千九百十五年全	九〇、〇六	三、三三	九一、七〇	八八、三〇	八九、八三	二、七八	九一、六五	八七、七〇	九九、二一	三、〇三	一〇〇、四五	九七、七〇
千九百十四年全	九〇、〇七	三、三三	九二、二〇	八九、〇〇	八九、二八	二、八三	九〇、九六	八五、二二	九九、五四	三、〇八	九九、〇五	九四、五八
千九百十三年全	九一、四八	三、二八	九三、三〇	八九、三〇	九〇、七五	二、八二	九三、四四	八七、二六	九八、一三	三、〇六	一〇〇、〇九	九六、三二
千九百十二年全	九一、九八	三、二六	九三、〇〇	九〇、三〇	九四、三五	二、九一	九七、六一	九三、二七	一〇〇、六〇	二、九八	一〇一、九五	九八、五五
千九百十一年全	八九、二七	三、三六	九二、五〇	九六、〇〇	九四、二九	二、九二	九七、六九	九一、三〇	一〇一、二三	二、九六	一〇三、四〇	九九、九四
千九百十年全	八六、七六	三、四六	八九、一〇	九四、八〇	九九、六三	二、七六	一〇三、一一	九六、八八	一〇〇、六〇	二、九八	一〇三、〇七	九九、二〇
千八百九十九年全	九〇、七一	三、三一	九四、六〇	九七、六〇	一〇七、一八	二、五七	一一一、三八	九八、〇二	一〇一、二四	二、九六	一〇三、〇一	九八、八三
千八百九十八年全	九六、二一	三、二二	九八、三〇	九三、七五	一〇九、九八	二、四八	一一三、〇三	一〇七、三四	一〇三、八五	二、九三	一〇四、三八	一〇一、三三
千八百九十七年全	九八、〇六	三、〇六	九九、三〇	九七、三〇	一一二、四〇	二、三五	一一三、六七	一一〇、九四	一〇三、三三	二、九〇	一〇五、二〇	一〇一、九〇

又地方債の票本たる西曆千八百九十一一の兩年に於て發行せられたる三分半利伯林市公債價格の變動を見るに左の如し  
西曆千八百九十八年々末 一〇一、五〇

ステング  
ル氏ノ辭

同千九百三年々末 一〇〇、三〇  
同千九百八年々末 九三、八〇  
同千九百九年十二月初旬 九五、三〇

由是觀之最近の事實は伯林市の信用は帝國の上により又奇ならず哉  
輓近獨逸帝國の財政斯の如き悲況を呈するのみならず議會及各列邦及帝國間の關係頗る複雑し前大藏大臣ステングル男爵も殆ど之に處するの術に困却し終に冠を掛て去り普國出身たるジドウ氏入て氏に次げり抑々ス氏はバイエルン國出身の人にして同國に於て理財上の令名夙に高く曩に西曆千九百三年帝國財政の漸やく困難の域に陥らんとするの兆あるに際し擢てられて帝國藏相の位に昇り爾來能く其任を盡せり然るに事茲に至る曩に帝國銀行總裁コツホ氏の辭職あり今又此良相を失ふ幸にして好後嗣を得るも友邦の爲め愛惜の情なきを得ざるなり(這般八月二七初旬)ザキソン王國大藏大臣は帝國財政の實況を明言して曰く輓近帝國財政は滿性的缺乏の状態に陥り毎年不足額約二億二千五百萬馬に達す然るに西曆千九百八年度に於て新財源よりの收入豫期の額に達せざるを以て更に一億三千萬馬の不足を加ふべし故に國債償還の如きは全然望み能はず



るの實況たり

と是れ蓋し其真相を得たるものにして獨逸帝國財政の根本的改正を要するや疑を容れず。是に於て輿論亦之を促がし「フランクフォルトツァイユング」新聞等主として之を論ぜり。然るに之が實施は容易の業に非ず。國債は漸次に増加して既に四十萬馬を超過し而して建國當時には關稅及内地間稅は之を帝國に收め直稅は之を列邦に委し、帝國歳入の不足にして國債を以て償ひ能はざる者は人口割に基き列邦之を分擔し、列邦は關稅及内地間稅收入若干額を超過するときは其割前を受くるの規約なりし。然るに是等歳入の分類及歳出の分擔は當初より圓滿の結果を見ず、期年ならずして困難の狀を呈せしを以て「ビスマルク」は保護製造事業に間稅を課し、纒かに國用を充し、西曆千八百七十九年乃至九十七年までは相應の收入を得、列邦の分擔額を減じ却つて剩餘金の割戻を爲すに至り、圓滿の結果を見るを得たり。然るに關稅の收入は保護政策の爲め豫期の如くなる能はず、國運の進歩と人口の増加とは獨逸をして永く中歐強國の狀態を保つ能はしめず、海外殖民事業は其死活問題となり、大に海軍擴張の必要を生じ、爲に巨大の費用を要し、經濟財政の基礎茲に一大變動を生じ、以て新紀元を畫し、新たに財源を求むる必要を生ぜり、今

輓近獨逸帝國が海軍擴張の爲め腐心したる結果を見るに左の如し

獨逸海軍費累年統計

第二十三表

西曆年次	經常費	一時限り費	臨時費	合計	製艦費
千八百九十九年	千馬 七三、九〇〇	千馬 四七、九六〇	千馬 四〇、三〇〇	千馬 一六二、一六〇	千馬 四三、六四〇
千九百年	七三、九〇〇	四七、九六〇	四〇、三〇〇	一六二、一六〇	四七、九〇〇
千九百一年	—	—	—	一九三、五八〇	七三、四〇〇
千九百二年	—	—	—	二〇四、六八〇	七三、五八〇
千九百三年	—	—	—	二二七、七四〇	七三、八〇〇
千九百四年	—	—	—	二三二、一八〇	六九、五四〇
千九百五年	千馬 一〇五、三〇〇	千馬 九三、八六〇	千馬 四六、九六〇	千馬 二四六、一四〇	千馬 六七、三三〇
千九百六年	一〇五、三〇〇	九三、八六〇	四六、九六〇	二四六、一四〇	六七、三三〇
千九百七年	一五、三三〇	九三、一六〇	五〇、六四〇	二五九、一三〇	七一、九二〇
千九百八年	一三六、八八〇	一一一、二四〇	五五、三三〇	三〇三、三六〇	八四、〇六〇
千九百九年	一三八、八〇〇	一一九、〇四〇	八六、二二〇	三四三、九六〇	一一、九二〇
千九百九年	一四三、七〇〇	一四五、八六〇	一〇九、七六〇	三九九、三六〇	一四、五四〇



千九百十年

一五、〇五三

一七二、七六六

一一三、三六

四四、五五四

一五七、六三〇

四四

獨逸の製艦費は西曆千九百十六年までの繼續費にして其大部は七億六千九百萬馬の公債を以て支辨せらるゝものなり西曆千九百十年の豫算までにて製艦費總計は十億千八百二十四萬馬に上れり英國は全く公債に據らず年々必要の金額を豫算問題と爲すものとす兩國財政の差違躍如として顯はる豈に誣ゆ可ん哉

實に獨逸帝國は面積二十萬八千七百八十方哩を掩有し國土小なるに非ずと雖も人口既に六千三百萬を超過し而して其増加率は方今約百分の一半なるを以て佛のポリユール氏大家シュエーラ氏等の説に據れば百年の後には二億に達すべく獨逸の海外殖民地を求むるに孜々汲々たる故なきに非ざるなり果して然らば擧國力を海軍の擴張に傾く是れ當然の結果のみ何を乎怪まん然るに其費用を要すること亦莫大なるは論を俟たず獨逸帝國の財政の實に容易に非ず四海の市場に於て今日獨逸の信用伊太利の下位に在るは又是れ已を得ざるの數なりとす然るに獨逸の地位たる陸軍も亦之を減ずる能はず西曆千八百九十九年には約六億四千五百萬馬に止まりしに同千九百八年には八億五千四百餘萬馬に増加し同千九百十年には少しく減ぜしと雖も尙ほ八億七百餘萬馬を計上す今之を英國と比較

するに更に一驚を添ゆるものあり即ち同時間英國の陸軍費は四一三、〇〇〇、〇〇〇馬より五六〇、〇〇〇、〇〇〇馬に海軍費は五二四、〇〇〇、〇〇〇馬より六五九、〇〇〇、〇〇〇馬に増加せり(英國の數は九年までの數なり)

西曆千九百三年ステンゲル氏就職の當初に於て遭遇せる困難は關稅及内地間稅は之を帝國に保有せしと雖も其高若干以上に達するときは其超過額は之を列邦に分配すべきもの(フランケンスタイン規約に基く)なるを以て是等財源の増加は帝國の收入増加と成らず頗る困難を感じ規約を變じて帝國は關稅及煙草稅の全額を保有し列邦へ分配すべきは印紙稅及火酒稅の剩餘のみに止むる事に改定せり然れども斯の如き姑息の變更は以て大勢に應ずるを得ず關稅收入は保護の爲め増加を妨げられ列邦は極力分擔額を増加するを拒み固く直稅獨占主義を採て動かず進て間稅の増加を決行せんと欲すれば急進黨ラヂカルの反對する所と爲り政府黨(ブロック)亦四分五裂するの情況を示し殆ど術の施すべきものなきの窮狀を呈し十分の經畫を爲すを得ず已むことを得ずして西曆千九百六年姑息なる折衷案を成立せしめ増加を直間兩稅に採り遺產稅(直系相續は免除)を設け間稅には運輸通交稅を設け自轉車稅を加へ麥酒及紙卷煙草稅を増加せり(急進黨及社



會黨は素より之に反對せり、是等新財源の收入を一億七千二百萬馬の豫期なりしに實收は一億千八十八萬馬に止まり、通交税の如きは四千二百萬馬の豫期なりしに其徴收に向上率を用ひしに由り上級旅客大に減じ人民旅行を見合はするの勢を生じ實收は千九百二十萬馬に止り、遺産税は四千八百萬馬の見込なりしに實收は二千六百三十萬馬に止り、其他舊税に於て收入減五千萬馬に達し其他の減少を合し總計一億三千万馬を減少し新經畫に係る實收概ね減少を示し、其他尙ほ二億二千萬馬の起債を見るに至れり、然るに前記の如く來年度には尙ほ多くの不足を生ずるの見込なるを以て火酒の卸專賣及葉卷煙草税の増加を經畫すると雖も尙圓熟の機に至らず、直税の大部分は依然列邦の獨占に任ず

ジードウ氏の就職  
及帝國の財政  
前政改革の

ステングル氏既に其職を辭し二月下旬遞信省次官ジードウ氏擧げられて以て藏相の任に就けり、抑々氏は西曆千八百八十三年甫めて遞信省に入り累進して同千九百一年次官の位に昇り帝國立法事項に通曉し會て萬國無線電信協會に獨逸代表者として出席し夙に能吏の聞へあり、今回の拔擢亦故なきに非ざるなり而して氏が帝國大藏大臣たると同時に普漏西内閣に列せしは(無門大臣として)帝國と列邦との系統を一層深密ならしめ統一の域に一步を進むるものと云ふを得べし。

元來方今獨逸財源困難の最大原因は海軍擴張に在るは勿論なりと雖も、帝國と列邦との間に成立する收入の分割法亦之が一大原因たらざるを得ず、加之立法行政の重複機關は徒らに費用を尨大ならしめ、バイエルン統計局長官教授ツァニン氏の調査に據るに獨逸國の歳入は帝國及各列邦を合して當時既に約七十七億馬の巨額に達せしが爾後頻りに増加し今や八十三億六千餘萬馬の巨額に達す、之を露國の約五十億馬、英の三十億馬、佛の三十二億馬に比するに頗る過大なりと云ふを得べし、勿論獨逸に鐵道及山林等政府事業の收入頗る多く之を西曆千九百六年の實況に徴するに南獨逸のみにして三十八億馬に達し、埃伊、佛露、英の五大國の同種の收入の合計に四億馬を超過すと雖も獨民の負擔亦輕きに非ず、況や是等政府事業は之を民間に委するときは國民の收入と成り納税力を増加すべきものなるに於てをや、獨逸國經濟財政の狀態亦夷々坦々と云ふを得ざるものあり、又前記ツァニン氏の調査に據るに方今西曆千九百六年英佛獨三箇國の直間及關稅收入の一人當は

第二十四表



獨(帝國)

英(ブリテン)

佛

直税

八、九

一八、四三

一三、三六

國稅及間稅

二六、五三

四八、六六

五〇、八三

にして表面獨に輕きが如しと雖も租稅負擔の計數上の輕重は直ちて採て以て其國財政難易の唯一の標準と爲すに足らず賦課徵收の情況課稅物件の種類亦大に調査を要すべきものあり獨の食品稅及原料稅の如きは大に國民殊に細民の納稅力を減ずるの結果なしと云ふを得ず况哉又前陳の如く官業盛大にして民業の立脚地を狹窄するの實あるに於てや新藏相の苦心亦鮮少に非ざるべし

輓近獨逸財政の困難なる事既説の如く夫れ甚しく大に四海の耳目を惹き内外の新聞雜誌等每號之を論ぜざるもの殆ど稀なり今各方面の調査成績に就て之を見るに其原因は軍備擴張にありて主として海軍費の増加にある哉疑を容れず其概況を述べれば左の如し(年度は四月一日に始まる)

獨逸財政の過去及未來

第二十五表

西曆年次	支出總額	海軍	陸軍	海陸合計
一九〇三	二、三五九、三〇〇、〇〇〇 <sup>馬</sup>	二二八、〇〇〇、〇〇〇 <sup>馬</sup>	六六〇、〇〇〇、〇〇〇 <sup>馬</sup>	八八八、〇〇〇、〇〇〇 <sup>馬</sup>
一九〇四	二、〇六八、〇〇〇、〇〇〇	二二八、〇〇〇、〇〇〇	六四六、〇〇〇、〇〇〇	八六四、〇〇〇、〇〇〇
一九〇五	二、一四四、三〇〇、〇〇〇	三三六、〇〇〇、〇〇〇	六九六、〇〇〇、〇〇〇	九三二、〇〇〇、〇〇〇
一九〇六	二、四三三、四〇〇、〇〇〇	三五九、〇〇〇、〇〇〇	七四二、〇〇〇、〇〇〇	九〇四、〇〇〇、〇〇〇
一九〇七	二、五九六、四〇〇、〇〇〇	三〇三、〇〇〇、〇〇〇	七九八、〇〇〇、〇〇〇	一、〇八八、〇〇〇、〇〇〇
一九〇八	二、七五〇、〇〇〇、〇〇〇	三四四、二〇〇、〇〇〇	八五〇、〇〇〇、〇〇〇	一、二九四、〇〇〇、〇〇〇
一九〇九	二、八六五、四九〇、〇〇〇	三九九、〇〇〇、〇〇〇	八五四、七八四、〇〇〇	一、三六九、二八四、〇〇〇
一九一〇	二、八五一、二九五、〇〇〇	四四二、五五四、〇〇〇	八〇七、四五六、〇〇〇	一、三五〇、〇一〇、〇〇〇

由是觀之海軍費の増加と共に陸軍の費用も亦増加せり是れ中歐に國を建る獨逸帝國の決して免れ能はざる所の運命なり而して是等の金高には費用多き軍事的殖民地費用及膠州灣設備諸費西南阿弗利加及北清事件の費用を包含せず而して海軍繼續費も亦頗る巨額を要す請ふ之を左に掲載せん

第二十六表

西曆年次	經常費	臨時費(國債支辨)	合計
一九〇八	三、四九、一〇〇、〇〇〇 <sup>馬</sup>	九〇、一〇〇、〇〇〇 <sup>馬</sup>	三、三九、一〇〇、〇〇〇 <sup>馬</sup>



西暦年次	西暦一九〇六年の豫定高	今回の増加額
一九〇九	二八七,七〇〇,〇〇〇	四〇五,五〇〇,〇〇〇
一九一〇	三二三,八〇〇,〇〇〇	四四〇,八〇〇,〇〇〇
一九一一	三三七,二〇〇,〇〇〇	四五七,二〇〇,〇〇〇
一九一二	三四九,七〇〇,〇〇〇	四四九,一〇〇,〇〇〇
一九一三	三五八,七二〇,〇〇〇	四三〇,三三〇,〇〇〇
一九一四	三六八,四〇〇,〇〇〇	四二六,七〇〇,〇〇〇
一九一五	三七四,四〇〇,〇〇〇	四〇一,七〇〇,〇〇〇
一九一六	三八七,四〇〇,〇〇〇	四〇九,七〇〇,〇〇〇
一九一七	三九九,四〇〇,〇〇〇	四一七,七〇〇,〇〇〇

獨逸帝國海軍の爲に要する繼續費斯の如く夫れ巨大なり、然るに實際は尙ほ之より以上の費用を要することあるを期せざる可らず。抑々繼續費なる者は現在を以て未來を推す者なるを以て時勢の進歩不時の出來事等の爲め之が増加及組替を要するは之を過去の經歷に徴して殆ど疑を容れず、我國に於て屢々之を經驗し又獨逸に於ける西暦千九百六年の海軍繼續費と今回の經常豫定額組替高とを比較するに思半を過るものあり、請ふ其差違を左に表出せん。總高の差違は更に大なるべしと雖も經常費のみを以て比較する方國民負擔の真相を見るに便なるを以て經常費組替を以て比較す。

第二十七表

西暦年次	西暦一九〇六年の豫定高	今回の増加額
一九〇八	三三五,八〇〇,〇〇〇	一三,三〇〇,〇〇〇
一九〇九	三五〇,八〇〇,〇〇〇	三六,九〇〇,〇〇〇
一九一〇	二六二,七〇〇,〇〇〇	五二,一〇〇,〇〇〇
一九一一	二七四,八〇〇,〇〇〇	六三,四〇〇,〇〇〇
一九一二	二八六,一〇〇,〇〇〇	六三,六〇〇,〇〇〇
一九一三	二九六,七〇〇,〇〇〇	六三,〇二〇,〇〇〇
一九一四	三〇五,一〇〇,〇〇〇	六三,三〇〇,〇〇〇
一九一五	三二三,七〇〇,〇〇〇	六〇,七〇〇,〇〇〇
一九一六	三二四,一〇〇,〇〇〇	七三,三〇〇,〇〇〇
一九一七	三三一,一〇〇,〇〇〇	七六,三〇〇,〇〇〇

由是觀之將來に於て復た増加的組替を必要とするなきを保せず况や獨逸は保



護政策を以て國是と爲すに於てをや其大體の得失は此所に論ずべきに非ずと雖も之が爲め材料物資を高價ならしむるは論なき所にして隨て經費を増加するは疑を容るゝの餘地なし。果然西曆千九百十一年度に於ては海軍總經費を四億五千餘萬馬に増加し内約九千萬馬には國債支辨の見込なり、今比較の爲め西曆千九百七八兩年度の内譯を見るに左の如し

臨時費の増加

第二十八表(金高百萬馬止)

	西曆千九百七年度	同千九百八年度	同千百十年度
内國政務費	一九	二四	三三
陸軍	五三	五五	三三
海軍	五七	六〇	一三三
殖民局		八	
郵便電信	五三	六〇	三五
帝國鐵道	三六	三〇	七
東亞領地 <small>(在留獨人六七五名)</small>	七	七	
南東阿同上 <small>(全上五、二七六名)</small>	四〇		

合計

三二五

三二五

一七〇

抑々臨時の増加は經常増加の因を爲すは財政の通患にして深く注意を要するは論を俟たず而して本年度に於て東南阿洲領地の爲に臨時費を見積らず是れ豫算に於ては已を得ざる事に屬すべきも一週年を通じて無事なるを得るは蓋し望外の仕合なるべし。然るに増税は最早國民の堪ゆる所に非ず曾て西曆千九百六年或新聞の調査せし所に據れば伯林に居住する一年千九百四十馬四十八片の收入を有する一印刷職の負擔する直間税總額は市税を除き百三十五馬に達し英國に於ける同情態にある者の約四倍英では三十一馬なるの事實を示せり

獨逸帝國財政の情況凡そ斯の如く殊に西曆千九百七年度に於ては各列邦の分擔高も約三億二千萬馬に達し定規の數に超過すること約一億二千四百萬馬に達し列邦の財政亦裕かなるを得ず就中普漏西の如きは歲出年に増加し本年度の如きは其高約三十三億六千二百萬馬に達し鐵道改良の爲め二億四千二百萬馬の借入を要し其他ポーランドの土地強買役員の俸給増加等の爲め尙ほ五千八百萬馬の増加を要するの勢なり而して輒近發表せられたる西曆千九百七年度同八年三月に終るの收入精算を見る、大體豫算に對し三百五十萬馬の超過ありと雖も豫算

西曆千九百七年度の收入精算



各目に對し増減頻繁殆ど百折の黄河を航するの思あり即ち關稅收入は實收豫算(豫算は六億百萬馬)に超過すること四千二百萬馬内地消費稅中火酒稅は實收約一億千三百萬馬にして豫算に超過すること約千萬馬にして前年度實收に比し約七百八十萬馬の超過を見るの好況を呈し之に反し釀造所稅は約三千百二十一萬馬にして豫期に對し六十萬馬の差減を示し紙卷煙草稅は約千二百六十七萬馬の實收を得豫算に對し百二十萬馬創始年度に對し約六百萬馬の增收を得砂糖稅は實收約一億二千八百萬馬にして豫期に達せず鹽稅は豫期(豫算は約五千八百萬馬)に對し二百四十四萬馬の增收を得鐵道收入(エルザス、ロートリンゲン線)に豫算約一億千八百萬馬に對し實收三百三十萬馬の増加を示し郵便及電信收入は實收五億九千七百八萬馬に止り豫算に對し千三百萬馬の差減を生じ新發行證券登錄稅は二千百三十萬馬の豫算に對し實收千三百九十四萬馬に止まり株式及債券の讓渡稅は千九百六十萬馬を得るの豫期なりしに實收は僅かに九百四萬馬にして半額に達せず交通稅鐵道切符に賦課するものは三千萬馬の豫算なりしに實收は千八百六十萬馬に止まり同稅設立當時(西曆千九百六年)の豫期四千五百萬馬に對し莫大の減少を示せり而して新設の自動車稅及會社支配人賞與金稅は豫期の半額に

達せり然るに船荷證書稅の如きは豫算額千三百七十二萬馬に對し千五百四十六萬馬の實收を得又前年度の實收千二百二十萬馬に比して著しき好況を呈し直系遺產稅は三千六百萬馬の豫算に對し實收は二千五百六十五萬九千五百萬馬に止まり其他花籤稅の如きは頗る奇態の狀況を呈し州立に於ては豫算に及ばず私設は却て豫算に對し一萬馬の増加を示せり是れ或は弊習の社會下層に充盈するの表示にあらざらんか頗る注意すべきの現象なり

収入の實況斯の如く所謂擲頭流の弊に陥り一大改革を要する哉論を俟たず進んで所得稅を増さん乎列邦多くは之を守持し帝國の干涉を欲せず彼等自己の財政亦帝國の爲め費用を分擔するの餘地なく南北又水陸の利害を一にせず帝國は軍備及郵政改良等増費を要するもの一にして足らず事態斯の如く今日の問題は營に財政に止まるに非ずして帝國の基礎に關し頗る且つ重大なるものありと云つべし。是に於て帝國大藏省と列邦大藏省との間に協議を重ね西曆千九百八年七月中旬伯林に於て帝國大藏大臣之が會長となりて列邦大藏大臣の協議會を開き大に商量する所ありしに似たる會合は僅かに數時間を過ぎず其内容は固より秘密にして門外漢の知り得べき所に非ずと雖も世評は専ら「ブランデー、麥酒、煙草稅



の増加及直系遺産税の賦課に關するものとし頗る世人の注意を惹く所と爲れり而してジードウ氏は電氣税を主張するも反對多く殊に南獨は大に之に反對し其他兵役免除税新聞紙税等の説あれども勢力旺盛ならず

事態斯の如く帝國政府も終に已を得ず年々四億馬の不足を生ずべきを公認し其他列邦分擔の額を正當額に引直すには更に二千五百萬馬を要するの事實は最早蔽ふ可らざるに至れり而して役員を増俸獨の下級官吏は甚だ薄給なり國債償還及砂糖税廢止の補填の爲めに少なからざる金高を要し廢病文武官及孤兒寡婦給與基金の是まで他に流用されし者少からず是等も夫々補填を要し新財源を要すること實に燒眉の急となれり然るに守舊黨は増税は之を間税に止むべしと主張し自由黨は之を直税にも及ぼすべしと爲し獨り社會黨は増税を賛し諸税紛々亂れて麻の如く今哉守舊黨と自由黨とは或事情の爲め合して政府黨を爲すと雖も増税問題に於て早くも分裂の兆を呈せり而して政府は遺産税は間税なりとの説を主張し守舊黨の歡心を得んことを力めしと雖も農業黨は絶対に幼者に遺産税を課するに反對せり

抑々獨逸農業黨は帝室黨の中堅なるに拘はらず此反對ありしは獨逸政界の變

兆なりと云つべし而して急進黨ラヂカルは總て酒類煙草の如き消費品の税に反對し自由黨は帝國所得税及一般財産税を主張すと雖も守舊黨は絶対に之に反對し四分五裂國論孰れに歸する哉豫め知るを得ずして無數の混雜を惹起せり又彼の免除税の如き奧國及スウイッランドに其例あり其理由とする所は例へば方今獨逸に於て年々新に募集するを要する壯丁は約二十二萬人にして國中壯丁の約半數を占む故に壯丁の過半は纔かの體格の不備又は全く必要なが爲め兵役を免る故に之を免れたる者は他に盡す所ありて國家に報ゆるは相當なりと云ふにありて固より一應の理なきに非ずと雖も之が爲め兵役は名譽に非ずして金錢を以て之に代ゆるを得べき者なりとの觀念を惹起するときは大體に於て大に不利なる結果を生ずべきに依り獨逸に於ても反對甚だ多し是れ吾人の意を得たる者なり而して免役の壯丁は他に盡す所なきに非ず則ち服役者の家族を助けて彼等をして内顧の憂なからしめ國民が兵役を苦と爲さざる様に力むること是なり斯の如くして服役者と免役者と分業し以て國を守るは至善の事と云はざるを得ず此道あるに免役税を課するは策の得たるものと云ふを得ず事態斯の如く紛糾を重ねつゝあるに實地の事情は大に費用の増加を要し陸軍に於て千十八萬馬海軍



に於て四百九十六萬馬、國債費に於て千七十一萬一千馬、外務省に於て百十九萬五千馬、内務省に於て九十一萬四千馬合計二千七百九十六萬馬の不足を生じ多大の差違を生せり

西曆千九百七年度の結果既述の如く而して西曆千八百八年度其後を受けて復た頗る振はず、四五六三箇月間の實況既に豫算に對し歳入實收五千六百萬馬の減少を示し、取引所税に於て最も甚しく年度初の三箇月の結果より之を推すときは豫算は年額四千四十萬馬なるも實收は三千四百馬に止まるべきの傾向あり、昨年の實收は五千萬馬に登れり是れ米國恐慌の影響を受け商業沈滞より來るの結果なるべしと雖も豫算に於て既に前年に對し減少を見積りしに實際の減少は豫期に超過す、是れ市場の不振を表示するものにあらずして何ぞや、是に於て帝國政府も公然年々の不足額五億馬を下らざることを承認し、不足の原因は主として海軍擴張にありと雖も増俸、減債、孤兒寡婦扶助資金及文武官不具、不健康者救助基金の缺乏の補充も亦之が原因たり、新たに財政計畫を立て西曆千九百八年十一月三日を以て帝國議會へ提出せり、其計畫の大體は

一 新たに火酒專賣業を起し

一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

二 壘子入葡萄酒税を新設し

二〇〇、〇〇〇、〇〇〇

三 煙草税を増加し

七七〇、〇〇〇、〇〇〇

四 麥酒税を増加し

一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

五 電氣及瓦斯燈税を新設し

五〇〇、〇〇〇、〇〇〇

六 公告税を新設し

三三〇、〇〇〇、〇〇〇

七 遺産税を擴張し

九二、〇〇〇、〇〇〇

八 列邦分擔高を増加し

二八、〇〇〇、〇〇〇

合計

五〇〇、〇〇〇、〇〇〇

を得んと欲するにあり、然れども此全額を得るは設備完成の上にあるにあり、其期は西曆千九百十三年の見込なり、今哉四海浪靜かにして風枝を鳴らさず國家太平を樂む三十年然るに此缺乏を生じ此増加を必要とす、獨逸の運命亦容易ならざるものあり、請ふ今一步を進めて少く各目に就き説明する所あらんとす

一 專賣業實施の上は現行の酒精及「ブランデー」税は之を全廢し、方今の蒸溜業者は相當の賠償を受け其業を政府へ譲り、政府は此際公債を起し賠償に當て其償還は專賣收入を以てす、依て當初十箇年間は之が爲め專賣業の總收入は一年二



- 億二千萬馬なるべしと雖も十箇年經過後は二億四千萬馬に増加すべきを期す
- 二 麥酒税は西曆千九百六年の財政改革に際し新設せられ六千七百萬馬の收入を得るの計畫なりしが議會の修正する所と爲り大に其率を減じ收入二千九百萬馬に減ぜり此度は麥酒に課税し釀造事業の大小に従ひ其率を異にす(原料税及累進税共に良好と云ふを得ず)
- 三 方今醱酵質是も二箇年前の新設なりを除外の外葡萄酒には國税なし本税は累進税にして價格に従ひ一壘十獨片より三馬に至る
- 四 煙草税も累進法に據り葉卷は六級に分ち千本四馬より九十六馬に至り紙卷は七級に分ち千本一馬半より二十四馬刻は一キログラム八十獨片より十二馬八十斤に至る他の煙草は一キログラム半馬より二馬に至り最下等は免除せらる而して葉卷は小賣相場の一割乃至一割三分、紙卷は一割五分乃至二割輸入税は百英斤(メツリツク、カウト)毎に荒刻及嚙(テユイン)煙草三百馬、葉卷及細刻七百馬紙卷一千馬に増加す
- 五 電氣及瓦斯税は事業點燈税にて装置の如何を問はず苟も燃料を是等に採る者は皆課税せらる而して其三割二分は電氣の負擔たるを期す切に望む獨民更

に近眼を加ふるの結果なきを

- 六 公告税は新聞、張出等に課するものとす、日刊の新聞紙は其出數の多少に依り廣告料の二分乃至一割を負するを期し、週刊其他は一定に一割を課す諸張出は其費用の一割を支拂ひ、廣告塔電柱其他使用料を支拂はざる場所に於ては市の廣表に従ひ一千サンチメートル毎に一二又は三獨片を支拂ふものとす
- 七 遺産税は二箇年以前の施設にして現行は遺言に依り支系に傳ふる場合のみ止まる、然るに今回は之を直系相續に擴張し二萬馬以下の財産には之を免除し累進法に依り百萬馬以上に三分を課するを以て限度と爲す、而して遺傳者が兵役を免除されたる者なるときは一分五厘の附加税を負擔し三等系以下は遺傳の權利なきものとし、特に遺言なくして相當の遺傳者なきに於ては其財産は國家に歸すべきものとす
- 八 列邦分擔高は西曆千九百六年の財政方策に従ひ人口一人に付四十獨片と定めしと雖も前記諸收入の不足を補はんが爲め之を加倍するものなり  
爾來之に對して無數の物議を惹起し議論八箇月に亘り政府原案は殆ど其俤を留めず西曆千九百九年七月初旬議會は左の如く議決せり



一	麥酒税の増加	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇
二	火酒及精酒税の増加(専賣は否決)	八〇,〇〇〇,〇〇〇
三	煙草税の増加	四三,〇〇〇,〇〇〇
四	土地賣買印紙税の増加	四〇,〇〇〇,〇〇〇
五	茶及珈琲輸入税の増加	三七,五〇〇,〇〇〇
六	繼足紙税の新設	二七,五〇〇,〇〇〇
七	分擔金の増加	二五,〇〇〇,〇〇〇
八	動産印紙税	二五,〇〇〇,〇〇〇
九	點燈税の新設	二二,〇〇〇,〇〇〇
十	隣寸税の新設	二〇,〇〇〇,〇〇〇
十一	商業手形及小切手税の増加及新設	二〇,〇〇〇,〇〇〇
十二	醗酵葡萄酒税の新設	五,〇〇〇,〇〇〇
合 計		四四〇,五〇〇,〇〇〇

にして政府原案より一層の混雜を來せり請ふ今一步を進めて前記各目の沿革及其性質取扱に就き陳述する所あらんとす

西曆千九百六年までは麥酒税は内地税及關税を合せ六千二十四萬馬に止まり

しが同千九百九年四月よりは一億馬となれり舊法に於ては麥酒税は麥芽に課するものとして釀造所の大小に従ひ之を十級に分ち造石高の多少に依り累進法に依りて課税し四馬乃至十馬の税を課せり而して其最高は七千「クイントル」一「クイントル」は百キロにして凡そ三萬五千「ヘクタール」の麥酒を釀造す以上の製造所に課するものとせり、今回の増税法にては釀造に用ゆる第一の二百五十「クイントル」の麥芽には税金を十四馬と爲し千二百五十「クイントル」以上の麥芽を使用する者には十五馬とし、漸次増加して五千「クイントル」以上には二十馬と爲せり。斯の如くして課税の平均は舊法にては一「クイントル」に付平均七馬三十六斤なりしに今回は十七馬二十斤に増加せり、是れ則ち麥酒一「ヘクトリートル」に付き税金二馬より三馬に増加せしものなり而して脱税を防がんが爲め釀製造用の麥芽には麥酒用麥芽税の三倍を課す又造越の弊を防がんが爲め西曆千九百九年一月以前に設立せられずして同年八月以降に釀造を始むる者及二箇年の休業後に釀造を再開する者には西曆千九百十五年までは五割の附加税を課し同年三月一日より西曆千九百十八年までは之を二割五分に減ずるものとせり、元來獨逸國に於ては麥酒税は是に止まらず更に市町村の附加税あり、其最高は一「ヘクトリートル」六十五片な



りとす、其他尙ほバイエルン、ウエルテムボルヒ及バデンに於ては麥酒の通過税あり、是れ昔日の内地關稅の俵を残すものにして頗る奇異の思あり、其金高は一ヘクトリートル二馬五十片なりしに今回五馬に増加せられたり而して輸入税は九馬四十四片と定められたり

獨逸は二十五年以來火酒及酒精税に就て大に之が研究を爲し種々に之を試験せり従前は聯邦其法を異にし、大に不便を感じたるを以て帝國政府は西曆千八百八十六年一專賣法を議會に提し是に依て三億馬の收入を得併せて制度の統一を圖らんとせしと雖も不幸にして議會の容るゝ所と爲らず專賣案は殆ど滿場一致を以て破たり然りと雖も火酒税は税中の最良者たるは多辯を要せず、此好財源を區々の制度の下に置くは財政上得策に非ざるを以て西曆千八百八十七年之を整頓し南北に於て蒸溜高を區分し北方は氣候寒冷從て其需用多きを以て蒸溜高を一人に付四「リートル」半(一「リートル」は五合五勺強)とし、南方に於ては之を三「リートル」と爲し制限以内の製造者には一「ヘクトリートル」五斗五升四合四勺強に付き税金を五十馬と爲し、制限を超過する者には七十馬と爲したり、此制限は他日帝國政府が專賣を試みるの下地にして政府は常に專賣を希望し今回の增收計畫にも第

一に主張せり然れども議會の容るゝ所と爲らず不幸にして復た破れたり而して増税は一「ヘクトリートル」に付百二十馬一片にして前記制限以内には殊に之を輕減して百四馬二十片とす、酒精の輸入税は百「キロ」(一「キロ」は二百六十六匁六分六厘餘)に付三百五十馬、樽入蒸溜酒は二百七十五馬其他は酒精同様三百五十馬に増加せり、壘子入葡萄酒税は議院に於て之を否決し、酸酵葡萄酒のみに止め西曆千九百九年八月一日以降は一壘四馬の者までは其税金を一馬とし、五馬までは二馬と爲し其れ以上は三馬と爲せり而して輸入税は百八十馬とし(一箱半)場合に由り百三十馬にまで引下るを得るの機能を政府に與へたり

煙草製造は獨逸に於ては可なりの大事業にして大小の製造所一萬箇所ありて二十萬の勞働者を使用す、元來獨逸に於ける煙草業には種々の關係ありて事情頗る復雜す則ち帝國政府は歳入を得んが爲め之を國家の手に收め專賣事業を爲さんことを熱望し、社會民主黨は彼等一種の手段として努力して之に反對し、地主黨即ち例の農業黨は煙草に關しては彼等の地面に生ずる馬鈴薯、穀物及び甘菜より製造する火酒「アルコール」及び砂糖の如く熱狂せず寧ろ之を冷眼視するの情態なり、然るに社會民主黨は煙草に對する諸税は其性質上之を喜ばざる所にして煙草



税問題に於ては政府常に受太刀の地位に居るの不幸あり。元來獨逸の煙草税收入は増税前は九千八百萬馬にして人口六千三百八十萬の大帝國としては頗る輕微なるものと謂つ可く一人當り僅かに約一馬五十四片に過ぎず之を佛國の三億餘馬一人當り七馬六十八片英國の二億八千六百六十萬馬一人當り六馬四十片伊太利の一億四千八百萬馬一人當り六馬七十二片奧斯太利の一億五千四百四十萬馬一人當り五馬四十片に比し實に同年の論に非ず又税額と小賣價格とを比較するに獨逸に於ては税額は小賣價格の一割三分八厘に止まり英は五割九分伊太利は七割九分佛は八割二分西班牙は七割ホンガリーは六割七分北米合衆國は二割二分五厘に達し何れの方面より之を見るも獨の煙草税は猶ほ増加の餘地あるものと云はざるを得ず帝國政府が煙草收入に腐心する抑々亦故あるなり

獨逸に於ける煙草税は種々の變化を經當初は耕地税なりしがピスマルク公は之を國家の專賣事業となさんと欲して成らず一敗地に塗れ其後ち莨葉の量目税となり内地産には百キロ四十五馬とし輸入品には八十五馬と爲し而して輸入製造煙草には重加率を課せり西曆千八百八十八年專賣説を再興せしと雖も復た行はれず一億七千八百四十萬馬の收入を見込みり同千八百九十三年政府は送狀價

格に據り累進税を課するの議案を提出せしに議會は箱に貼用したる定價付に依り累進するものとし之を紙卷のみに適用すべしと議定せり而して西曆千九百七年の實況に據れば國民煙草の消費高約六億五千三百六十萬馬にして今回の増收案は之を標準とし他日專賣を行ふの便に供する爲め成るべく工場の場合を希望せり製造者も之を内外の事情に鑑み勢ひ増税の已む可からざるを察し量目税を以て多少の増税を忍ぶべしと覺悟せり然るに中央黨は累進重加税を主張し保守黨之に賛成し事情漸やく復雜せり然れども結局大に原案の收入額を減じ紙卷に關しては西曆千九百九年九月一日より其他は同年八月十五日より新法を施行するものとせり今回の新法は(一)素葉輸入税(二)葉組其他多少手入したる葉煙草及製品(三)内地産葉煙草税(四)内地製品(五)増税の四部より成立し素葉の輸入税は八十五馬(百キロ)砂拂葉分したる者及刻み粉煙草は八十五馬乃至百馬葉組以上の工を加へたる葉煙草にして半成品と稱するものには百八十馬乃至二百十馬四十片香氣を附したる莨葉には七百八馬葉卷には二百七十馬低に失す原文に誤植あるが如し紙卷は千馬なり而して輸入煙草には更に船荷證書の價格に従ひ四割の從價税を課す(素葉と葉卷に限る)莨葉の輸入者は其本籍賣渡人の姓名等産地價



格買入の日附等に付き申告を爲すを要す。獨逸の中等煙草烟(ブランテーション)の産出品にして其種類が問題となるときは同様の申告を要す。賣渡人が外國に駐在するときは其送狀價格は其地に在る獨逸領事の證明を要す而して申告價格と送狀價格が符合せざるときは五割の附加税を課し、申告が低廉に過るときは評價人を命ず。帝國政府は申告價格に五分を加算したる價格を以て先買を爲すの權利を有す、政府が先買を爲さざるときは輸入者は評價人の定めたる價格に基き租税を支拂はざるを得ず。然らざれば二箇年以下の禁錮及十萬馬までの罰金に處せらる而して見越輸入を防がんが爲め外國品の内國にある者は盡く新税を課するものとせり。今回の増税に於て内國産莢葉の葉組等の手入を爲したる者は従前の「クインタル」四十四馬三十六片より五十六馬九十六片に増加せられ、又内國産に係る紙卷用の莢葉及紙卷は小賣價格に従ひ千本(葉は千本分)に付二馬乃至十五馬の累進税を負担し、輸入の紙卷用の莢葉は「キロ」に付八十片乃至七馬、紙卷用の紙は千本分に付一馬を増加せり。

政府提出の遺産税は全敗の運命に終れり、元來本税は今より三箇年前の新設に係り遺言に依り支系に傳りたる場合に限るものなり、依て今回は之を直系相續に擴張し二萬馬以下の財産には之を免除し累進法を採り百萬馬以上に僅々三分を課するを限度と爲し受遺産者が兵役を免れたる者なるときは一分五厘を附加し三等系以下には遺産を受るの權なきものとし、特に遺言なくして相當の受産者なきときは其財産は國家に歸するものとし方法頗る穩當にして税額甚だ輕微なるものなりしと雖も不幸にして否決の運命に罹れり、然れども議會に於ても無責任の否決は之を爲すべきに非ざれば種々代用物の發見に腐心せり。然るに聯邦分擔金は多く之を増すを好まず種々考究の上終に動産不動産の自然増價税を主張せり。蓋し自然増税とは財産が其の所有者の力に依らず社會經濟狀態の進歩に由りて自然に増價するに當り其増價部分に課税するものにして税法の好良なるは其右に出るものなく實に一世の選を盡すものと云ふ可し、然れども之を動産に及ぼすは到底爲し得べきの業に非ず而して自然増價の度合に於ても土地の如き供給に限りある者に於ては固より動産と比す可きに非ざるなり、是に於て政府は之を不動産(土地なり)に限るは妨げなきも動産に及ぼす可らずと爲し不同意を表せり、議會も之を諒し終に土地に限ること、爲し西曆千九百十一年四月一日より之を行ふものとし、其以前に法案を提出すべきを約し其までは土地賣買印紙税の増加



を以て之に代へ新法は既に議決せられ免稅輕減等の要項を定めり即ち其第一は帝國及列邦の君主にして其他は遺傳の土地を分配するの目的を以て受産中に起る賣買交換、小兒及幼者への讓渡、債權者が競賣に依り購買する場合及受産者數人ある場合に於て彼等が他人を交へず相寄りて其財産のみを以て有限責任の會社を組織する場合に於ては各々之を免稅と爲せり而して建物付土地の場合に於ては二千馬、建物なき者に於ては五千馬までの土地にして土地賣買を業と爲す者の間に土地が賣買せらるゝときは輕減を許し又信託會社其他の法人に屬する土地にして容易に賣買に附せられざる者は三十箇年に一回遺產稅の爲に定められたる價格に従ひ其價格の一分の三分の一を支拂ふべきものと爲せり而して法律の發布より其實施までに投機的賣買受授を爲すの弊を防がんが爲め法律實施までに賣買移轉及信託に附する者には一分の三分の二を課す可きものとせり

今回の増價稅率に關して帝國政府は非常の注意を爲し殆ど全力を盡せり請ふ少しく之を述べん

市町村稅として從來行はれたる増價稅は一般に取得代價に對する増價額の比例に依り累進率を用ひ其重さに従ひ愈々率を加へたり是れ課稅を仕拂能力に應

ぜしむるの主義を採るものなり然るにハムベルヒ及伯林に於ては増價額の絶對數に據るを本位と爲し其取得代價に對する比例數の多寡は稅率に對し累進的に附加増額する方法を以て之を斟酌するものとせり政府の原案は全く之に反し増價額の比例數に據るを本位と爲すの外絶對數の如何をも亦附加率の實施に依り斟酌するを得ざるに非ずと雖も原案は其實施を規定せざりし其故は此事を規定するときは納稅義務者は土地を分割して賣却し増價の絶對數をして常に附加率適用の最下限を超えることなからしめ以て累進の目的を妨ぐることを得るにあり

右の外土地所有期間の長短に依り稅率を異にするの必要あり何となれば所有期間の長短に依り土地の賣買の目的は投機的若くは他の事情に據るものと推定するを得るの理由あるのみならず實驗上屢々見る所の現象なればなり况や又増加の生じたる期間短に従ひ納稅能力も亦自ら大なるを常とするに於てをや之に反し時勢の進歩に伴ひ貨幣の購買力減少するの事實と増價の全部若くは其一部分は所有者若くは其家族の勞力に基因すること稀ならずと雖も之を計出するは其困難なるを以て原案に於て控除を許したるは金錢の支出に限るものとせり是



れ亦所有期間の長さに従ひ税率を低減するの一理由なり固より増價を生ずる原因には種々あり之を分類して其幾分は何れの原因より生じたるかを確定するは極めて難事に屬す一般の規定としては所有者の勞力に因る増價例へば土地及其附屬の使用上特に注意を加へ巧者、且勉強に保護したるに因ると公共團體の施設及時勢の變遷に因る自然の増價とを區分するを得るのみ而して茲に問題となるは其後者に屬する増價なりとす大體に於て集約的なる農業園藝及之に類する目的殊に葡萄園並に小工業に使用の土地に在ては増價の原因は所有者若くは其家族の勞力に因るもの頗る多し

原案は是等の諸點を斟酌し左の規定を設けたり

第一 税率は納稅義務ある増價が取得代價の壹割以下なれば之を五歩と爲し夫れより壹割を増す毎に累加して九歩五厘に至らしめ増價の額十割以上に上る者にありては之を十割乃至貳拾割二十割乃至四十割及四十割以上の三段に分ち税率を壹割貳歩まで累加す

第二 土地所有期間十箇年未滿なるときは其少き年數一箇年毎に稅額の七歩を増加す

第三 前項に反し所有期間十箇年以上なるときは納稅義務ある増價の一部分を免稅す即ち十箇年以上第一年目には取得代價の四歩を免じ其れ以上は一箇年毎に其參厘を免稅す

右の率に依るときは所有期間短くして特に利得の多き者は從來の市町村増價稅の平均額に比し其稅額稍々多きに至るべし然れども斯の如き利得は概ね投機的の利得に屬し且此租稅の收入額は徵稅權利者たる帝國各邦國及市町村の三者の爲め相應の收入を生ぜしめざる可らざるの必要あれば多少の加重は之を忍ばざるを得ざるなり然るに委員會に於ては種々原案を修正し左表の如き結果となれり

第二十九表

取得代價に對する 増加額の比例數	所有年數				
	一年	五年	十年	十五年	二十年
五分	一五、五	一三〇、五	一三〇、〇		
壹割	一五、〇	一三七、五	一三〇、〇	四九、二	二六、〇
貳割	一六、〇	一五七、二	一三三、〇	八三、四	六三、二
					二六、三



參	割	原	一八、一〇	一六五、〇	一四四、〇	一〇一、七	七九、二	四〇、六
五	割	修	二〇、一	一九三、二	一六八、〇	一三八、六	一〇三、〇	五六、四
七	割	原	二二、一	一九二、二	一六八、〇	一三八、六	一〇三、〇	五六、四
七	割	修	二四、一	一九二、二	一六八、〇	一三八、六	一〇三、〇	五六、四
十	割	原	二五、五	一九三、七	一七〇、九	一六三、二	一三一、六	七四、〇
十	割	修	二七、八	一九二、二	一七〇、九	一六三、二	一三一、六	七四、〇
二十	割	原	二八、七、八	一九七、二	一八四、五	一五〇、六	一五〇、六	八五、九
二十	割	修	三〇、〇	一九七、二	一八四、五	一五〇、六	一五〇、六	八五、九
三十	割	原	三一、三	二〇〇、九	一九九、七	一七四、四	一六四、四	九五、二
三十	割	修	三三、七	二〇〇、九	一九九、七	一七四、四	一六四、四	九五、二
五十	割	原	三三、三	二〇〇、九	一九九、七	一七四、四	一六四、四	九五、二
五十	割	修	三六、八	二〇〇、九	一九九、七	一七四、四	一六四、四	九五、二

由是觀之修正案に於ては概して税額減少せり

今一步を進めて更に一層實際的なる一例を擧げんに市内に於て若干坪の空地を取得し其取得代價は五萬馬なりしに滿十五箇年の後ち之を拾萬馬にて賣却せりと假定せば之に對する増價税額の計算は左の如し

取得代價	五〇、〇〇〇馬
現實の取得代價	二、〇〇〇、〇〇〇
取得に付ての雜費(代價の四分)	五〇、〇〇〇馬
原案第二十條第三項に依る加算額	二、〇〇〇、〇〇〇

(イ)二千五百馬(即ち二五×一〇〇)	九三七、五〇
に對する二分五厘十五箇年分	
(ロ)四萬七千五百馬に對する	
二分十五箇年分	一四、二五〇、〇〇
合計	六七、一八七、五〇

賣却代價	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
現實の賣却代價	
内控除すべきもの	
賣却に付ての雜費(原案第十五條第一項)	五〇〇、〇〇〇
代價の五厘	
取得代價に對する年三分の利子	二二、五〇〇、〇〇〇
十五箇年分(原案第十五條第二項)	二三、〇〇〇、〇〇〇
小計	七七、〇〇〇、〇〇〇
差引	六七、一八七、五〇〇
之より取得代價	



を控除し差引増價額

九、八一、二、五〇

右の計算に依れば納税義務ある増價額は九千八百拾貳馬五十片にして此數は取得代價の壹割九分六厘貳毛餘に過ぎざるを以て税額は増加額の壹割壹歩即ち千七拾九馬三十七片となるべし、然るに原案第二十條第二項に依れば尙ほ所有年數一年毎に其壹分を低減すべきに由り其壹割五歩に當る百六拾壹馬九十片を控除し實際の納税額は結局九百拾七馬四拾七片となる帝國は其五割即ち四百五十八馬七十三片、各邦國は其壹割即ち千九十一馬七十四片、市町村は其四割即ち三百六十七馬を受くるものとす、是を以て自然的純益五萬馬に對する税額は僅かに九百十七馬四十七片に過ぎず換言すれば三箇の徵稅權利者に向て仕拂はるべき税額は總計利得の壹分八厘三毛餘に止まり其九割八歩壹厘六毛餘は幸福なる利得者に於て之を保有し得るものなり、世之を評して山嶽鳴動して小鼠一疋を出したりと蓋し至言と云つべし、斯の如く増價税は之を以て大國財政の基礎とするに足らず又獨逸特質の投機抑制の功を奏する能はざるなり、須らく英流に據り彈力ある國家の大財源と爲すべきなり

更に一步を進めて出費を加除すべき場合に相當す、今一例を擧げんに茲に五萬

馬を以て土地を購入したるものと假定せん、其者購入後第十六年目に拾萬馬の資本を投じて其上に家屋を建築し同年中地所及家屋を貳拾萬馬にて賣却したりとせん、此場合に於て土地の取得代價及自然増價は前の例に同じとせん、然るときは原案に於ては之が税額の計算は左の如くなるべし

取得代價	五〇、〇〇〇、〇〇
現實の取得代價	一〇〇、〇〇〇、〇〇
家屋建築費	五〇、〇〇〇、〇〇
家屋建築手數料	二〇、〇〇〇、〇〇
取得に就ての雜費	九三七、五〇
貳千五百馬に對する貳分五厘十五箇年分	二八、五〇〇、〇〇
四萬七千五百馬に對する貳分同上	一八六、四三七、五〇
合計即ち推定の取得代價	二〇〇、〇〇〇、〇〇
賣却代價	一〇〇〇、〇〇
内控除すべきもの	一〇〇〇、〇〇



五萬馬に對する年三分の利子

十五箇年分(原案第十五條第二項)

小計

二二、五〇〇、〇〇  
二三、五〇〇、〇〇

果して然らば差引殘即ち計算上の賣却代價一七六、五〇〇、〇〇取得代價は賣却代價よりも高さこと九千九百參拾七馬五十片なり隨て五萬馬の純益を以て實行せられたる賣却が法律上の認定に依れば損失を招きたるものとするの奇怪なる結果を生ず然るときは五萬馬の利得者に對し收稅官署は其實體を調査して土地の賣却に就て損失を蒙りたるの保證を與ふ斯の如きときは帝國々庫より之に損害賠償を支拂ふべきは當然の事に屬す然れども實際斯の如き事は文明國には稀有の場合なり

右の例に於て四萬七千五百馬に對する貳分を計算に加へたるは土地所有期間の終期まで空地のまゝ存し居たるに因る原案第二十條規定の文字より觀れば賣却の時には地上に建物を存せしも規定修正の精神に依れば右の如く計算するを正當なりとす元來家屋の建築は土地と共に之を賣却するの望あるに至り始めて之を實行するを通例とす若し其精神如何を顧みず種々の修正意見を綜合して成

立したる規定を文字通りに解釋し取得代價の一分を以て計算するときは推定の取得代價は拾七萬貳千百八拾馬五十片となり四千參百拾貳馬五拾片の納稅義務ある増價を生じ之に對する稅額參百六拾六馬五拾六片は増價額の七厘參毛餘に當る而して其内帝國は百八十三馬二十八片各邦國は參拾六馬市町村は百四拾六馬六十三片を受くるの計算なり

茶及珈琲輸入稅の増加は政府の提案に非ずして全く議會の創始に係るものなり元來茶、珈琲の消費は砂糖の消費に關するを以て農業黨は之を好まずと雖も今回は國家の必要上終に増稅是等に及べり則ち珈琲は従前は素品百「キロ」に付四十馬なりしに今回は之を六十馬に増加し焙は六十馬より八十五馬に増加し茶は一「キロ」百馬と爲し法律實施までは國中の在庫品は珈琲は二十馬茶は七十五馬の附加税を負擔すべきものとせり繼足紙稅は納稅者に苦痛を與ふること少く好箇の一財源なり本稅は債券の利札を用ひ盡したるとき例へば五十箇年期の債券に二十五箇年分の利札を附せしに之を使用し盡したるときは尙ほ其後の二十五箇年分の利札を要するを以て新たに本券に利札紙を貼付するの手續料として利札紙交付請求者が支拂ふものなり之を公債に用ふれば行政手續料となり會社が爲す



ときは請求者は會社へ手數料を出し、會社は國へ納税する形となる(實際は印紙を貼用するなり)。此度の増税案に於ては内國の商業及土地債券は券面金額の二分、外國物は五分を負擔し、株券(優先株には通例利札を附す)は内外共之を一分と爲せり而して帝國及び列邦債には之を課せずと定めたり(免除の理由なし)。其他の印紙税は多大の修正を経たり、今其舊率、原案及決定の蹟を見るに左の如し

第二十九表

印紙税	舊率	原案	委員の修正	議院の決定
内國株券	二、〇〇分	二、五〇分	三、〇〇分	三、〇〇分
殖民地株券	無税	一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
外國株券	二、五〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
商業及土地株券	〇、二〇	〇、三〇	〇、五〇	〇、五〇
礦山株券	一、〇〇	二、五〇	三、〇〇	三、〇〇
内國債券	〇、六〇	一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇
列邦市町村債、外國鐵道債券及他の外國債券	〇、六〇	一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇
他の外國債券	一、〇〇	一、五〇	三、〇〇	二、〇〇

其他小切手印税は通し十片にして約千三百萬馬を得るを豫期し、外國人間の商業手形、獨逸人が外國に宛てる一覽拂及び十日後拂は之を無税とし、二百馬までの小切手は十片、其より四百馬までは二十片、八百馬乃至千馬までは四十八片と爲す等の舊法は依然之を保存せり而して今回の増税は専ら三箇月以上の者に係り是にて七百萬馬を得るを豫期せり

電氣及瓦斯税は今回の増税案中困難物の一つにて反對四方に起り政府は終に之を撤回し其適用を點燈の一部に止め點燈器の類に據り種々に課税すること、せり燐寸税は政府の提案に據るものに非ずして議院の創始に係り三十箇入の箱には一片、三十以上六十までは一片半を課し、六十以上は六十を加ふる毎に一片半を加へ、蠟製は二十箇入一箱に付五片を課し、大箱は二十箇毎に五片を加へ西曆千九百九年六月一日以降に開設したる燐寸製造所及其以前に開業したる者にして其製造高過去三箇年の平均高を超過する者には法律施行の日より五箇年間は二割の税を加重するものとし、輸入品には三馬を賦課す(一箱なる可し)。是れ亦非常なる不人望の税にして人民は其價格の高きを厭ひ(寧ろ憤りて)火打石を用ふるに至り、製造所は燐寸の兩端に發火薬を付着するに至れり、是れ或は増税不慮の結果に



して物質經濟上多少の利益なきに非らざるなり

是れ有名なる獨逸財政改革(改革に非ず増税計劃なり)の梗概にして同國政治家の苦心經營慘憺たるの蹟歴々として顯はる而かも猶ほ未だ豫期の五億馬を得るに足らず一旦廢止減少と決したる通行税(二千萬馬)及砂糖税(三千五百萬馬)は依然之を存せり而して其効果の如きは日未だ淺ふして何人も之を知るを得ざるも之を西曆千九百六年の小改革に鑑み新税及増税の結果或は意の如くならざらんを虞る唯だ之が爲め國民生活の費用及び生産費の増加は免れざるの數にして商工の發達に利あらざるは論なきのみフランクフォルト時報の如きは法律通過の當時既に一家の經營に一箇月一馬四十八片を加へたりと公言せり豈に輕微なりと云ふを得んや

抑々獨逸は國情紛雜利權衝突して圓滿なる能はず提出以來一大紛擾を生じ改廢度なく終に地價差増税案を提出し(因に云ふ英國に於ても増價税は議院の問題と成り大多數にて下院を通過せり)事情増々複雑し殆ど收拾す可らず然れども今の情態は之を久ふする能はず而かも此度の方策亦之を根治法と云ふを得ず假令無事今日五億馬の不足を補ふを得るも國家大體の組織を改むるを得ず依然と

して現状を保つに於ては期年ならずして復た不足を生ずるは識者を待つて後ち知るべきに非ず堯水一たび去るも湯旱直ちに到らば夫れ何を以て天下を保たん哉切に望む傷春未だ已まざるに復た秋を悲むの患なきを今日獨逸の爲に謀る者は區々財源を求むるに非ずして其國家組織の基礎を定め併せて國土人口の調和を圖るにあり矢高麗を過ぐ誰か能く其落所を知んや幸にして當局多士濟々而して民情亦勤勉なり聊か以て人意を強ふするに足ん乎

獨逸帝國が今回收入増加の方策として發表せし所概ね斯の如し今一步を進めて國債償還の方法を見るに尙ほ未だ往時の減債基金法を夢見るに似たり即ち國債全額を四十三箇年にして償却するを期し毎年之が爲に必要なる資金を積立て複利法を以てピット以前の英國の古智を學ぶにあり而して國債中鐵道電氣事業の如き所謂生産事業に屬する者は三十箇年陸海軍擴張の如き不生産的事業の爲に起りし者は二十二箇年に於て償却するを期す抑々斯の如きの償還計畫は其形狀其趣旨は固より可ならざるに非れども國家百年を通じて平和を期する能はずして其功を奏すること甚だ難し而して償還基金を有するが爲め公債價格を騰躍し新債の利子を減ずる能はず市價を昇騰せしむるは元本を減じ新債を起さざる



にあるは英國財政史の示す所にして方今の獨逸の如く將來五年の間に更に五億馬の公債を起すを期するが如き場合に於ては其効力甚だ微弱にして國家の信用を増進するに足らざるは識者を待つて後ち知るべきに非ざるなり。公債の價格を増加せんと欲せば須らく大に新債の募集を慎み一般經濟の機能を發揚し收支の基礎を固ふし以て市場を整へ一般有價證券價格飛躍の道を開くべし其を是れ顧みず千萬有價證券中獨り公債證書のみを高ふせんと欲し萬一奇術を以て之を爲すを得ば他の有價證券は之が爲に下落するは數の然らしむる所にして國家一般の信用を害ふこと甚だし況や數種公債中の一種を償還し其他の償還を後年に延長するに於てや同國發行同利歩の公債中其價格に著大なる相違を生ずるは蓋し已むを得ざる所の數なりとす。抑々國債政策中元金多大なるの一事は患は即ち患なるも更に患ふべきは國債費の多大なるにあり償還固より力るに足らずと云ふに非ずと雖も更に努力すべきは一般の經濟財政の情況を發達伸張し以て借換を便ならしめ組換を施行して財政を裕かにし後ち進んで以て償還を爲すべきなり而して其償還は毎年の豫算問題に屬すべきものにして之が爲め基金を設くるの不可なるは天下既に定論の存するありグラッドストーン氏の組換ゴッセン氏の

借換の如きは近世英國財政史の光彩にして世傳へて以て美談と爲す獨逸の當局是に做はずして彼に倣ふ又奇ならず哉倫敦經濟雜誌の如きも之を論じて獨逸政府は關稅及貿易政策の如きは往々第十九世紀初期の志想を保持す而して國債償還に至りては尙ほ未だ第十八世紀の舊套を脱する能はざるに似たりと結論す是れ頗る吾人の意を得たるものなり然りと雖も近年に至り我國亦減債基金の設けらるゝあり豈に他山の石視するを得ん哉

獨逸帝國政府の苦心慘憺以て計畫せし所の財政改革の蹟斯の如して新法に據り編製せられたる豫算及海軍計畫は左の如し

第三十表の一

西曆千九百十一年の豫算

經 常		經 常	
入	出	入	出
直 稅	國 債 費	財政行政費	
印 紙 稅	恩 給 基 金		
遺 產 稅			
三二、六六、七〇〇 <sub>馬</sub>	二七九、六三〇、〇〇〇 <sub>馬</sub>		
三六、八〇、〇〇〇	一五〇、五六一、三六〇		



地價自然増加税	一三、七二〇、〇〇〇
間 税	
關 税	六三四、八五六、六〇〇
内地消費税	五六一、六五〇、〇〇〇
官業收入	
鐵 道	一三六、一八〇、〇〇〇
郵便電信	七七八、七〇九、四〇〇
印 刷 局	一一三、三三三、〇〇〇
雜 收 入	
統 計 收 入	一、一五四、六〇〇
帝國税を徴收せざる 地方よりの收入	四五、二六一、六〇〇
消費税を徴收せざる 地方よりの收入	一三八、六〇〇
中央銀行收入	一五、三六二、〇〇〇
行政手数料	六六、五六三、六四〇
廢兵院收入	六、三三三、三八〇

國 會 費	二、〇五八、八八〇
帝國高等官衙費	
宰 相 府	三〇七、八四〇
外 務 省	一八、七二七、三三〇
内 務 省	八八、九三一、一四〇
陸 軍 省	七七五、四一一、九三〇
軍法會議	五三七、三六〇
海 軍 省	三四一、八五三、八九〇
司 法 省	二、四一六、八六〇
殖 民 省	三三、〇三三、三六〇
大 藏 省	二〇〇、九九〇、〇〇〇
鐵 道 院	四七四、六四〇
會計検査院	一、二六六、一〇〇
官 業 費	
鐵 道 費	一〇七、八〇七、七四〇

五六

聯邦貢納金	二〇七、五四二、四〇〇
計	二、六五〇、八二七、一一〇
臨 時	
官有地及不要 要塞賣却代	二、一二七、二〇〇
東阿遠征收入	二、〇三三、三八〇
要塞建築基金 よりの返金	二六四、三〇〇
トウゴ一保護國收入	四七、七四〇
鐵 道	六〇〇、五八〇
郵便電信	二、五三八、六〇〇
國債償還減(利子の 減乎)	八七、六九九、六四〇
造幣局殘金	二一、五三七、〇〇〇
國債募集金	九五、六九八、四〇〇
計	二二二、五五五、八四〇
合 計	二、八六三、三八二、九六〇

郵便電信費	六四八、六七、二八〇
印刷局費	八、七二二、四八〇
計	二、六五〇、八二七、二二〇
同 十 年	三三三、八七六、五〇〇
臨 時	
内 務 省	四八、九四七、六三〇
陸 軍 省	三三、一九〇、八〇〇
海 軍 省	一〇六、七六四、四八〇
郵便電信	二一、五三六、九四〇
鐵 道	一一、二一六、〇〇〇
計	二二二、五五五、八四〇
合 計	二、八六三、三八二、九六〇

第三十表の二

重要經常費科目  
但西曆千九百十一年度

五七



海軍經常費

西曆千九百十一年	俸	給
三三、八五、六〇	三八、二〇、〇〇	
同	常備艦隊費	四七、六〇、三六
九年	艦船及船渠維持費	三五、九三、〇〇
同	兵器及要塞費	一八、四五、七〇
八年		

一時限海軍費は製艦費及兵器費にして膠州灣海軍費を除き一七〇、六一四、五八〇萬馬なり其總額は二五八、四四六、二〇〇馬にして内八七、八三一、六二〇馬は公債支辨なり故に此總額は經常收入と國債募集金なる臨時收入より成立するものなり、曾て西曆千九百年海軍擴張案を決するに當り議會は兵器の費用は總て之を經常費より支辨すべきを決議せり而して船艦價格の遞減は之を年々六分と爲し其補修費も之を經常歳入に仰き造艦費のみは之を國債支辨とすべきを議決せり是れ當然の計畫なり、今獨逸艦體の總價格は一、一三三、六二六、〇〇〇馬にして其六分は六八、〇一七、五八〇馬なり而して西曆千九百十一年度の製艦費は一五五、八四九、一八〇馬なるを以て前記補修費と臨時收入の總額を要す、製艦補充及兵器費は二四五、〇〇五、三八〇馬を要す、殘額一三四、四〇〇、八二〇馬は船渠及倉庫に關する費用なり、抑々獨逸海軍は戰艦三十八隻大廻洋艦二十隻にして西曆千九百十七年まで

の繼續に係り同千九百八年前者の壽命を二十五年より二十年に短縮せしに依り補修費の如きは當初の豫定より大に之を増さざるを得ざるべし、海軍は實に獨逸財政に重き負擔を強ゆる者なり、昨年の増税計畫ありしに拘はらず本年度に於ても尚ほ九千五百六十餘萬馬の新債を起さざるを得ざるの豫定なり

新法完成初年の豫算及近年の海軍計畫の大體右の如し而して其大部の施行せられたる西曆千九百十年度の精算に就て之を見るに商況の回復に因り全體に於ては豫算に對し實收に三千五百七十萬馬の増加を見しと雖も新税は概ね減收を示し、プランヂー税は一億五千三百萬馬を豫算せしに實收入は一億二千六百萬馬に止まり二千七百萬馬を減せり是れ社會民主黨が「プランヂー」に對し不用同盟を企てしに職由すと雖も豫算に於て既に増税案討議の當時に見込みしより二千萬馬を減せしに尚ほ此減少を見るに至れり、點燈税の如きは減少更に甚しく二千萬馬の豫算に對し實收は九百九十八萬馬に止まり半額に達せず、獨民が徵税の爲め如何に燈火を儉約せし哉を窺ふに足れり、視力に關する結果なしとせず鑑みるべきなり、小切手税は増税案に於ては千二百萬馬を得るを豫期せしに豫算に於ては七百三十萬馬を計上し實收は三百五十二萬馬に止まれり、獨逸は英米に比し小切



手の使用甚だ少し本税は其發達を妨ぐる虞なしとせず其他麥酒税、シヤムバン税、煙草税、燐寸税等皆甚だしき不結果を示せり而して新税中土地移轉税、繼足紙税は多額の增收を示し關稅所得税は頗る好況を示し增收總高六千九百四十六萬馬に達せしと雖も減收と差引き前記の増加に止まれり

新法の結果斯の如し今便宜の爲め近年獨逸に於ける直間税及行政費の増加を表出すれば左の如し(直税は巴威耳國を採る)

一 巴威耳に於ける直税の増加

第三十一表の一

税 額 (單位百萬馬)	百 分 比 例	
	西曆千八百八十二年 同千八百九十五年 同千九百九年	西曆千八百八十二年 同千八百九十五年 同千九百九年
地 租	一一・五	一一・五
家 屋 税	三・八	五・八
營 業 税	五・〇	六・八
資本貸附税	三・二	四・五
所 得 税	一・七	二・五
合 計	二五・二	三一・一

税 額 (單位百萬馬)	百 分 比 例	
西曆千八百八十五年 同千八百九十年 同千八百九十五年 同千九百九年 同千九百十年	西曆千八百八十五年 同千八百九十年 同千八百九十五年 同千九百九年 同千九百十年	西曆千八百八十五年 同千八百九十年 同千八百九十五年 同千九百九年 同千九百十年
地 租	一一・五	一一・五
家 屋 税	三・八	五・八
營 業 税	五・〇	六・八
資本貸附税	三・二	四・五
所 得 税	一・七	二・五
合 計	二五・二	三一・一

第三十一表の二

(單位百萬馬)

關 稅	獨逸帝國に於ける間税の増加	
	西曆千八百八十五年 同千八百九十年 同千八百九十五年 同千九百九年 同千九百十年	西曆千八百八十五年 同千八百九十年 同千八百九十五年 同千九百九年 同千九百十年
穀物豆類	未詳	一一・四
珈 琲	〃	四七・三
石 油	〃	四四・六
煙 草 税	一〇・二	一一・〇
紙卷烟草	〃	〃
砂 糖	一八・一	五八・五
鹽	三六・七	四三・〇
ブランデー	三七・六	一一〇・四
シヤムバン	〃	〃
麥酒釀造及移出税	一八・三	二四・八
合 計	二五・二	三一・一



三 獨逸帝國に於ける行政費の増加

第三十一表ノ三 (單位 百萬馬)

	千八百八十一年乃至 八十五年の平均	千八百九十一年乃至 九十五年の平均	千九百一年乃至 五年の平均	千九百十年
陸軍費	三七四・二	五五・二	六七〇・三	八〇八・一
海軍費	四三・九	八四・三	二二〇・二	四三四・〇
外務費	七三	一〇・六	一五・二	一九・〇
殖民費	—	四・八	一九・六	三三・八
内國行政費	—	—	—	—
社會政策費	—	—	—	—
財務費	〇・八	一・〇	一・三	二九・七
癡病院基金	—	—	—	—
恩給基金	—	—	—	—
國債費	—	—	—	—
合計	四六五・三	八三七・〇	一二七五・八	一、七八九・一

〔備考〕 單に行政費にして官業の費用を含みます

帝國財政の概況斯の如くなるに搗て加へて列邦の財政裕かなるを得ず其債額を以て之を見るも一驚に値ひするものなしとせず、即ち西曆千九百八年末の現在高は總額約百四十三億六千二百四十萬馬にして内約七十九億六千四百萬馬は普漏西に屬し同千九百九年には八十七億七千餘萬馬に増加せり而してバイエルン、ザキソン等皆債額を増さざる者なくヘッセンの小なるも前記八年には三億九千八百萬馬の負債を有し、西曆千九百年乃至同千九百八年の九年間に約三割を増加し之を國民一人に割當るときは一人に付き三百六十二馬の負擔となり、普國は同時間に一割二分を増加し其一人當りは二百十四馬なりとす。然れども列邦の負債は軍事に關せず主として有利事業の爲め殊に鐵道敷設の爲に起り前記百四十三億六千餘萬馬中約七十二億萬馬は鐵道公債に屬し之に對する鐵道の資本價格は百三十七億馬にして收益亦七分以上なるを以て公債の負擔は外見の如く重からず又西曆千九百八年に於ける普國の豫算を見るに公債利子は三億二千八百萬馬にして鐵道収入は二億九千二百萬馬なるを以て鐵道は公債利子の大部分を負擔する者と云ふを得べし而して前記年度始に於ける普國の公債は約八十億馬なるに其内約七十一億二千萬馬即ち約八割九分は鐵道礦山其他の有利事業の爲に起



りし者なり故に債額の大なるは一見驚くべきものあるも公債の起因より之を見れば獨逸列邦は頗る好良の地位に居る者と云ふを得べし(市債其他の地方債は無論別なり)然れども大體に就て之を論ずれば列邦の財政亦安穩なりと云ふを得ず、請ふ其大なる普國に就て之を述ん

普漏西財政の概況

普漏西の經費は年に増加し西曆千九百七年度は歳出總計三十二億七萬三千九百三十馬なりしに同八年度の豫算には三十三億六千二百二萬一千六百三十六馬を計上し臨時費に於て約一億八百萬馬を減少すと雖も經常費の増加約一億七千一百萬馬なるを以て總計差引約一億六千二百萬馬の増加を示せり。是れ主として曩に計畫せられたる役員増俸の爲め生ずる者七千七百萬馬を編入したるに由るものあるも鐵道經營等の爲め逐年費用を増加すに職由するものにして臨時費の使用に注意せずんば地日經常費増加の因を爲すの好例と云つべし(同年度鐵道費の増加は昨年に比し一億二千二百六十八萬馬にして、収入の増加は一億六百九十九萬馬なり、收支の比例既に相償はず)而して前記兩年度共歳入出の高に厘毛の差違なく全然同額を掲ぐ是れ亦財政上健全なる表示と云ふを得ず又鐵道収入は前年度に於ては約一億馬の不足を生ぜしに西曆千九百八年度に於ては更に多額を

見積り(約二十億五千二百五十萬馬前年度は約十九億四千五百五十萬馬)たるが如きは或は豫算不確實の因たるなきを保せざるなり。歳出の増加斯の如くなるに普國國債も年に加はり西曆千九百五年の約七十二億八百萬馬より逐年増加し同九年には前記の如く約八十八億七千餘萬馬に達し尙ほ増加の勢あり即ち鐵道事業のみを以て之を見るも目下普國大藏大臣は改良費支辨の爲め二億四千二百萬馬の公債を起すの權を保有す

獨逸帝國西曆千九百十一二兩年度の豫算

第三十二表

經常部

西曆千九百十一年

同千九百十二年

差 増 減

歳 出	西曆千九百十一年	同千九百十二年	差 増 減
永久經常費			
帝國議會	三,二二,二五〇 <sup>馬</sup>	三,二二,二五〇 <sup>馬</sup>	—
宰相府	三,四四,七〇〇	三,四四,七〇〇	—
外務省	一八,五八,六三三	一八,七三,二四七	+
			一三,七六四



內務省	八九,〇四三,七六七	九三,五一〇,二二一	十	四,四六六,三五四
陸軍省	六三六,〇六〇,二七四	六六九,七六三,二六八	十	三三,七〇二,九九四
軍法會議	五一九,八三三	五三一,三二七	十	一一,四八五
海軍省	一六七,二〇七,一五四	一七七,九二七,六五一	十	一〇,七三〇,四九七
司法省	二,八五九,五八〇	二,八五九,一三〇	一	四五〇
大藏省	三七,八三八,五三五	三八,三四五,七〇三	十	五〇七,一六八
殖民廳	二,八八四,一〇四	二,八九一,一一〇	十	七,〇〇六
鐵道廳	四八四,八四〇	四八四,三七五	一	四六五
國債局	二八〇,三五七,七四三	二四七,五六五,〇五五	一	三三,七九二,六八八
會計検査院	一,二九三,三三八	一,三〇六,五三三	十	一三,一九五
恩給局	一四三,五六六,三三三	一四三,四二一,二四八	十	八四四,九九五
郵便電信	六四三,七〇七,八〇五	六六七,八六四,六七九	十	二四,一五六,八七四
印刷局	八,七三八,三三五	八,五六二,八三一	一	一七六,三九四
鐵道現業費	一〇一,九二七,三三〇	一〇三,五六六,九八〇	十	一,六五九,六五〇
財務取扱局	八九,七二六,八九二	九五,三〇一,四六四	十	五,五七四,五七三

四六

永久經常費合計	二,三二六,二四〇,〇六五	二,三七五,〇六七,六二二	十	四八,八三七,五五七
一時限經常費				
外務省	四八二,七四〇	五六八,八〇〇	十	八六,〇六〇
內務省	一,七九九,四〇〇	四四,一八九,五五〇	十	四三,三九〇,一五〇
郵便電信	一八,八八八,五八〇	二四,四八八,五五六	十	五,五九九,九七六
印刷局	一六一,五八四	八七,〇八四	一	七四,五〇〇
陸軍省	六九,五一七,七六九	八三,九八〇,七五七	十	一四,四六二,九八八
軍法會議	—	三,五〇〇	十	三,五〇〇
海軍省	一八一,九一六,六一五	一九六,七三八,六六五	十	一四,八三三,〇五〇
司法省	一一〇,〇〇〇	一一八,六〇〇	十	八,六〇〇
大藏省	六三三,三四三	五六八〇,七五〇	十	五,〇六七,四〇七
殖民廳	一九,六〇八,五三九	二二,六四〇,七五〇	十	三,〇三三,二一一
國債局	五,三九〇,三一一	五,五七八,九七三	十	一八八,六六一
鐵道廳	八一,九八一,一七五	一二,六一七,八七一	十	三,四一九,六九六
財務取扱局	一一,三八四,四三七	一四,一一八,九五三	十	二,七三四,五三六

五二七



一時間合計	三二八,〇八一,四八九	四〇九,八三二,八〇八	十	九一,七四一,三三五
經常歲出合計	二,五四四,三二一,五四八	二,六八四,八九〇,四三〇	十一	一四〇,五六八,八八二
歲入				
經常收入				
郵便電信	七三四,一六一,六〇〇	七八一,三八一,〇〇〇	十	四七,二一九,四〇〇
印刷局	一一,五八八,〇〇〇	一一,七八八,〇〇〇	一	八〇〇,〇〇〇
鐵道廳	一一八,八九三,〇〇〇	一三八,七八〇,〇〇〇	十	九,八八七,〇〇〇
雜收入	七四,八〇八,八六九	七二,三三三,五〇九	一	二,四七五,三六〇
大藏省所管收入	一,五九三,八七〇,〇七九	一,六八〇,七〇七,九二一	十	八六,七三七,八四三
經常歲入合計	二,五四四,三二一,五四八	二,六八四,八九〇,四三〇	十一	一四〇,五六八,八八二
歲出				
臨時費	五〇,〇〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇,〇〇〇	一	四六,〇〇〇,〇〇〇
內務省				
陸軍省	三三,六八九,四〇〇	一六,七六四,三〇〇	一	六,九三五,一〇〇

海軍省	一〇八,九〇九,九一七	八二,五七〇,〇〇〇	一	二六,三三九,九一七
郵便電信	二二,〇〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇		
鐵道廳	一一,三七六,五〇〇	九,一三八,八〇〇	一	三,三三七,七〇〇
臨時歲出合計	二六,九七五,八一七	一三四,四七三,一〇〇	一	八二,五〇二,七二七
歲入				
臨時收入				
不要公債賣却	二,一八三,一五三	三,七九八,六六一	十	一,六一五,五〇九
極東遠征收入	二,〇七六,〇九四	一,六三一,一三八	一	四四四,九五六
減債繰入	一一四,九四六,五六五	八五,二六四,九二九	一	二五〇,〇〇〇
國債募集金	九七,七五五,九三〇	四三,七五八,三三七	一	五三,九九七,五五八
臨時歲入合計	二二六,九七五,八一七	一三四,四七三,一〇〇	一	八二,五〇二,七二七
經常臨時總計	二,七六一,二九七,三六五	二,八一九,三六三,五三〇	十	五八〇,六六一,一六五
殖民地歲出				
經常費	一四,六〇四,八三五	一九,三三二,九二二	十	四,七二七,〇七七



カメルーン	九,七三三,〇一三	九,五八四,六八〇	+	三二,一六六七
ドゥゴ	三,二六二,〇〇〇	三,一五〇,六一〇	-	六五,五九〇
西南阿	三,四九九,〇三三	三,六一〇,二三八	+	一,一〇三,三二六
獨逸新ギニア	二,一八二,四三一	二,七六四,二三八	+	五八〇,七〇七
サモア	九三三,一五五	九四九,八一五	+	一七,六六〇
膠州灣	一三,五三八,六四四	一三,九三九,七三五	+	四〇,一一一
計	六,七四六,三六〇	八五,八一三,一〇八	+	七,〇六五,八四八
殖民地公債	四,七三四,五五〇	六,一五一,五六八	+	一,四三七,〇一八
經常費合計	八三,四七〇,八一〇	九一,九六三,六七六	+	八,四九三,八六六
臨時費				
東阿	一七,六一五,〇〇〇	一七,二五〇,〇〇〇	-	三六五,〇〇〇
カメルーン	一三,三〇〇,〇〇〇	八,〇五〇,〇〇〇	-	四,二五〇,〇〇〇
トウゴ	一,二七五,〇〇〇	二四,九〇〇	-	一〇,一六〇〇
西南阿	九,〇〇〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇	-	—
臨時費合計	三九,〇四二,五〇〇	三四,三三四,九〇〇	-	四,七〇七,六〇〇

五三〇

經常臨時總計	一三三,五三三,三二〇	一三六,三三八,五七六	+	三,七七五,二六六
西曆千九百八年度乃至同千九百一十二年度ニ於ケル帝國ノ總收入				
種目	西曆千九百八年度	同千九百九年度	同千九百十年度	同千九百一十一年度
經常收入				
關稅	六四四,七四五 <small>千圓</small>	五五五,九五六 <small>千圓</small>	六六〇,一二七 <small>千圓</small>	六三一,九〇〇 <small>千圓</small>
内地稅	四〇一,四三八〇	四〇七,六二六七	四八九,三三五,六	五七七,四〇六,一
印紙稅	一三三,六七七,九	一三六,五二四,七	一九四,七二四,七	一九六,七三五,五
地價自然增加稅	—	—	—	—
遺產稅	二六,二六四,二	三〇,〇八三,一	三八,四六三,二	三四,〇〇〇,〇
統計收入	一,五〇八,四	一,四四六,二	一,五八四,五	一,四七七,〇
郵便局	五九七,一六五,〇	六三三,三七六,九	六六七,八三〇,五	六九三,三三六,三
印刷局	一一六,二一〇	一一三,四一四,五	一一九,五八,四	一三,三七六,〇
鐵道	一一一,五三六,八	一一六,四八二,六	一二三,七七,九	一二三,三一九,〇
帝國稅代用トシテ列邦ノ或邦ヨリノ納付金	一一三,二五三,一	一七,三五三,七	一五,九〇九,〇,二	三九,五四五,八
關稅及内地稅代用トシテ或地方ヨリノ納付金	九七,九	八七,二	一一九,〇	一一一,四

五三一



列邦 貢納金	二六、六七七	二一九、九二八	一六九、〇〇九	三二八、五三〇	二二二、〇〇四
銀行 收入	四〇、一三六	三五、六三五	一六、四七五	一六、四八三	一五、五九〇
雜 收 入	九七、八九三	六六、三四一	二六七、七八四	一〇七、九六九	七五、四七四
經常收入合計	二、三六、九九七	二、二〇、三二〇	二、六三三、二七五	二、六六三、〇五〇	二、七〇七、八一四
臨時 收入	二〇〇、八五一〇	三五五、八三三	六七四、八四四	一九〇、七三〇	二二六、九七五
收入 總額	二、五七、八三〇	二、四五六、九三三	三、三〇七、一〇四	二、八五三、七八一	二、九三四、七九〇
經費 總額	二、八〇、八六七〇	二、六八二、七四六	三、三六六、四四五	二、八五三、七八一	二、九三四、七九〇
過 不 足	二、九三、〇四三	二、三三、八三一	四〇、六七五	—	—
西曆千九百十一年度ニ於ケル爲換手形外九種ノ印紙稅純收入豫算					
種 目	豫算 高	種 目	豫算 高		
爲替手形	一七、一九〇	鐵道乘車券	一九、六〇〇		
株券及債券	四九、〇〇〇	自動車免許	二、三五三		
契約用紙	一五、四三〇	醫師開業免許	四四一〇		
籤 札	四、九三五	小 切 手	三、七三四		
船荷證券	一四、九九四	土地讓渡	四三、七〇〇		

合 計 二五、三三五

西曆千九百十年度ニ於ケル輸入稅及内地稅ヲ負擔スル物品稅ノ國民一人當リ負擔高

品 名	月 日	一人當リ負擔高
麥 酒	西曆千九百十年三月三十一日ニ終ル十二箇月	一九三
火 酒	同上	二九
煙 草	同上	一七三
紙卷 煙草	同上	〇三三
砂 糖	同上	二四五
鹽	同上	〇九二
醱酵葡萄酒	同上	〇三五
合 計		一〇六〇

帝國と列邦との合計

今一步を進め帝國財政及列邦の歲入出を加へ獨國財政(市町村は無論別なり)の全體を見るに更に驚くべきものあり、今試みに西曆千九百十年度及同千九百八年度に於ける獨逸帝國及列邦の精算額を舉れば左の如し



第三十三表の一

西曆一九一〇年	入			出		
	經常收入	臨時收入	合計	經常費	一時限費	臨時費合計
帝國	一,三五七,九五〇 <small>千円</small>	九一,一五四 <small>千円</small>	一,四四九,一〇四 <small>千円</small>	一,一八九,七四三 <small>千円</small>	一六八,二〇八 <small>千円</small>	九一,一五四 <small>千円</small>
列邦	二,六三七八四三	一五九,六五三	二,七九七,四九五	二,五六〇,四五四	一一九,三〇八	一三五,七二四
總計	三,九九五,七九三	二五〇,八〇六	四,二四六,五九九	三,七五〇,一九六	二八七,五二六	二二五,八六八
同一九〇八年						
帝國	一,二七五,〇六七	一三三,四二五	一,二九七,四八二	一,一五一,四五四	一六四,二八八	一三八,三八一
列邦	二,五八一,八六九	四〇九,九八〇	二,九九一,八四九	二,三三七,六六八	一四三,九七三	三九二,五八一
總計	三,七五六,九三六	五三三,三九五	四,二八九,三三一	三,四七九,一二三	三〇八,二六一	五三〇,九六二

而して西曆千九百十年度の歳計精算額内譯

同上の二  
歳入

經常	帝國			列邦			合計		
	帝國	列邦	合計	帝國	列邦	合計	帝國	列邦	合計
官業收入									
官有地收入									
森林收入									
鑛山收入									
鐵道收入									
航海收入									
郵便電信收入									
其他の收入									
官業收入計									
租税及關稅									
手数料									
國庫への賠償									
雜收入									
過年度繰入金									
分配金									
經常收入合計									
臨時									
官有地收入									
國債									
其他の國庫債券									
臨時收入合計									
總計									



同上の三  
歳出

	經		常		臨		時		合計
	帝國	列邦	計	帝國	列邦	計	計		
官業費	三六、三五八 <small>千円</small>	一、三六一、三六四 <small>千円</small>	一、七三三、七三三 <small>千円</small>	一五、七〇三 <small>千円</small>	七三、二三四 <small>千円</small>	八八、八三六 <small>千円</small>	一八一、五五八 <small>千円</small>		
國債費	一〇七、五四〇	三三三、五八八	四二二、二二八		四七八	四七八	四二二、六〇六		
貢納若クハ分配金	八六、〇三〇	一三八、一二四	二二四、一五四				二二四、一五四		
行政費	七九〇、一二四	八七六、一九四	一、六六六、三二八	七五、四五三	五三、一〇三	一二七、五五四	一、七九三、八七三		
過年度不足補充	一三、八九六	四九三	一三、三九〇				一三、三九〇		
總計	一、三五七、九五〇	二、六七九、七六三	四、〇三七、七二二	九二、一五四	一二五、七二四	二六八、八六八	四、三五四、五八〇		

又同年度の國債高は左の如し

同上の四

帝國	確定	流動	動	說	明
二、二七六、〇五五 <small>千円</small>	一六三、五三〇 <small>千円</small>	二、一六三、五三〇 <small>千円</small>	〇	國債ハ西曆千九百三年ノ ヨリ同千九百十年ノ	六、九一三、七九二 <small>千円</small> 九、二一八、四三二 <small>千円</small>

列邦	總計
七〇四〇、三六六	九三二八、四三二
三三三、九三七	四九五、四四七
ニ増シタル内 ハ鐵道債ニシテ其内 ハ州ニ屬スルナリ	五、三六〇、七三六 五、三三二、八三九

而して貢納金及分配金額最近十ヶ年の計數は左の如し

同上の五

西曆年次	貢納金	分配金	差額
一九一〇年	一〇九、二二七 <small>千円</small>	八六、〇四〇 <small>千円</small>	二三、一八七 <small>千円</small>
九年	八〇、七八六	五七、五九九	二三、一八七
八年	一六八、三七五	九三、五六三	七四、八一三
七年	一三九、〇九三	九六、七二八	四二、三六五
六年	一三七、五三九	九八、四三九	三九、一〇〇
五年	一三八、三四七	九〇、五〇四	三七、八四三
四年	一一三、一三七	九四、六五四	一九、四八三
三年	二七〇、四八一	二五九、一一九	一一、三六三
二年	二七七、五四五	二六五、八八三	一一、六六三



一年

二七二、九〇四

二六五、六三九

五三六

七、二七五

西曆千九百七年度に於ける帝國及列邦の租税負擔高

同上の六

種目	税額	百分比
直税	一、五六一・〇 <small>百萬円</small>	五二・〇
關稅	六四五・〇	二一・一
内地消費稅	五三三・〇	一七・一
驕奢稅	一七〇	〇・五
讓渡稅	二六二・五	八・六
遺產稅	四五・五	一・五
其他	六〇	〇・二
合計	三、〇六〇・〇	一〇〇・〇

西曆千九百十年度に於ける列邦の收入

同上の七

種目	收入高
關稅及内地稅	一〇八、一〇四・〇 <small>千圓</small>
商工業稅	一〇四、八四九・五
直稅	七二六、一〇五・八
遺產稅	三〇、四五〇・七
鐵道收入	二、七二七、九六〇・五
官有財產收入	一、〇三四、二八〇・八
其他	八〇六、七三八・六
合計	五、五二八、五〇九・九

西曆千九百八年度に於ける十九列邦の租税百に對する所得稅の割合

同上の八九

最	高	最	低	平均
(ロイス分家)	八五	(メクレンボルヒ、ストレリツ)	三六	六四
同千九百十年度に於ける二十三列邦の帝國及州稅一人當り負擔高	最高	最低	平均	
(メクレンボルヒ、ストレリツ)	五四・三〇 <small>馬</small>	(巴)	丁)	三三・七一 <small>馬</small>
				五〇・二〇 <small>馬</small>
				五三元



西曆千九百九年度に於ける普魯士の主要市府五十二に於ける國の所得税に對する附加税率

同上の十

本税百ニ對スル附加率	市府の數	人口
九〇—一〇〇	七	三、〇七五、〇〇〇
一〇一—一二五	四	四八五、〇〇〇
一二六—一五〇	六	六九三、〇〇〇
一五一—一七五	六	一、二七五、〇〇〇
一七六—二〇〇	三	一、四七七、〇〇〇
二〇一—二三五	九	一、〇九三、〇〇〇
二三六—二五〇	六	五六一、〇〇〇
二五五	一	七六、〇〇〇

普國下級人民の負擔

由是觀之列邦の負擔輕きに非ず、今試に普漏西の實況に就て之を陳んに同國は所得税を九百馬(他は概して之より低し四百馬に下る所あり)の歳入より始む今之を英の三千二百馬に比して固より同年の論に非ざるなり故に英に於ては中流以

柏林市民の負擔

下は所得税を免るゝと雖も獨に於ては然らず千八百八十四萬五千八百二十六人則ち人口の約半數(四割九分七厘)は所得税を負擔し之を英に比し十分の九の多きを致す而して普國の所得收入は(西曆千九百七年)法人の負擔する者を除き總額一億八百萬馬にして約九億六千五百萬馬即ち八割九分六厘は三千馬以下の收入の負擔する所なり、此階級に屬する收入の平均は千三百四十五馬なるを以て其多數は平均と最低即ち九百馬の間に在る者と推定するを得べし而して三千馬以下の收入は家族同居人の收入を合計するものにして累進率は低しと雖も強もすれば役人が押上主義を採り之を大收入に比して多少不幸なる地位にあるものとす、然りと雖も是れ唯普國の徴する者にして市は又別に所得税を課す、西曆千九百六年の柏林市所得税の調査の蹟を見るに該市は所得税を八百六十馬の收入より始め人口二百四萬百四十八人中十四歳以下及兵役等の爲め免税せらるゝ者を除き百十二萬五千人の約半數は最低以下の收入を得る者にして課税を免れ、残り六十萬八百九十九人は所得税負擔者なり、内八百六十乃至千四百四十馬の收入者三十一萬五千六百十人、其れ以上二千八百六十馬の收入者二十二萬六千六百七十八人、其れ以上は僅かに五萬八千六百十一人にて此内四萬六千二百六人は千八百六十馬、其



れ以上九千五百二十馬までの収入者にして一萬八百十五人は其れ以上四萬七千六百馬までにして千百十四人は其れ以上九萬五千二百馬まで四百七人は其れ以上九十萬四千馬まで四人は其れ以上二百八十六萬馬まで其れ以上は僅かに二人に止まる、普國人民の負擔固より輕きに非ず而して其大歳入の少き亦豫想の外に出るものと云ふべし

普漏西の豫算は頗る多額に上り西曆千九百八年度の決定額は歳入總額約三十三億六千二百萬馬にして歳出總額約三十三億六千二百萬馬内約一億八千八百萬馬は臨時費に屬し同九年度の歳入總額は約三十三億八千二百萬馬、歳出總額は同額にして内約二億三千百萬馬は臨時費に屬す而して同千九百十年度の豫算は收入總額三、八三七、四一二、九六三馬にして歳出は經常費三、七二五、〇一九、五四二馬臨時費二〇四、三九三、四二一馬にして合計三、九二九、四一二、九六三馬なり故に九千二百萬馬の不足を生ず各廳の請求通りにては二億千七百萬馬の不足を生ずべき所に大歳省にて大削減を加へ前記の額に止めたり故に各廳は決して満足して居らず他日の新請求は勢の免れざる所なり此不足は主として官吏増給に原因し其高二億馬を超過す加ふるに西曆千九百八年度の不足は一億五百萬馬にして同九年

度の不足は一億五千六百萬馬に達するの見込なりしも幸にして商況少しく恢復し精算上の不足は一億五百萬馬に止まるの見込なり

普漏西國最近二箇年度の豫算

第三十四表の一

歳入		歳出	
千九百十二年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十一年
經 常	農 務 省	經 常	農 務 省
官 有 地	二九、四一八、三〇〇	官 有 地	一〇、一六九、一八〇
森 林	一三八、二九五、〇〇〇	森 林	六〇、九〇八、〇〇〇
計	一六七、七二三、三〇〇	計	七〇、六四六、一八〇
内御料林收入	七、七一九、二九六	大 藏 省	二五、一七七、七〇〇
差 引 殘	一五九、九四四、〇〇四	直 稅	三、三六五、〇〇〇
大 藏 省		内 地 間 稅	五、一〇八、一〇〇
直 稅	四三三、〇六八、六〇〇	籤 札	一四七、二六八、七九三
			一四七、二四〇、四五六



內地間稅及關稅	二五,三九九,〇〇〇	二九,三五〇,〇〇〇	造幣局	四九六,八八〇	四六四,二八〇
鑛	一五九,八八六,六〇〇	一六〇,一七八,六〇〇	計	二二五,〇五四,一八三	二二二,三三四,二六
國立銀行	五,三四〇,六〇〇	四,九七八,六〇〇	商工省		
造幣局	七五八,五二〇	七七七,九〇〇	鑛山、製鐵及鹽業		
計	七四,八九三,三二〇	六八九,五九〇,四〇〇	現業費	二六一,七八九,一九七	二六二,九九一,三二〇
商工省及教務省			行政費	五,六三七,九〇〇	五,五五四,七三〇
鑛山、製鐵及鹽業	二九〇,〇七三,三二〇	二八四,八八九,三九〇	計	二六七,四二七,〇九七	二六八,五四五,九四〇
鐵道省			鐵道省	一九八,四〇七,〇〇〇	一八四,七七二,〇〇〇
鐵道收入	二,三三一,〇五三,〇〇〇	二,一八一,七六四,〇〇〇	財務行政費		
財務行政收入	五九七,四九五,九八五	七四三,六二八,九二八	御料林	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
司法省	二六〇,三三六,八三一	二四三,六二八,八二七	公立學校債利子	三四八,七五三,六六六	三三六,〇一七,六八八
經常合計	四,二六三,八四六,四五〇	四,〇三四,八〇六,〇四九	同元金拂	五六,五七三,二四四	五七,一九〇,〇六三
臨時			建物借入費	三,一三〇,五〇〇	三,二四〇,〇〇〇
官有地	六七三,五〇〇	五,九〇〇,〇〇〇	取扱費	一,五七五,八五〇	一,四四九,九五〇
森林	六九六,〇〇〇	八,八〇〇,〇〇〇	會議費	二,二六九,六五〇	二,二八四,八〇〇

五三四

鐵道	四,三五四,〇〇〇	六,一五八,〇〇〇	貢納金	一四六,六七六,一一〇	一三二,一九〇,七五七
大藏省	一九〇,〇〇〇,〇〇〇	二九,九〇〇,〇〇〇	王室費	一〇二,六六一,一五六	一〇〇,一六九,〇四〇
鑛山、製鐵及鹽業	二八,〇〇〇		ルシヘルニヤ及ヘ	三二六,八八三	二九七,四九九
司法及教務省	三二八,八〇〇	六七〇,七〇〇	計	六七,一九五六,〇五九	六四二,五五六,六一四
臨時合計	三七,三九五,八〇〇	五,一四三,八七〇	國家行政費	三,九二二,三五一	三四,一三三,三八〇
總計	四,三〇一,二四二,二五〇	四,〇八六,三三四,七四九	國務省	五八四,六〇〇	五八七,八〇〇
			外務省	二二,五〇二,五八〇	二〇,八〇一,三二〇
			大藏省	四五,三九〇,八七三	四四,三三九,八二五
			商工省	一九八,〇九〇,〇〇〇	一六一,六七六,〇〇〇
			鐵道省	一四二,〇五〇,三四〇	一三三,三五七,四八八
			司法省	四八,三七六,四〇九	四五,三三五,六一三
			農務省	二六五,八七三,七五一	二六〇,六一五,四四六
			教務省	一七九,九〇八	一八一,五九八
			兵器局	八五二,〇三五,三八一	八一九,三四九,六〇六

五三四



	經常合計	四、〇七三、三四九〇〇	三八七、二八四、四九六
	一時限リ及臨時費	三、八〇七、三五〇	二、四〇五、二五三
總計		四、三〇一、二四三、二五〇	四、〇八六、三三四、七四九

差

普國財政亦困難なる哉然り而して同國歳入の特色は官有財産及官業の多きこと是なり、森林收入の如きは總收入一億一千一百萬馬純收入五千八百萬馬森林面積は僅かに二百八十萬ヘクタール一ヘクタールは一町二十四步強の巨額を生じ、其他の官有財産收入は七千七百萬馬にして純收入は千七百萬馬なり、今兩者の總收入と純收入とを比較するに一見後者の方に利あるが如しと雖も前者は増加の傾向ありて後者は却て減少す、其實歴左の如し

第三十四表の二

西曆年次	官有財産	森林
一八四九乃至六一	八二分	四八分
一八六八乃至八〇	七四	四三
一八八一乃至九〇	七三	三九

西曆年次	官有財産	森林
一八九一乃至九九	七二	四二
一九〇七乃至八年	六〇	五二

斯の如き差違を生ずる所以のものは造林、整理、利用の結果漸次に顯はれ森林の利用は國家歳入の爲め非常に有望なる者たるを示すものに非ずして何ぞや、之に反し他の官有財産は收入増加の術を施すの範圍甚だ狹隘なり、其差違歴然として争ふ可らざるものある固より偶然に非ざるなり、又森林收入増加の實況を見るに西曆千八百九十年には一ヘクタールの收入十馬四十二片なりしに同九十九年には十二馬十一片となり同千九百七十八年には三十九馬四十四片強となれり、之を我國の一町步(北海道を除きて)約一圓七十八錢に比するに固より同年の論に非ざるなり、此好財源に對し目下種々議論あるは甚だ遺憾なり、然るに獨逸聯邦中普漏西は尙ほ森業を以て誇るを得ず、ウルテムポルヒの如きは四十馬、ザキソンの如きは能く四十二馬を擧ぐ實に盛なりと云ふべし、普漏西の官業中是も盛大にして歳入最も多き者は鐵道にして政府は幹線約一萬九千キロメートル(一キロメートルは九町十間)支線一萬二千キロメートルを有し、收入約十八億八千六百萬馬の巨額

鐵道事業



に達す、抑々普國鐵道國有は西曆千八百四十七年十一月二十八日の法律を以て其基を開き爾後數回の買收延長を經以て目下の幹支合計三萬一千「キロメートル」に達し普國政府が之が爲め投下せし資本總額は八十億馬にして運賃率は自ら之を定むと雖も他に帝國鐵道廳なる者ありて其支配を受け現業費は總収入の六割八分乃至七割一分にして輒近多少増加の傾きあり其他鑛山、鹽業等種々の製造業を營むも總収入都合二億四千四百萬馬にして費用二億二千八百萬馬に上り總収入は僅々二千六百萬馬に止まり財政上より之を見れば殆ど官業として存するに足らざるなり然れども是等官業は各々特種の歴史引繼、占領、契約等を有し西曆千八百九十九年五月一日の法律を以て其綱領を定め未だ劇かに之が存廢を定むる能はざる所のものあり其他富籤稅凡そ九百萬馬、溫泉稅二百乃至三百萬「ジール」ハング(用達銀行)よりの償還金約四百萬馬(是は西曆千九百七年の數なり)諸會社の政府の持株より四分乃至六分の割賦を受く(會社の株金は五千萬馬あり政府は大株主なり)是等の稅外收入頗る多く普國財政は尙ほ中古の状態を存す奇と云ふべし

租稅收入中最も緊要なる者を所得稅とす西曆千九百七年度は二億二千二百萬

普國收入の特質

諸種の官業

馬と見積り九百萬馬の歳入より之が徵收を始め國民の半數即ち約千七百萬人は納稅者にして其内五百三十八萬四千人は家長なりとす其他法人にして所得稅を支拂ふ者七千人被賦課財產高は百二十億馬なり所得稅負擔者は自然市に多く田舎に少し則ち市の人口千七百萬の中約千萬は之を負擔し田舎人口千八百萬中之を負擔する者は八百萬人に達せず今試みに收入の大小納稅者人員及負擔金高の千分比例を示せば左の如し

第三十五表の一

西曆千八百九十七年		同千九百七年	
收入の大小	金高	金高	人員
九〇〇 乃至 三、〇〇〇	二八六、〇	五二五、九	八九六、〇九
三、〇〇一 乃至 六、五〇〇	一六三、二	一五七、八	七一、九二
六、五〇一 乃至 九、五〇〇	九七、八	六八、二	一三、三六
九、五〇一 乃至 三〇、五〇〇	一八六、八	一六四、二	一四、七九
三〇、五〇一 乃至 一〇〇、〇〇〇	一三六、二	一三一、二	三、一八
一〇〇、〇〇〇以上	一三〇、〇	一五二、七	〇、六六